

学際基礎科目・人文科学系	
哲学思想史 a	佐野 好則
前期・2単位	<登録条件> 通年(a,b)の登録が望ましい。
<授業のテーマ> 西洋古代中世の哲学思想史を概観する。	
<到達目標> 各哲学者の思想を他の哲学者の思想との関連に注目して理解する。神学の背景としての哲学の重要性を認識する。	
<授業の概要> 講義とディスカッションを通して、各哲学者の思想の特徴や相互の関連性を検討する。	
<履修条件> 学部1, 2年を主な対象学年とする。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学の始まり 2. ソクラテス以前の哲学者達(1)ーイオニアの自然哲学 3. ソクラテス以前の哲学者達(2)ーヘラクレイトス、パルメニデス、ピタゴラス学派 4. ソクラテス以前の哲学者達(3)ーエムペドクレス、アナクサゴラス、原子論 5. ソフィスト達とソクラテス 6. プラトンの哲学。イデア論 7. アリストテレスの哲学 8. ストア派、エピクロス派、懐疑主義 9. プロティノス 10. アウグスティヌス(1)ー新プラトン主義の影響 11. アウグスティヌス(2)ー時間論、内なる教師 12. アンセルムス 13. 唯名論と実名論 14. トマス・アキナス 15. 神学における哲学の受容 	
<準備学習等の指示> 各哲学者による著作の抜粋を読み、内容について検討しておくことが予習として課される。	
<テキスト> テキストとなる著作の抜粋を毎回配布する。	
<p><参考書> A.H.アームストロング『古代哲学史』みすず書房、1989年 内山／中山編『西洋哲学史、古代・中世篇』ミネルヴァ書房、1996年 熊野純彦『西洋哲学史、古代から中世へ』岩波新書、2006年</p>	
<学生に対する評価(方法・基準)> 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。評価は授業でのディスカッションへの参加とレポート提出により、各哲学者の思想の理解、および相互の関連性の理解の到達度を基準とする。	

学際基礎科目・人文科学系	
哲学思想史 b	田中 敦
後期・2単位	<登録条件> 通年 (a, b) の履修が望ましい。
<p><授業のテーマ> 様々な学問の基礎となる西洋哲学を学ぶ上でどうしても知っておくべき代表的哲学者の思想の基礎的な理解と、それぞれの思想を支え、その理解の手引きとなる基本的諸概念の正確な理解を、できるだけ当の哲学者の言葉を通して理解する。</p>	
<p><到達目標> 様々な哲学の主題と考え方を学ぶことを通じて、それらに共通する哲学一般の基礎的な事柄を理解する。西洋近世哲学の歴史を学ぶことを通じて、現代という時代について、そしてその思想的課題についての問題意識を持ち得るようにする。特に神学、キリスト教思想との関連において現代における哲学の可能な役割と意味を考えることができるようになる。</p>	
<p><授業の概要> ルネサンス以後の西欧の哲学の諸学説について、特に経験論と合理論の基本的な違い、それぞれの正当な根拠、両者を統合したカント哲学の理解を得た上で、カント以後の哲学の主要な哲学者の考えも辿る。それと共に、哲学の基本的な概念、例えば実体、属性、観念、分析、総合などの意味の正確な理解を期す。</p>	
<p><履修条件> 特にありません。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 哲学とはどういうものか。それは信仰、神学の理解にとってどのような意味を持ち得るか。近世ヨーロッパの哲学の概観とその特徴、現代の哲学の状況。 2. 過渡期の哲学としてのルネサンス哲学（プラトン主義の復興、アリストテレス哲学の復興、人文主義）。 3. 17世紀の哲学の二大潮流（英国経験論と大陸合理論）。フランシス・ベーコン。学問の革新と認識の方法の探究（イドラ批判と未知の真理探究の方法としての帰納法）。 4. デカルト1.（生涯、方法の探究と懐疑、実体の意味、普遍的な方法的懐疑と合理的体系）。 5. デカルト2.（精神と物体の二元論、心身合一の難問、情念と道徳）。 6. パスカル（理性と心情、三つの秩序）と機会原因論（心身の関係について）。 7. スピノザ（感情の奴隷から自由な存在へ、認識の三段階、神即自然の一元論）。 8. ライブニッツ（実体の多元論、モノイドと予定調和説、二つの原理と二種類の真理）。 9. イギリス経験論の流れとロック（心は白紙、実体の複雑観念、抽象一般観念）。 10. バークレー（抽象一般観念の否定、物体の存在は知覚されること）、ヒューム（因果関係の客観性の否定、二種類の関係と観念連合、知覚の束）。 11. カントの批判哲学（ア・プリオリな総合的判断の可能性、コペルニクスの転回、現象と物自体、二律背反、実践理性の優位、定言命法）。 12. ドイツ観念論の哲学、フィヒテ（知識学、事行）、シェリング（同一哲学、人間の自由と悪の存在）。 13. ヘーゲル（弁証法、精神現象学、理性の狡知、歴史哲学）。 14. ヘーゲル以後の哲学の展開、ケルケゴール（実存の三段階）とニーチェ（超人と永劫回帰、ニヒリズム）。 15. ニーチェ以後と現代の哲学の展開。特に現象学の有する意味を中心に（新カント派、実証主義、プラグマティズム、分析哲学、現象学）。 	
<p><準備学習等の指示> 授業で用いる資料を予め配布するので、それを授業に先立って読んでおくことが授業内容の理解を助ける。少なくともその資料に目を通して、どのような問題が取り上げられるか、また理解の難しい点、疑問点などを必ずチェックしてから出席して欲しい。</p>	
<p><テキスト> 事前に資料を配布し、その内容の理解を中心として講義を進めます。</p>	
<p><参考書> 岡崎文明、日下部吉信他著『西洋哲学史』昭和堂、1994年 波多野精一著、牧野紀之再話『西洋哲学史要』未知谷、2001年</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> レポートの評価を基にして、授業への積極的な参加態度と発言の評価を加える。レポートは12月中に最初の草稿を提出し、コメントを付して返却されるその草稿に更に手を加えて最終レポートの形で学期末に提出する。出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・人文科学系	
キリスト教と世界史 b	小宮 正安
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ>いわゆる「西洋クラシック音楽」を文化史的な視点から捉えることを通じて、中世から現代にいたるヨーロッパの歴史を俯瞰しながら、キリスト教文化の変遷やヨーロッパの文化の特質を学びます。</p>	
<p><到達目標>音楽社会史・音楽文化史的な視点から、キリスト教文化の変遷やヨーロッパの文化の特質を学び、知識を深めることができます。</p>	
<p><授業の概要>中世から現代にいたるいわゆる「西洋クラシック音楽」の変遷を文化史的に辿りながら、それぞれの時代における宗教観や社会観について、芸術史、科学史、社会史等の視点も織り交ぜつつ、ヨーロッパの社会や文化の奥底に渦巻くものを学んでゆきます。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション・概論 2. 中世の身体観とグレゴリオ聖歌の興隆（～15世紀） 3. ルネッサンスのパラダイム転換と音楽の変容①（16世紀前半） 4. ルネッサンスのパラダイム転換と音楽の変容②（16世紀後半） 5. バロックの「揺り戻し」と複雑化する音楽①（17世紀前半） 6. バロックの「揺り戻し」と複雑化する音楽②（17世紀後半） 7. ロココと啓蒙主義が音楽にもたらしたもの①（18世紀前半） 8. ロココと啓蒙主義が音楽にもたらしたもの②（18世紀後半） 9. 市民社会の到来と音楽の神格化①（1800～1825） 10. 市民社会の到来と音楽の神格化②（1825～1850） 11. 市民社会の成熟と拡大する音楽①（1850～1875） 12. 市民社会の成熟と拡大する音楽②（1875～1900） 13. ヨーロッパの危機と音楽の新時代①（20世紀前半） 14. ヨーロッパの危機と音楽の新時代②（20世紀後半） 15. 総論・まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p> <p>『名曲誕生 時代が生んだクラシック音楽』小宮正安著（山川出版社）</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>授業への参加度、レポートや試験を総合的に見て評価します。</p>	

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目選択換算	
キリスト教と芸術 1 美術史 a	真下 弥生
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 美術／造形芸術表現をさまざまな角度から見つめる。</p>	
<p><到達目標> 美術／造形芸術表現を、自身の目や視覚以外の感覚をも動員して、多角的・批判的に分析する視点を培う。</p>	
<p><授業の概要> 美術（主に視覚を用いて鑑賞する造形芸術表現）における多角的な分析方法を、実習を交えながら学ぶ。キリスト教に関わる美術作品のみならず、他宗教、非宗教美術の作品も幅広く比較しながら、広い視野で作品に向き合い、さまざまな角度から検討する。</p>	
<p><履修条件> 高校レベルの歴史（世界史、日本史、他）の学習経験があるとよいが、未履修者も歓迎する。</p>	
<p><授業計画>（予定。受講生の関心に合わせて変更する可能性がある）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、「美術」とは何か 2. 美術表現の多様性 3. 「キリスト教美術」とは何か 4. 美術表現の分析 1・絵画／二次元作品を元に：構図—まず観察すること 5. 美術表現の分析 2：主題 6. 美術表現の分析 3：素材と技法 7. 美術表現の分析 4：歴史的背景・コンテキスト 8. 美術表現の分析 5：展示方法・見せ方 9. 美術表現の分析 6：総合演習 10. 美術表現の分析・彫刻／三次元作品 1：分析手法の応用 11. 美術表現の分析・彫刻／三次元作品 2：公共空間と美術 12. キリスト教建築（礼拝堂建築）1：草創期 13. キリスト教建築（礼拝堂建築）2：中世 14. キリスト教建築（礼拝堂建築）3：近現代 15. まとめ・総括 	
<p><準備学習等の指示> 好奇心と柔軟な思考をもって、授業に臨んでほしい。美術館やギャラリーに積極的に足を運び、芸術表現に親しむことを勧める。また、授業を通して、学問的誠実性（academic integrity）の姿勢を培うことを期待する。</p>	
<p><テキスト> なし（講義ではスライドを映写し、プリントを配布する）</p>	
<p><参考書> 講義内で指定する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末試験（50%）、美術展のレポート（50%）を総合して評価する。試験は、講義内容の理解度を確認し、美術展レポートは、作品や展覧会全体から受けた印象および踏み込んだ分析を、自分の言葉で記述することを目的に行う。出席が全体の2/3に満たない場合は、評価の対象としない。</p>	

学際基礎科目・人文科学系、専門教育科目選択換算	
キリスト教と芸術 1 美術史 b	真下 弥生
後期・2 単位	<登録条件> 前期 a の履修を前提とするが、未履修者も可
<授業のテーマ> キリスト教と美術／造形芸術表現の相互関係を探る。	
<到達目標> キリスト教に関わる文化の諸相を、美術／造形芸術表現を注意深く分析・検討することを通して探求する。	
<授業の概要> 前期で学んだ美術／造形芸術表現の分析手法を基盤に、キリスト教世界の文化、その底流に流れる精神のありようを探る。日本をはじめとする非欧米圏の美術や、伝統的な美術表現の枠を更新・横断する現代美術も取り上げ、グローバル化の進む近現代社会におけるキリスト教の姿をも検討する。	
<履修条件> 前期 a の履修を前提とした内容となるが、未履修者は相談に応じる。 また、高校レベルの歴史（世界史、日本史、他）の学習経験があるとよいが、未履修者も歓迎する。	
<授業計画>（予定。受講生・後期からの新規受講生の関心に合わせて変更する可能性がある） <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、前期講義の復習、美術とは何か 2. 西欧キリスト教美術の流れ 1：初期からの流れ 3. 西欧キリスト教美術の流れ 2：現代まで 4. キリスト教美術の誕生：初期キリスト教美術の表象の模索 5. キリスト教美術と素材 6. 日本のキリスト教美術 1：安土桃山・江戸時代 7. 日本のキリスト教美術 2：明治時代以降 8. 物語と美術 1：視覚芸術表現を通して物語を語るということ、旧約聖書物語 9. 物語と美術 2：旧約聖書物語 10. 物語と美術 3：新約聖書物語（イエスの誕生） 11. 物語と美術 4：新約聖書物語（イエスの生涯） 12. 物語と美術 5：聖人伝説・伝承 13. 現代美術とキリスト教 1：表現の蓄積と連関 14. 現代美術とキリスト教 2：現代の諸問題と美術 15. まとめ・総括 	
<準備学習等の指示> 好奇心と柔軟な思考をもって、授業に臨んでほしい。美術館やギャラリーに積極的に足を運び、芸術表現に親しむことを勧める。また、授業を通して、学問的誠実性（academic integrity）の姿勢を培うことを期待する。	
<テキスト> なし（講義ではスライドを映写し、必要に応じてプリントを配布する）	
<参考書> 講義内で指定する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末試験（50%）、美術展のレポート（50%）を総合して評価する。試験は、講義内容の理解度を確認し、美術展レポートは、作品や展覧会全体から受けた印象および踏み込んだ分析を、自分の言葉で記述することを目的に行う。出席が全体の 2/3 に満たない場合は、評価の対象としない。	

学際基礎科目・社会科学系	
法と人権 1 法学概論	佐々木 高雄
前期・2単位	<登録条件> 特になし
<授業のテーマ> 法律問題を嫌悪せず「まずは、自分で考えてみよう」との意欲を醸成する。	
<到達目標> ①身近に起こる法律問題を論理的に捉える訓練を行う。②一見、特別な印象を受けるかもしれない「法学的思考」だが、そうした違和感を緩和する。③日常生活に必要な「法律用語」のいくつかを学習する。	
<授業の概要> 「人が定めた規則に、なぜ従わなければならないのか」との問題を考えたいうえで、日常生活に必要な法律上の知識を——ほんの一部にとどまるが——修得する。そして、その背後に潜む理念を探りたい。	
<履修条件>特になし	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 法と法律の違い／正義の女神が持つ「秤と剣」の意味／ノートの取り方 2. 法律解釈の方法／「可能な解釈」と「採るべき解釈」／本の読み方 3. 出生にかかわる法律（権利能力／自然人と法人）／レポートの書き方 4. 基礎的事項（一般法と特別法／年齢の数え方と期間計算法／条件と期限） 5. 未成年者に対する保護法制（行為能力① 未成年者でも出来ること） 6. 老人に対する保護法制（行為能力② 成年後見制度） 7. 婚姻にかかわる法律 8. 離婚にかかわる法律 9. 遺産相続にかかわる法律 10. 物権にかかわる法律①（物権と債権の違い／物権にかかわる原則） 11. 物権にかかわる法律②（所有権の特質／相隣関係） 12. 物権にかかわる法律③（所有権の取得） 13. 債権にかかわる法律①（身分から契約へ／契約にかかわる原則） 14. 債権にかかわる法律②（債権の保全と担保） 15. 犯罪と刑罰について／法学についての総括 	
<準備学習等の指示>授業には『六法全書』を携行すること。各種の『六法』の特徴については、最初の授業で説明する予定なので、購入するならば、その後にするのが賢明であろう。なお、各自の授業への関わりは、復習中心に願いたい。	
<テキスト>特に指定せず、ノート中心の授業になる。受講上、必要な資料・教材は、コピーして配布する。	
<参考書>一般的なものは不要。各授業に関連して「読むべき文献」は、その都度、紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）>レポートの提出を求め、それによって評価する。無届けの欠席が1／3を超える者は、評価の対象としない。なお、評価の際は「共通評価指標（1）」の③および⑤を重視する。	

学際基礎科目・社会科学系	
法と人権2 日本国憲法	佐々木 高雄
後期・2単位	<登録条件> 特になし
<授業のテーマ> 憲法改正が話題になる時代を迎え、各自が「大きな声」に左右されることなく、問題の本質を、実証的な知識に基づいて冷静に、自分の頭で考えてみる勇気を身に付ける。	
<到達目標> わずか9日間で起草された日本国憲法の原案なので、「よいところ」については、それを確認し、「問題のあるところ」については、どのように改めるべきなのか、予断を排して、検討する。	
<授業の概要> 制憲史的手法を活用し、できるかぎり客観的な事実を確認しながら、憲法という規範の解釈に努め、人権問題を中心に、「憲法に盛り込まれた理念」と「現実の姿」とを、対比して検討する。	
<履修条件> 特になし	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 憲法とは何か? 2. 明治憲法の制定/明治憲法の特徴 3. 日本国憲法の制定① (ポツダム宣言からマッカーサー・ノートまで=新憲法の基盤・背景) 4. 日本国憲法の制定② (マッカーサー草案=民主化のための諸項目) 5. 日本国憲法の制定③ (日本側の作業=古い価値観/議会における審議手続/明治憲法の改正か、それとも新憲法の制定か) 6. 制定された憲法の特徴/国民主権 (象徴天皇制との関わりのもとに) 7. 平和主義① (「第九条」の解釈/前文・第2段) 8. 平和主義② (「第九条」をめぐる裁判例/平和的生存権) 9. 人権尊重主義/人権に関わる一般原則 10. 平等権 (信条による差別=憲法の私人間効力/性差別/尊属殺重罰規定/議員定数不均衡問題) 11. 宗教の自由 (信教の自由/政教分離原則) 12. 表現の自由 (知らせる自由/知る自由/知られたくない自由) 13. 経済的自由権 14. 身体的自由権 (法定手続の保障/令状主義) / 他人の人権 (社会権など) 15. 統治機構/まとめ 	
<準備学習等の指示> 授業には『六法全書』を携行すること。各種の『六法』の特徴については、最初の授業で説明する予定なので、購入するならば、その後にするのが賢明であろう。なお、各自の授業への関わりは、復習中心に願いたい。	
<テキスト> 特に指定せず、ノート中心の授業になる。受講上、必要な資料・教材は、コピーして配布する。	
<参考書> 一般的なものは不要。各授業に関連して「読むべき文献」は、その都度、紹介する。	
<学生に対する評価 (方法・基準)> レポートの提出を求め、それによって評価する。無届けの欠席が1/3を超える者は、評価の対象としない。なお、評価の際は「共通評価指標 (1)」の③および⑤を重視する。	

学際基礎科目・社会科学系	
ドイツの歴史と教会 a	佐藤 真一
前期・2単位	<登録条件> 通年履修が望ましい。
<授業のテーマ> 古代末期から中世のドイツの発展と有機的に関連するドイツ教会史について学ぶ。	
<到達目標> ①時代背景との関連で教会の歩みを理解する。 ②各時代の教会の課題と特徴について理解する。 ③歴史的考察方法を身につける。	
<授業の概要> ドイツの歴史はキリスト教と深くかかわりをもっている。前期は、古代末期のゲルマン民族について触れた後、中世ドイツの国家・社会と関連づけながら教会史を考察する。	
<履修条件> なし。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ドイツを旅する 2. ゲルマン民族の大移動 3. フランク王国の台頭 4. 「ドイツ人の使徒」ボニファティウス 5. カール大帝とヨーロッパ 6. カロリング・ルネサンスとアルクイン 7. オットー大帝における「国家と教会」 8. ドイツにおける修道制 9. 叙任権闘争 10. 十字軍の時代 11. ロマネスクとゴシック 12. 中世都市の成立と市民意識 13. 中世社会における貧困 14. 教皇権の盛衰と公会議制 15. まとめ <p>毎回、歴史地図、人物の肖像、授業に関連する都市や地域の写真をスクリーンに映し出して紹介する。</p>	
<準備学習等の指示> ドイツ史の概説書、たとえば坂井榮一郎著『ドイツ史10講』（岩波新書）を読んでおくこと授業内容の理解に有益である。	
<テキスト> 『総合新世界史図説』（帝国書院、630円）を毎回持参すること。 また、授業時にプリントを配布する。	
<参考書> そのつど回覧する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 三分の二以上の出席が前提。学期末試験、ミニ・作文、出席状況で評価する。	

学際基礎科目・社会科学系	
ドイツの歴史と教会 b	佐藤 真一
後期・2単位	<登録条件> 通年履修が望ましい。
<授業のテーマ> ルターの宗教改革から20世紀までのドイツ教会史を学ぶ。	
<到達目標> ①近代の国家・社会・文化との関連で教会の歩みを理解する。 ②各時代の教会の課題と特徴について理解する。 ③歴史的考察方法を身につける。	
<授業の概要> 近代ドイツ史もキリスト教と深くかかわりをもっている。後期は、宗教改革の展開、三十年戦争、プロイセンの台頭、ナポレオン戦争、「自由と統一」を求める動き、工業化と社会問題、ビスマルクと「文化闘争」、ヴィルヘルム二世時代の「福音主義社会会議」の活動、第一次世界大戦下の「祖国党」と「自由と祖国のための国民同盟」、ナチス・ドイツと教会闘争、戦後社会とキリスト教について考察する。	
<履修条件> なし。	
<授業計画> 1. ルター。ヴィッテンベルクへの道 2. ヴォルムス帝国議会のルター 3. ルターと農民戦争 4. プファルツ選帝侯国と改革派 5. 三十年戦争 6. 大選帝侯から軍人王へ——プロイセンの台頭 7. フリードリヒ大王と啓蒙専制政治 8. ナポレオン戦争と国民意識 9. ヴィヒェルンと社会問題 10. ビスマルクと「文化闘争」 11. ヴィルヘルム二世時代の「新航路」と社会問題 12. 第一次世界大戦と国粹主義 13. ヴァイマル共和国の行方 14. ナチス・ドイツとキリスト教 15. まとめ 毎回、歴史地図、人物の肖像、授業に関連する都市や地域の写真をスクリーンに映し出して紹介する。	
<準備学習等の指示> ドイツ史の概説、たとえば坂井榮八郎著『ドイツ史10講』（岩波新書）を読んでおくと講義内容の理解に有益である。	
<テキスト> 『総合新世界史図説』（帝国書院、630円）を毎回持参すること。 また、授業時にプリントを配布する。	
<参考書> そのつど回覧する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 三分の二以上の出席が前提。学期末試験、ミニ作文、出席状況で評価する。	

学際基礎科目・自然科学系	
生命の理解とバイオエシックス a	上遠 岳彦
前期・2単位	<登録条件> 通年の登録が望ましい
<p><授業のテーマ> 生命科学の基本的な生物学的知識を学び、生物の体の成り立ちと生態学的視点を養う。</p>	
<p><到達目標> 1. 生物の体の構造と働きについて理解する。 2. 他の生物との関わりの中で生かされている存在として、自己の生物学的な面を認識できるようになる。</p>	
<p><授業の概要> 1. 生態系の働きを学び、実際の動植物の観察を通して理解を深める。 2. 細胞や遺伝子の働きなど、生命を支えるメカニズムを学ぶ。 3. 履修者相互のディスカッションにより、生命の理解を深める。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学とはなにか 1 仮説と検証 2. 科学とはなにか 2 実験の計画と実施 3. 生物同士の関わり 食物網 4. 植物と動物の関わり 5. 身近な生物の世界-野外観察(天候等により変更の場合あり) 6. 生態系での物質循環 7. 生物と無生物 -生命をどう理解するか 8. 体を作る細胞の働き 1 基本的な細胞の構成 9. 体を作る細胞の働き 2 細胞の社会 10. 遺伝の仕組み 1 遺伝とは何か 遺伝現象の理解 11. 遺伝の仕組み 2 遺伝のメカニズム 12. 遺伝の仕組みと生物の進化 13. 遺伝の仕組みとバイオエシックスとの関わり 14. バイオエシックスをどう考えるか 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示> 高校など、これまでの教育課程で生物学を学んでいない人は、高校教科書レベルの生物学の教科書などで事前学習をすると、理解の助けになる。</p>	
<p><テキスト> 授業内容に合わせて参考となる書籍を紹介する。また、適宜、印刷物を配布する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 出席と授業への貢献度、授業内でのクイズとミニレポート、及び、最終レポートで、総合的に評価する。</p>	

学際基礎科目・自然科学系	
生命の理解とバイオエシックス b	上遠 岳彦
後期・2単位	<登録条件> 通年の登録が望ましい
<p><授業のテーマ> 生命科学の研究を基礎にしたバイオテクノロジーの現状を学び、現代におけるバイオエシックス、科学リテラシーの理解を深める。</p>	
<p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイオテクノロジーと、その技術について理解する。 2. バイオテクノロジーの社会の中での意義と問題点を理解する。 3. 自分自身が直面する問題として、バイオエシックスの問題を捉える。 	
<p><授業の概要></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝子の働きなど、生物のメカニズムの知識を元に、バイオテクノロジーを理解する。 2. バイオテクノロジーが生態系に影響を与えることの意味を理解する。 	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイオテクノロジーとは、どういうものか 2. 古来からのバイオテクノロジー：発酵食品 3. 遺伝子組換え技術の基礎 1 どうやって遺伝子を組み換えるのか 4. 遺伝子組換え技術の基礎 2 遺伝子を組み換えると何が起こるのか 5. 遺伝子組換えによるバイオテクノロジー 6. 農業分野でのバイオテクノロジー 7. バイオテクノロジーの世界的影響 8. 生態系への影響と生物多様性 9. 発生学の基礎 1 受精卵のシステム 10. 発生学の基礎 2 受精卵からどうやって体が作られるか 11. クローン技術の基礎と、問題点 12. ES細胞とiPS細胞 13. バイオテクノロジーに関連する調査と発表 14. バイオテクノロジーに関連する発表にもとづく討論 15. バイオエシックスに関する総合討論 	
<p><準備学習等の指示></p> <p>高校など、これまでの教育課程で生物学を学んでいない人、及び、前期の生命の理解とバイオエシックス a を履修していない人は、高校教科書レベルの生物学の教科書などで事前学習をすると、理解の助けになる。</p>	
<p><テキスト></p> <p>授業内容に合わせて参考となる書籍を紹介する。また、適宜、印刷物を配布する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>出席と授業への貢献度、授業内でのディスカッション、及び、レポートで、総合的に評価する。</p>	

学際基礎科目・自然科学系	
食品と栄養 a	福家 眞也
前期・2単位	<登録条件> 特になし
<p><授業のテーマ> 食品の特徴をしり、加熱、調理による変化を知る。また、食品の選択、食品衛生について学ぶ。</p>	
<p><到達目標> 食品の種類を知り、食品に含まれる、炭水化物、脂質、タンパク質、うまみ成分などについての基礎知識を身につける。食品の保存、加熱、冷凍、熟成に伴う変化を知る。食中毒の基礎知識を養う。</p>	
<p><授業の概要> プリントあるいはパワーポイントを利用し、実際の食品に含まれる食品成分とその構造式を示し、それらの成分が収穫後あるいは加熱あるいは冷凍などによりどのような変化を遂げるかを説明する。また、変化した成分を食した場合の有利な点、不利な点などについての説明を行う。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 食べ物を取り巻く環境問題、食習慣、味を感じる仕組み 2 日本型食生活（和食）・地中海型食生活について、その特徴と意義 3 水について、水のおいしさ、冷蔵、氷温、世界の水 4 デンプンについて、でんぷんの消化、米のおいしさ（炭水化物1） 5 飯や焼き芋のおいしさはどうして生ずるのか（炭水化物2） 6 油（脂質）の特徴、油のおいしさ、食後のデザート（脂質1） 7 話題の油、マーガリン、トランス酸、酸化（自動酸化）（脂質2） 8 アミノ酸とは、コラーゲンとは何か、（タンパク質1） 9 タンパク質特徴とそれを利用した食べ物、牛乳とチーズなど（タンパク質2） 10 野菜、果実とジャム、ペクチン、寒天 11 野菜、果実と色、褐変、醤油、みそなど 12 食品の熟成、肉、魚のうまみ成分、 13 食品の色、香、臭い、あくについて 14 ノロウイルス、ブドウ球菌（食品の選択と食中毒1） 15 動植物、魚介類の毒（食品の選択と食中毒2） 	
<p><準備学習等の指示> 復習をし、前回の内容を理解しておくこと</p>	
<p><テキスト> プリントを配布する。パワーポイントを使う</p>	
<p><参考書> 最新食品学（総論・各論）講談社（2016）。食品学I（食品の化学・物性と機能性）南江堂（2017）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 小テスト、レポートなど</p>	

学際基礎科目・自然科学系	
食品と栄養 b	福家 眞也
後期・2単位	<登録条件> 特になし
<p><授業のテーマ> 健康な生活を送るためには食生活が望ましいのか、どんな栄養素が必要なのかを知る</p>	
<p><到達目標> 食品に含まれる栄養素について知る。これらの成分は体の維持、体の機能を維持する役割を持っている（医食同源）。以上の学びから得られた知識が、日々の生活を送る上で役に立つようになる。</p>	
<p><授業の概要> 環境、食生活、運動などが体に与える影響をプリントあるいはパワーポイントを利用して説明する。食品が持つ栄養学的な特性が実際の食生活とどのように結びついているのかを検証する。体内時計と運動あるいは栄養成分の摂取との関係について説明を行う。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 食品の持つ3つの機能（栄養的、感覚的、機能的） 2 栄養と運動、生体リズム、概日リズムなど 3 糖質の栄養と PFC バランス、食物繊維と疾病 4 肉類と魚のおいしさの違いと肥満（脂質について） 5 いろいろな油と病気の関係、脂肪異常症と肥満予防 6 タンパク質の価値、アミノ酸の機能性について 7 タンパク質摂取とカルシウム、腎臓との関係 8 骨の形成と促進成分、骨粗鬆症、虫歯と予防 9 貧血と食物、その他のミネラルの働きと生活 10 ヨーグルトとプロバイオテックス、プレバイオテックス 11 大腸と健康 12 食品アレルギー 13 食べ物とがん 14 よく噛んで食べる意義 15 食糧および水の危機 	
<p><準備学習等の指示> 復習をし、前回の内容を理解しておくこと</p>	
<p>テキスト> プリントの配布とパワーポイントの利用</p>	
<p><参考書> 栄養の教科書（新星出版社:2016）など</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 小テスト、レポートなど</p>	

学際基礎科目・情報科学系	
情報基礎	竹井 潔
後期・2単位	<登録条件> 特になし
<授業のテーマ> 学生が情報社会で生きていく力として、コンピュータやネットワークの知識を理解し、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基本的なスキルを習得する。	
<到達目標> 学生がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフト等の基本的スキルを習得し、大学及び卒業後にパソコンが活用できるスキルを習得する。	
<授業の概要> 学生がパソコンの基本知識やワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトのスキルを習得し、情報社会で必要となる基本的な情報リテラシーを身に着ける。	
<履修条件>特になし	
<授業計画> 1. ガイダンス 2. コンピュータの歴史と構造 3. OSとアプリケーション 4. 情報モラルとセキュリティ 5. ワープロソフトの基本操作 6. ワープロソフトの活用 書式 7. ワープロソフトの活用 レイアウト 8. 表計算ソフトの基本操作 9. 表計算ソフトの活用 表作成 10. 表計算ソフトの活用 表計算 11. 表計算ソフトの活用 グラフの作成 12. プレゼンテーションソフトの基本操作 13. プレゼンテーションソフトの活用 スライドの作成 14. プレゼンテーションソフトの活用 プレゼンテーション 15. まとめ	
<準備学習等の指示> パソコンに慣れていない人はタイピングの練習をしておくこと。	
<テキスト> 授業中に指示する。	
<参考書> 定平誠『しっかり学ぶWord/Excel/PowerPoint 標準テキスト』 技術評論社	
<学生に対する評価（方法・基準）> 平常点（50%）、期末課題（50%）	

神学基礎科目 A	
キリスト教通論 I	須田 拓
前期・2単位	<登録条件> 学部1年生は必修
<p><授業のテーマ> 神学の間である教会生活について学び、神学を学ぶための土台を形成する。</p>	
<p><到達目標> 教会とは何か、信仰生活でなされていることにどのような意味があるのかについて、神学的に考えることができるようになる。</p>	
<p><授業の概要> 教会生活について学ぶと共に、議論することを通して、神学的に考えるとどのようなことであるかを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 「新しい伝道の時代へ」(はじめに) 第3回 「教会生活の鍵」 第4回 「伝道的教会と伝道的信仰」(前半) 第5回 「伝道的教会と伝道的信仰」(後半) 第6回 「洗礼」 第7回 「聖餐」(前半) 第8回 「聖餐」(後半) 第9回 「信仰告白と信仰生活」 第10回 「信仰告白と教会形成」 第11回 「祈りの意味」 第12回 「讃美歌の意味」(前半) 第13回 「讃美歌の意味」(後半) 第14回 「献金の意味」 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> テキストの該当箇所をよく読んでおき、積極的に議論に参加すること。</p>	
<p><テキスト> 近藤勝彦『教会生活の要点』(第二版、東神大パンフレット 38、2010年) 学生各自で用意すること</p>	
<p><参考書> 特にないが、授業の中で必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業での発表、議論への参加状況によって評価する。</p>	

神学基礎科目 A	
キリスト教通論Ⅱ	須田 拓
後期・2単位	<登録条件> 学部1年生は必修
<p><授業のテーマ> キリスト教信仰の基本的内容を確認しつつ、神学をする目的と意義とを理解する。</p>	
<p><到達目標> 信仰の各項目について、神学的課題を理解しつつ、説明できるようになる。</p>	
<p><授業の概要> 使徒信条および日本基督教団信仰告白の主要項目について、信仰内容を確認しつつ、どのような神学課題が考え得るか考察する。</p>	
<p><履修条件> 原則としてキリスト教通論Ⅰを履修していること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション・啓示について 第2回 聖書について 第3回 創造について 第4回 人間について 第5回 キリストについて(1) 受肉 第6回 キリストについて(2) 十字架と救済 第7回 キリストについて(3) 復活 第8回 聖霊について 第9回 教会について 第10回 終末について 第11回 三位一体について 第12回 選びについて 第13回 義認と聖化について 第14回 聖礼典について 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><参考書> 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加状況およびレポートによって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標(1)記載項目中の①～③を特に重視する。</p>	

神学基礎科目 A	
聖書通論 1 旧約通論	田中 光
前期・2 単位	<登録条件> 学部 1 年生
<p><授業のテーマ> 旧約聖書の基礎知識</p>	
<p><到達目標> 旧約聖書を実際に読みながら、それに関する基礎的な知識を身につける。また、旧約聖書が今日までにどのように研究され、理解されてきたかということについての基本的な知識をも身につける。</p>	
<p><授業の概要> 担当教員が、旧約聖書 39 巻についての総論的説明をし、適宜、実際に聖書テキストのよく知られた箇所を皆で読む。また、授業の中では、旧約聖書各巻にまつわる解釈の歴史に関する諸問題、また聖書学に関する諸問題についても最低限の説明をする。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション&イントロダクション 2. カノン（正典）としての旧約聖書 3. モーセ五書① 創世記 4. モーセ五書② 出エジプト記 5. モーセ五書③ レビ記、民数記 6. モーセ五書④+申命記的歴史著作① 申命記、ヨシュア記、士師記 7. 申命記的歴史著作② サムエル記、列王記 8. 歴代誌的歴史著作 歴代誌、エズラ・ネヘミヤ記 9. 諸文学① ヨブ記、箴言、コヘレトの言葉 10. 諸文学② 雅歌、詩編 11. 諸文学③+預言書① ルツ記、エステル記、イザヤ書 12. 預言書② エレミヤ書、哀歌 13. 預言書③ エゼキエル書、ダニエル書 14. 預言書④ 十二小預言書① ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデア書、ヨナ書、ミカ書 15. 預言書⑤ 十二小預言書② ナホム書、ハバクク書、ゼファニア書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書 	
<p><準備学習等の指示> 次回の授業までに、該当する旧約聖書の書物を自分で読むこと。</p>	
<p><テキスト> 聖書（新共同訳）</p>	
<p><参考書> S. ヘルマン、W.クライバー著（泉治典、山本尚子訳）『聖書ガイドブック： 聖書全巻の成立と内容』、教文館、2000 年; B. S. Childs, <i>Introduction to the Old Testament as Scripture</i> (Philadelphia: Fortress Press, 1979); W. S. LaSor, et al, <i>Old Testament Survey: The Message, Form, and Background of the Old Testament</i>, 2nd ed. (Grand Rapids: Eerdmans, 1996).</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と、期末の小レポートによって評価する。理由なく授業を三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。レポートの課題は夏休み前に提示する。</p>	

神学基礎科目 A	
聖書通論 2 旧約時代史	田中 光
後期・2 単位	<登録条件> 学部 1 年生
<授業のテーマ> 旧約聖書の歴史	
<到達目標> 旧約の基本的知識を歴史という軸において通観することによって、旧約を立体的に捉える。また、その際、旧約のカノンの(正典的)構造と、旧約の歴史批評的研究が提示する歴史との間の関係についても考えるきっかけとする。	
<授業の概要> カナン定着以前の古代オリエント世界から説き起こして、ローマ時代にまで至るイスラエルの歴史を辿る。授業では指定したテキストを前提にしつつ、担当教員が作成したレジュメに基づいて講義形式の授業を行う。	
<履修条件> 特になし。	
<授業計画> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション&イントロダクション 2. 聖書時代以前の古代オリエント世界とパレスチナ地方の地理 3. カナン定着以前の時代(主に族長時代) 4. カナン定着時代(出エジプトからカナン侵入まで) 5. 統一王国の成立と分裂 6. 北王国の歴史(イエフ王朝まで) 7. 北王国の滅亡と南ユダ王国の歴史① 8. 南ユダ王国の歴史② 9. バビロン捕囚とペルシャ時代①(歴史的概観) 10. バビロン捕囚とペルシャ時代②(エレミヤ書、エゼキエル書などに見られる捕囚の神学的理解) 11. ヘレニズム時代 12. ローマ時代 13. 中近東文化センター見学(予定) 14. 知識の再確認 15. 試験 	
<準備学習等の指示> 以下に指定するテキストと、そのテキストに提示された関連の聖書箇所を、事前に読んだ上で、各会の授業に臨むこと。	
<テキスト> 樋口進『よくわかる旧約聖書の歴史』。日本基督教団出版局、1800 円。各自用意すること。	
<参考書> P. K. マッカーター・ジュニア他(池田裕、有馬七郎訳)『最新・古代イスラエル史』、ミルトス; J. Bright, A History of Israel, Third Edition (Philadelphia: Westminster Press, 1981)。そのほかは授業中に指示する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業の発表と筆記試験で評価するが、欠席が 3 分の 1 を超えた場合は試験を受けられない。	

神学基礎科目 A	
聖書通論 3 新約通論・歴史	焼山 満里子
後期・2 単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 新約聖書 27 文書を概観する。</p>	
<p><到達目標> 新約聖書への理解を深め、新約神学への関心を高めより専門的な学習に備える。</p>	
<p><授業の概要> 新約聖書 27 文書の背景、テーマ、研究史を概観し、新約聖書への理解を深める。</p>	
<p><履修条件> 一年次必修</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クラス紹介 2. パウロの手紙総論、テサロニケの信徒への手紙一、二 3. コリントの信徒への手紙一 4. コリントの信徒への手紙二 5. ガラテヤの信徒への手紙 6. ローマの信徒への手紙 7. ローマ二回目 8. フィリピの信徒への手紙、フィレモンへの手紙 9. コロサイ、エフェソの信徒への手紙、ヘブライ人への手紙 10. マルコによる福音書 11. マタイによる福音書 12. ルカによる福音書、使徒言行録 13. ヨハネ福音書 14. ヨハネの黙示録 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示> 各文書、テキストを事前に読んでくること</p>	
<p><テキスト> 佐藤研『聖書時代史新約篇』岩波現代文庫、2003 年 松永希久夫『歴史の中のイエス像』日本放送出版協会、1989 年（中間ブックレポート）</p>	
<p><参考書> 佐竹明『使徒パウロ』新版、新教出版社、2008 年</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席状況、授業参加、中間、期末の課題を総合的に評価する</p>	

神学基礎科目 B	
神学通論	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件> 学部2年生と3年次編入生は必修
<授業のテーマ> 神学とはどのような学問であるか、どのようになされてきたのか、どのような思考を求められているのかを学ぶ。	
<到達目標> ①神学と教会との関係、②神学の歴史、③神学の思考のかたちをそれぞれ理解することを通して、伝道者として神学を学ぶ姿勢を身に着ける。	
<授業の概要> テーマに掲げた内容について、さらには、神学の学問領域全体の概観を講義していく。	
<履修条件> 学部2年生以上であること。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> 序——この授業の目的と課題 第1部 キリスト者と神学者 <ul style="list-style-type: none"> I. 霊的な務め・召命 2. II. 神学と教会奉仕の準備 <ul style="list-style-type: none"> III. 神学と信仰の従順 3. 第2部 キリスト教神学 <ul style="list-style-type: none"> I. 「神学」という言葉の意味 II. キリスト教神学の従来の意味 4. III. 啓蒙主義以降の神学的思考の変化 5. IV. 近代神学（1）——シュライエルマッハーの神学の概要 6. IV. 近代神学（2）——シュライエルマッハーの神学への評価 7. V. 近代神学の歩み 8. VI. 新たな展開（1）——「近代神学」の「失敗」 9. VI. 新たな展開（2）——カール・バルトおよび「新しい神学」 10. VI. 新たな展開（3）——神の言葉の神学 11. VII. 神学と教会 12. VIII. 神学の「学問的」性格（1）——「学問的神学」とは 13. VIII. 神学の「学問的」性格（2）——神学と教会 14. IX. 神学諸科の分類 15. まとめ 	
<準備学習等の指示> ノートをきちんととること。	
<テキスト> 特になし。	
<参考書> 神代・川島・西原・深井・森本、『神学とキリスト教学』（キリスト新聞社、2009年）；フロマートカ、『神学入門』、平野清美訳（新教出版社、2012年）。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の小課題および期末のレポートの総合による。評価にあたっては、共通評価指標の①～④の内容を重視する。	

現代語科目必修・外国語科目必修	
英語 I A a	田中 光
前期・1単位	<登録条件> 学部1年生は必修
<授業のテーマ> 英文法	
<到達目標> 基礎的英語力の向上	
<授業の概要> 基礎的な文法の知識を習得するための学びを、テキストを用いて行う。各授業の最初では、簡単なウォーミング・アップ（英語の聖書を読むなど）を行う。	
<履修条件> 特になし	
<授業計画> 第1回 オリエンテーション、to 不定詞 第2回 to なし不定詞 第3回 分詞 第4回 動名詞 第5回 動名詞と不定詞 第6回 時制 第7回 未来時の表現 第8回 進行形 第9回 完了形 第10回 態 第11回 仮定法（基礎） 第12回 仮定法（条件文その他） 第13回 比較 第14回 否定 第15回 名詞	
<準備学習等の指示> 復習をしっかりとやること。	
<テキスト> Toshinori Tomishige, <i>A Communicative Grammar of English</i> (Nan'un-do).	
<参考書> 『徹底例解 ロイヤル英文法』（旺文社）など、少し厚めの英文法解説書と併せてテキストと取り組むと、より理解が深まる。また、英語の聖書（できれば New International Version）があれば望ましい。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の練習問題の達成度、授業への参加度や貢献度によって評価する。	

現代語科目必修・外国語科目必修	
英語 I A b	田中 光
後期・1単位	<登録条件> 学部1年生は必修
<授業のテーマ> 英文法	
<到達目標> 基礎的英語力の向上	
<授業の概要> 基礎的な文法の知識を習得するための学びを、テキストを用いて行う。各授業の最初では、簡単なウォーミング・アップ（英語の聖書を読むなど）を行う。	
<履修条件> 特になし	
<授業計画> 第1回 代名詞（基礎） 第2回 代名詞（形式主語、慣用表現など） 第3回 形容詞 第4回 冠詞 第5回 数量詞 第6回 副詞 第7回 動詞 第8回 法助動詞（will, shall, would, should） 第9回 法助動詞（can, may, must その他） 第10回 場所の前置詞 第11回 時間の前置詞 第12回 その他の前置詞 第13回 接続詞 第14回 関係代名詞 第15回 関係副詞	
<準備学習等の指示> 復習をしっかりとやること。	
<テキスト> Toshinori Tomishige, <i>A Communicative Grammar of English</i> (Nan'un-do).	
<参考書> 『徹底例解 ロイヤル英文法』（旺文社）など、少し厚めの英文法解説書と併せてテキストと取り組むと、より理解が深まる。また、英語の聖書（できれば New International Version ）があれば望ましい。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の練習問題の達成度、授業への参加度や貢献度によって評価する。	

現代語科目必修・外国語科目必修	
英語 I B a	須田 拓
前期・1単位	<登録条件> 特になし
<p><授業のテーマ> 初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語読解力を養成する。</p>	
<p><到達目標> 英語の神学用語に慣れ、初歩的な神学的文献が読めるようになること。</p>	
<p><授業の概要> 英語でなされた説教を読むことで、基本的な神学用語に慣れると共に、英語の読解力を養成する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト講読 Secular and Divine Power pp.81-82 第3回 テキスト講読 Secular and Divine Power pp.83-84 第4回 テキスト講読 Secular and Divine Power pp.84-85 第5回 テキスト講読 Secular and Divine Power pp.85-86 第6回 テキスト講読 Materialism pp.43-44 第7回 テキスト講読 Materialism pp.45-46 第8回 テキスト講読 Materialism pp.47-48 第9回 テキスト講読 Death and Modernity pp.109-110 第10回 テキスト講読 Death and Modernity pp.111-112 第11回 テキスト講読 Death and Modernity pp.113-114 第12回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.127-128 第13回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.129-130 第14回 テキスト講読 The Trinity and Worship pp.131-132 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト> Colin E. Gunton, <i>The Theologian as Preacher</i>, London and New York: T&T Clark, 2007 テキストは担当者が用意する。</p>	
<p><参考書> 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況及び小テストで評価する。</p>	

現代語科目必修・外国語科目必修	
英語 I B b	須田 拓
後期・1単位	<登録条件> 特になし
<p><授業のテーマ> 初歩的な神学的文献を読むことができるように、英語読解力を養成する。</p>	
<p><到達目標> 英語の神学用語に慣れ、初歩的な神学的文献を読むことができるようになる。</p>	
<p><授業の概要> 英語の神学的文章に触れることで、神学書を読むための英語読解力を養成する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト講読 pp.82-83 第3回 テキスト講読 pp.84-85 第4回 テキスト講読 pp.86-87 第5回 テキスト講読 pp.88-89 第6回 テキスト講読 pp.90-91 第7回 テキスト講読 pp.92-93 第8回 中間総括 第9回 テキスト講読 pp.94-95 第10回 テキスト講読 pp.96-97 第11回 テキスト講読 pp.98-99 第12回 テキスト講読 pp.100-101 第13回 テキスト講読 pp.102-103 第14回 テキスト講読 pp.104-105 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> テキストの該当箇所を、わからない単語等を辞書で調べつつ、よく読んでおくこと。</p>	
<p><テキスト> Alistair McGrath, <i>Faith and Creeds</i> (Christian Belief for Everyone), London: SPCK, 2013 テキストは担当者が用意する。</p>	
<p><参考書> 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況及び小テストで評価する。</p>	

現代語科目必修・外国語科目必修	
ドイツ語 I A a (1,2) (初級)	長山 道
前期・2単位	<登録条件> 学部1年生は必修。ドイツ語 IAb と通年で登録することが望ましい。
<授業のテーマ> ドイツ語の初級文法を身につける。	
<到達目標> 初歩的なテキストを、辞書と文法書を参照しながら読めるようになる。	
<授業の概要> ドイツ語の文法を学ぶ。練習問題を通して読解力を養成する。	
<履修条件> ドイツ語未習であることが望ましい。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション、アルファベット、発音 2 あいさつ表現、季節・月・曜日、国名 3 動詞の現在人称変化(1) 4 定動詞の位置と文の構造 5 名詞の性と格変化、冠詞、名詞の複数形 6 定冠詞類と不定冠詞類、否定、男性弱変化名詞 7 動詞の現在人称変化(2)、不定代名詞、数詞 8 人称代名詞、疑問代名詞 9 前置詞の格支配 10 話法の助動詞 11 未来形 12 形容詞の格変化 13 動詞の3基本形 14 過去人称変化 15 完了形 16 過去完了形、未来完了形、話法の助動詞の完了形 17 分離動詞 18 命令形 19 再帰代名詞 20 再帰動詞 21 接続詞 22 副文 23 zu 不定詞句、非人称動詞 24 形容詞の比較 25 指示代名詞、関係代名詞 26 受動文、分詞 27 接続法第1式 28 接続法第2式 29 接続法の用法 30 総括 <p>定期試験</p>	
<準備学習等の指示> 課された練習問題を必ず解いてくること。初回に指示する独和辞典と単語カードを、第2回以降持参すること。	
<テキスト> Ookawa Isamu / Tsuneki Kentarou / Ishizawa Masato, <i>Deutsche Grammatik für das Leseverständnis</i> , Ikubundo, 2013. 学生各自で購入すること。	
<参考書> 中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』白水社、 ¹⁵ 2013年。 『クラウン独和辞典第5版』三省堂、2014年。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加度と学期末の筆記試験によって評価する。	

現代語科目必修・外国語科目必修	
ドイツ語 I A b (1, 2) (初級)	長山 道
後期・2単位	<登録条件> 学部1年生は必修。
<授業のテーマ> 平易なテキストを読みながら、初級文法を定着させる。	
<到達目標> 神学用語に慣れ、初歩的な神学書が読めるようになる。	
<授業の概要> テキストを和訳する。初級文法を復習する。	
<履修条件> 初級文法を一とおり終えていること。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 S. 1 3 S. 2 4 S. 3 5 S. 4 6 S. 5 7 S. 6 8 S. 7 9 S. 8 10 S. 9 11 Reformationstag 12 S. 10 13 S. 11 14 S. 12 15 S. 13 16 S. 14 17 S. 15 18 S. 16 19 S. 17 20 S. 18 21 S. 19 22 Advent, Weihnachten, Epiphantias 23 ドイツ語すごろく 24 S. 20 25 S. 21 26 S. 22 27 S. 23 28 S. 24 29 S. 25 30 総括 <p>定期試験</p>	
<準備学習等の指示> 必ず予習してくること。独和辞典、単語カードを持参すること。	
<テキスト> Heinrich Schlier Über die christliche Existenz, 同学社、1975年。学生各自で入手すること。	
<参考書> 授業内で必要に応じて指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と学期末の筆記試験によって評価する。	

現代語科目必修・外国語科目必修	
ドイツ語 I B a (コミュニケーション)	福嶋 揚
前期・1単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<p><授業のテーマ> 神学生にとって有意義な、ドイツ語による「キリスト教的コミュニケーション」を学ぶ。</p>	
<p><到達目標> プロテスタントの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語の表現を用いる力を習得する。</p>	
<p><授業の概要> 様々なテキスト、音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。また平易なドイツ語テキストを併せて読むことにしたい。</p>	
<p><履修条件> 学部2年に履修。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主の祈り、ニカイア信条、使徒信条 2. 十戒その他の重要な戒め 3. 詩編に基づく祈り 4. 聖書に基づく賛美の祈り 5. 子供と共に祈る 6. 日常の中の祈り 7. 日曜日から土曜日までの日ごとの祈り 8. その他の様々な場面での祈り 9. ローズンゲン(日々の聖句集)の使い方 10. カテキズム(ルター小教理問答) 11. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、序論と第一部) 12. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部前半) 13. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第二部後半) 14. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部前半) 15. カテキズム(ハイデルベルク信仰問答より、第三部後半) 	
<p><準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。</p>	
<p><テキスト> ドイツ語訳聖書、ドイツ語のローズンゲン、ドイツ語賛美歌集等。必要に応じてコピーを配布。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて配布する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、積極的な授業参加、期末試験によって評価する。</p>	

現代語科目必修・外国語科目必修	
ドイツ語 I B b (コミュニケーション)	福嶋 揚
後期・1単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<p><授業のテーマ> 前期に引き続いて、現代も用いられる生きたドイツ語のキリスト教的な表現を出来るだけ幅広く学ぶ。</p>	
<p><到達目標> プロテスタントの伝統に基づき、現代も用いられる生きた日常ドイツ語の表現を用いる力を習得する。</p>	
<p><授業の概要> 前期に引き続いて、様々なテキストや音声教材を用いて、重要なドイツ語表現を習得する。</p>	
<p><履修条件> 学部2年に履修。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 礼拝の言葉 2. アンダハトの言葉(家庭で) 3. アンダハトの言葉(教会暦にあわせて) 4. 賛美歌のテキストに学ぶ(アドベント) 5. 賛美歌のテキストに学ぶ(クリスマス) 6. 賛美歌のテキストに学ぶ(受難節) 7. 賛美歌のテキストに学ぶ(復活祭) 8. 賛美歌のテキストに学ぶ(昇天祭) 9. 賛美歌のテキストに学ぶ(ペンテコステ) 10. 賛美歌のテキストに学ぶ(その他の様々な季節、テーマ) 11. 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 Feiert Jesus から) 12. 現代キリスト教音楽のテキスト(歌集 In Love with Jesus から) 13. ラジオ講演を聞く(カール・バルト) 14. 礼拝説教を聞く(カール・バルト) 15. 礼拝説教を聞く(現代の説教例から) 	
<p><準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて配布する。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて配布する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、積極的な参加、および期末試験によって評価する。</p>	

現代語科目選択	
英語基礎 a	越智 さやか
前期・1単位	<登録条件> 課された者が通年で履修する
<授業のテーマ> 英文法・英単熟語	
<到達目標> 中学卒業程度の英単語・熟語・文法の知識を習得する。	
<授業の概要> 中学卒業程度の英語の知識を習得する。毎回、小テスト(前の回の復習と単熟語)を行う。文法テキストでの学びを中心に、歌、エッセイ、スピーチも行う。	
<履修条件> 特になし	
<授業計画> 第1回 オリエンテーション、名詞、代名詞 第2回 肯定文・否定文・疑問文 第3回 文型 第4回 時制 第5回 完了形 第6回 助動詞 第7回 受動態 第8回 不定詞 第9回 動名詞 第10回 分詞 第11回 関係代名詞 第12回 関係副詞 第13回 比較 第14回 接続詞 第15回 まとめ	
<準備学習等の指示> 毎回の復習を行い、単熟語を覚えて小テストに備えること。	
<テキスト> 金谷憲 総合監修『総合英語 One』アルク 木村達哉『夢をかなえる英単語新ユメタン①』『夢をかなえる英熟語ユメジューク』	
<参考書> 特になし	
<学生に対する評価(方法・基準)> 小テスト(前の回の復習、単熟語)、エッセイ、スピーチ、まとめによる。	

現代語科目選択	
英語基礎 b	越智 さやか
後期・1単位	<登録条件> 課された者が通年で履修する
<授業のテーマ> 英文法・英単熟語	
<到達目標> 高校卒業程度の英単語・熟語・文法の知識を習得する。	
<授業の概要> 『英語基礎 a』では扱わなかった内容を扱い、高校卒業程度の英語の知識を習得する。毎回、小テスト(前の回の復習と単熟語)を行う。文法テキストでの学びを中心に、歌、エッセイ、スピーチも行う。	
<履修条件> 特になし	
<授業計画> 第1回 名詞、代名詞 第2回 肯定文・否定文・疑問文 第3回 文型 第4回 時制 第5回 完了形 第6回 助動詞 第7回 受動態 第8回 不定詞 第9回 動名詞 第10回 分詞 第11回 関係詞 第12回 比較 第13回 仮定法(1) 第14回 仮定法(2) 第15回 まとめ	
<準備学習等の指示> 毎回の復習を行い、単熟語を覚えて小テストに備えること。	
<テキスト> 金谷憲 総合監修『総合英語 One』 木村達哉『夢をかなえる英単語新ユメタン①』『夢をかなえる英熟語ユメジューク』	
<参考書> 特になし	
<学生に対する評価(方法・基準)> 小テスト(毎回授業冒頭に行う。前回の内容の復習、単熟語)、エッセイ、スピーチ、まとめによる。	

現代語科目選択	
日本語基礎 a	後藤 倫子
前期・1単位	<登録条件> 課された者が通年で履修する
<授業のテーマ> 時事問題を中心に読解力を、レポートの書き方を中心に書く力の基礎を強化する	
<到達目標> まとまりのある文章を読み、自分の言葉でまとめることができるようになる。 話し言葉と書き言葉の違いを把握し、使い分けることができるようになる。	
<授業の概要> 授業時間の前半は、現代日本における時事問題や文化に関する記事を毎回一つ取り上げ読む。その内容を理解し、自分の言葉でまとめる作業を行う。後半は、レポートを中心としたアカデミック・ライティングのための語彙力を意識し、話し言葉と書き言葉を自在に使い分けられる力を養う。	
<履修条件> 日本語を母語としない学生対象	
<授業計画> <ol style="list-style-type: none"> 1. 単語を言い換える 第1課 書き言葉 2. 単語を言い換える 第2課 和語と漢語 3. 単語を言い換える 第3課 名詞化 4. 単語を言い換える 第4課 ジャンルによる使い分け 5. 単語を言い換える 総合問題 6. 意味を読み取って言い換える 第1課 長い文／複数の文 7. 意味を読み取って言い換える 第2課 上位概念 8. 意味を読み取って言い換える 第3課 簡潔な表現 9. 意味を読み取って言い換える 第4課 含意／解釈 10. 意味を読み取って言い換える 総合問題 11. 目的に応じた形式で書く 実践問題1 文献を引用する 12. 目的に応じた形式で書く 実践問題2 発表スライドを作成する 13. 目的に応じた形式で書く 実践問題3 インタビューの内容をレポートに書く 14. 実践1 レポート作成 15. 実践2 レポート発表 まとめ 	
<準備学習等の指示> 休まないこと。毎回の積み重ねが日本語力強化につながる。復習をすること。	
<テキスト> 『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク (プリントで配付)	
<参考書>	
<学生に対する評価(方法・基準)> 学期中の課題とレポート 70%、授業参加度 30% 欠席が 1/3 を超えた者は成績がつかない。	

現代語科目選択	
日本語基礎 b	後藤 倫子
後期・1単位	<登録条件> 課された者が通年で履修する
<p><授業のテーマ> いろいろなジャンルの記事を読み、レポートの書き方を中心に書く力を強化する</p>	
<p><到達目標> まとまりのある文章を読み、既存の知識と照らし合わせ、自分の考えをまとめることができるようになる。 レポートや論文にふさわしい文法・文型、文字・表記、語彙、文章を使い分けることができるようになる。</p>	
<p><授業の概要> 授業時間の前半は、いろいろなジャンルの記事を毎回一つ取り上げ読む。その内容を理解し、自分の言葉でまとめる作業を行う。後半は、レポートや論文作成に役立つ知識の強化を、添削作業を通じて行う。学期後半には実際にレポートを作成する。</p>	
<p><履修条件> 日本語を母語としない学生対象</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. (文法) 自動詞・他動詞・受身 2. (文型) 文末表現の調整 3. (語彙) 辞書の危険性 4. (意味) 専門用語の選び方 5. (文章) 文の長さを読みやすさ 6. (文章) 指示詞による文の接続 7. レポートの基本的な書き方 意見と事実 8. レポートの基本的な書き方 複雑な内容の整理 9. 立場のある文章の書き方 10. 先生宛の Eメールの書き方 11. 思考力を育てる① 詩を描く 12. 思考力を育てる② 自分の見方を知る 13. 思考力を育てる③ 発表 14. 実践1 レポート作成 15. 実践2 レポート発表 まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 休まないこと。毎回の積み重ねが日本語力強化につながる。復習をすること。</p>	
<p><テキスト> 『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク (プリントで配付)</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 学期中の課題とレポート 70%、授業参加度 30% 欠席が 1/3 を超えた者は成績がつかない。</p>	

現代語科目選択・外国語科目選択	
英語Ⅱ a	高砂 民宣
前期・1単位	<登録条件> 学期ごとの登録可
<授業のテーマ> ヨハネ福音書に関して英文で記された注解書を読み、内容について考察する。	
<到達目標> ①英文の注解書に慣れ親しむ。②英文の読解能力を高める。③神学用語や慣用表現を習得する。	
<授業の概要> 英文の注解書を読みつつ、神学用語等についても解説をし、福音書記者の意図について考察する。	
<履修条件> おもに学部2年生が対象。	
<授業計画> 第1回：Unit 6: John 10-11 I Am the Good Shepherd; I Am the Resurrection and the Life pp.64-65 第2回：The True Shepherd and the Thief (10:1-6) pp.65-66 第3回：Jesus as the Gate (10:7-10) p.67 第4回：Jesus as the Good Shepherd (10:11-21) pp.68-70 第5回：〃 第6回：At the Feast of the Dedication (10:22-42) pp.71-72 第7回：Jesus and Lazarus p.73 第8回：The Final Judgment of “the Jews” (11:45-57) pp.74-75 第9回：Questions for Reflection p.76 第10回：Unit 7: John 12-13 The Final Path to Jerusalem p.77 第11回：The Anointing at Bethany (12:1-8) pp.78-79 第12回：The Triumphal Entry (12:9-19) pp.79-80 第13回：Jesus’ Sayings before the Passion (12:20-36) pp.80-82 第14回：〃 第15回：A Summary Assessment (12:37-50) pp.82-83	
<準備学習等の指示> 毎回該当する箇所を予習して出席すること。	
<テキスト> Matson, Mark A., <u>John.</u> , Westminster John Knox Press, Louisville, Kentucky, 2002. (担当者が用意する)	
<参考書> 授業の中で教員が指示する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。 ※出席が2/3に満たない者は、評価の対象としない。	

現代語科目選択・外国語科目選択	
英語Ⅱb	高砂 民宣
後期・1単位	<登録条件> 学期ごとの登録可
<授業のテーマ> ヨハネ福音書に関して英文で記された注解書を読み、内容について考察する。	
<到達目標> ①英文の注解書に慣れ親しむ。②英文の読解能力を高める。③神学用語や慣用表現を習得する。	
<授業の概要> 英文の注解書を読みつつ、神学用語等についても解説をし、福音書記者の意図について考察する。	
<履修条件> おもに学部2年生が対象。	
<授業計画> 第1回：Unit 7: John 12-13 The Final Path to Jerusalem The Final Supper (13:1-20) pp.83-86 第2回：〃 第3回：Predictions of Betrayal and Denial (13:21-38) pp.86-89 第4回：〃 第5回：Questions for Reflection p.89 第6回：Unit 8: John 14-17 The Farewell Sayings Jesus' Departure and His Promise pp.90-92 第7回：〃 第8回：The Paraclete p.93 第9回：Abide in Me pp.94-96 第10回：〃 第11回：The Love Commandment pp.96-98 第12回：Unity among Believers ~ The Importance of Belief in Jesus pp.98-99 第13回：Opposition pp.99-100 第14回：Jesus' Self-Disclosure in the Farewell Speeches pp.101-102 第15回：Questions for Reflection p.103	
<準備学習等の指示> 毎回該当する箇所を予習して出席すること。	
<テキスト> Matson, Mark A., <u>John.</u> , Westminster John Knox Press, Louisville, Kentucky, 2002. (担当者が用意する)	
<参考書> 授業の中で教員が指示する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 出席および授業参加状況、期末試験など、総合的に評価する。 ※出席が2/3に満たない者は、評価の対象としない。	

現代語科目選択・外国語科目選択	
英語実践 I	ウェイン・ジャンセン
前期・1単位	<登録条件>
<授業のテーマ> 日常的に英語を使うこと。	
<到達目標> 英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。	
<授業の概要> 英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。ビデオを使用することもある。	
<履修条件>	
<p><授業計画></p> <p>英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。</p> <p>第1回 Orientation 第2回 Harmony 第3回 Modesty 第4回 Reserve 第5回 Place, Situation 第6回 Lobbying 第7回 Form 第8回 Discipline 第9回 Craft 第10回 Way, Road 第11回 Reason 第12回 The Way of the Warrior 第13回 Training 第14回 Seeking the truth 第15回 Final Evaluation</p>	
<準備学習等の指示>	
<テキスト> 必要に応じて教室で配布する。	
<参考書>	
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席、ディスカッションの参加、ミニ・テスト、最終評価 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。	

現代語科目選択・外国語科目選択																															
英語実践Ⅱ	ウェイン・ジャンセン																														
後期・1単位	<登録条件>																														
<授業のテーマ> 日常的に英語を使うこと。																															
<到達目標> 英語を実際に使うようになることによって、より深く理解できるようになり、英語で学ぶこともよりできるようになる。																															
<授業の概要> 英語を実際に使うことによって簡単な会話ができるようになり、そして、英語で書かれた文献をより容易に用いることができること。ビデオを使用することもある。																															
<履修条件>																															
<p><授業計画></p> <p>英語による比較的平易な英会話教材を用いることで、英語の話す力と読解力を養う。</p> <table> <tr><td>第1回</td><td>Orientation</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>Feelings</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>Personal Feelings</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>Obligation, Duty</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>Social Debt</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>Inside and Outside, Social Circle</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>True Feelings and Facade</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>Loyalty</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>Hierarchy</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>Service</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>Filial Piety</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>Barriers</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>The Gods</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>Purification</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>Final Evaluation</td></tr> </table>		第1回	Orientation	第2回	Feelings	第3回	Personal Feelings	第4回	Obligation, Duty	第5回	Social Debt	第6回	Inside and Outside, Social Circle	第7回	True Feelings and Facade	第8回	Loyalty	第9回	Hierarchy	第10回	Service	第11回	Filial Piety	第12回	Barriers	第13回	The Gods	第14回	Purification	第15回	Final Evaluation
第1回	Orientation																														
第2回	Feelings																														
第3回	Personal Feelings																														
第4回	Obligation, Duty																														
第5回	Social Debt																														
第6回	Inside and Outside, Social Circle																														
第7回	True Feelings and Facade																														
第8回	Loyalty																														
第9回	Hierarchy																														
第10回	Service																														
第11回	Filial Piety																														
第12回	Barriers																														
第13回	The Gods																														
第14回	Purification																														
第15回	Final Evaluation																														
<準備学習等の指示>																															
<テキスト> 必要に応じて教室で配布する。																															
<参考書>																															
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>出席、ディスカッションの参加、ミニ・テスト、最終評価 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>																															

現代語科目選択・外国語科目選択	
ドイツ語Ⅱ a	福嶋 揚
前期・1単位	<登録条件>
<授業のテーマ> ドイツ語神学書の講読	
<到達目標> この科目を履修することで、学生は神学的な諸概念と思考法に慣れ親しみ、自主的にドイツ語で神学書を読む力を習得する。	
<授業の概要> 現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読む。ユンゲルは本書において、二十世紀のエキュメニズムの動向をふまえつつ、宗教改革の伝統である信仰義認論の本質を解説する。西洋思想の「正義」論の系譜の中で、キリスト教的な「正義」論としての義認論を持つ独自の現代的意義を明らかにした、必読の書である。 前期の前半においては、信仰義認論をめぐる聖書その他の基本的なテキストをドイツ語で読み、準備をととのえる。それからユンゲルの著書をドイツ語で丁寧に読み進めていきたい。	
<履修条件> 初級文法を習得していること。	
<授業計画> 1. 序論 ユンゲルの著書への入門など 2. 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(1) 旧約聖書より 3. 信仰義認論をめぐる、ドイツ語聖書テキスト(2) 新約聖書より 4. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(1) ルター 5. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2) メランヒトン 6. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(2) 和協信条 7. 信仰義認論をめぐる、宗教改革時代のテキスト(3) トリエント公会議の教令 8. 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(1) カール・バルト 9. 信仰義認論をめぐる、現代のテキスト(2) ハンス・キュンク 10. Jüngel, 1-4. (頁数。以下同様。) 11. 4-11. 12. 43-48. 13. 48-52. 14. 52-58. 15. 58-65.	
<準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。	
<テキスト> Eberhard Jüngel, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen ³ 1999. その他のテキストは必要に応じて配布する。	
<参考書> 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。	

現代語科目選択・外国語科目選択	
ドイツ語Ⅱb	福嶋 揚
後期・1単位	<登録条件>
<授業のテーマ> ドイツ語神学書の講読	
<到達目標> 神学的な諸概念と思考法を習得する。	
<授業の概要> ドイツ語Ⅱa(前期)を参照。前期に続いて、現代ドイツの代表的な福音主義神学者の一人であるエバーハルト・ユンゲルの著書『キリスト教信仰の中心としての、神なき者の義認についての福音』を原書で読み進める。	
<履修条件> 初級文法を習得していること。	
<授業計画> 1. Jünger, 65-74. (頁数。以下同様。) 2. 75-86. 3. 86-97. 4. 97-106. 5. 106-114. 6. 114-125. 7. 126-143. 8. 143-155. 9. 156-169. 10. 169-180. 11. 180-190. 12. 191-201. 13. 201-209. 14. 210-220. 15. 221-234.	
<準備学習等の指示> 毎回十分な予習復習が必要。独和辞典を持参。ルター訳ドイツ語聖書も各自持参することが望ましい。	
<テキスト> Eberhard Jünger, Das Evangelium von der Rechtfertigung des Gottlosen als Zentrum des christlichen Glaubens, Tübingen ³ 1999. その他の資料は必要に応じて配布する。	
<参考書> 特に指定しないが、必要に応じて参考資料を配布する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 十分な出席、毎回の十分な予習復習を前提として、筆記試験によって評価する。	

保健体育科目	
体育 I	岡田 光弘
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ></p> <p>自らの日常生活における諸活動を有意義に過ごすための各自の体力維持・向上の運動方法と、生活を豊かにするための基礎的な知識、態度、技術を身につけるとともに、卒業後の活動に役立てるための指導方法も学ぶ。</p>	
<p><到達目標></p> <p>1. 体を動かす楽しさと喜びを再認識するとともに、各自の体力に合わせた健康体力作りの理論と実践を習得する。 2. 宣教・教会活動などに役立つレクリエーション活動の理論と各種活動、及び指導法の習得を目指す。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>主に身体活動を中心とした実技を行う。 各自の体力に合わせたストレッチ体操、他者と楽しむニュースポーツなどのレクリエーション活動を実践し、合わせて具体的な指導方法を学ぶ</p>	
<p><履修条件></p> <p>各自の参加できるレベル、方法で行います。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（クラスの進め方、体育の考え方、レクリエーションの考え方） 2. 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際1（準備体操の意義、正しい体操の方法、ウォーキングフォーム、脈拍を使った体力、運動強度の見極め方） 3. 準備体操、ストレッチ、ウォーキングの理論と実際2（同上） 4. ソフトボール1 *東神大運動会に向けて（用具の知識と安全、キャッチボール・バッティングの基本） 5. ソフトボール2（試合へ向けての基礎技術／キャッチ&スロー、ピッチング、連係プレー） 6. ソフトボール3（基本ルールを理解、模擬試合） 7. ソフトボール4（ノック練習、試合） 8. ニュースポーツ1（フライングディスク／投げ方の基本、取り方の基本、ディスクゴルフの楽しみ方） 9. ニュースポーツ2（フライングディスク／ルール・安全管理の理解） 10. ニュースポーツ3（フライングディスク／ディスクゴルフ） 11. バドミントン1（打ち方） 12. バドミントン2（ルール・安全管理の理解） 13. バドミントン3（試合） 14. バドミントン3（指導法） 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動に適した服装に着替えること。 2. それぞれの種目に適した靴を用意すること。 3. 体調に十分留意すること。 	
<p><テキスト></p> <p>井上俊・菊幸一（編）『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房（購入の必要はありません。）</p>	
<p><参考書></p> <p>橋本純一（編）『現代メディアスポーツ論』世界思想社（購入の必要はありません。） その他、授業でお伝えします。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>技能：60% 時間ごとの観察により評価します。 知識：20% 実際にゲームを進行していく知識を評価します。 態度：20% 運動に適した服装などの用意ができていないか、授業に積極的に参加しているかを評価します。出席が2/3に満たない場合、成績評価の対象にしません。</p>	

保健体育科目	
体育Ⅱ	岡田 光弘
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ></p> <p>自らの日常生活における諸活動を有意義に過ごすための各自の体力維持・向上の運動方法と、生活を豊かにするための基礎的な知識、態度、技術を身につけるとともに、卒業後の活動に役立てるための指導方法も学ぶ。</p>	
<p><到達目標></p> <p>1. 体を動かす楽しさと喜びを再認識するとともに、各自の体力に合わせた健康体力作りの理論と実践を習得する。 2. 庭球と卓球について、練習法、ルール、試合に必要な技術について学ぶことで、その基礎を獲得します。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>庭球、卓球の試合が行えるようになるために、以下の事柄について学びます。</p> <p>1. ゲームを構成するすべての技術について、その技術を習得します。 2. ゲームを構成するすべてのルールを習得します。 3. 学期が終わったあとも自己学習ができるように練習の仕方を学びます。</p>	
<p><履修条件></p> <p>自の参加できるレベル、方法で行います。</p>	
<p><授業計画></p> <p>1. オリエンテーション 2. コーディネーション・トレーニングの理論と実践 3. テニスのルールと用具の歴史（以下、テニス） 4. フォアハンドボレー、バックハンドボレー 5. フォアハンド・ストローク （トップスピン打法の習得） 6. バックハンド・ストローク、ミニゲーム 7. サービスとレシーブ 8. ダブルス・ゲーム 9. シングルス・ゲームとテニスのまとめ 10. ピンポン、卓球のルールと用具の歴史（以下、卓球） 11. バックハンド・ショート（またはハーフボレー） （ドライブサーブとカットサーブ） 12. フォアハンド・ストローク （ドライブ打法の習得） 13. 多球練習による分習法、制限付きゲームによる全習法 14. シングルスとダブルスの試合 15. まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>1. 運動に適した服装に着替えること。 2. それぞれの種目に適した靴を用意すること。 3. 体調に十分留意すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>井上俊・菊幸一（編）『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房（購入の必要はありません。）</p>	
<p><参考書></p> <p>橋本純一（編）『現代メディアスポーツ論』世界思想社（購入の必要はありません。） その他、授業でお伝えします。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>技能：60% 時間ごとの観察により評価します。 知識：20% 実際にゲームを進行していく知識を評価します。 態度：20% 運動に適した服装などの用意ができているか、授業に積極的に参加しているかを評価します。出席が2/3に満たない場合、成績評価の対象にしません。</p>	

専門教育科目必修・聖書神学関係	
旧約聖書神学 I	小友 聡
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 旧約緒論の総論と五書問題について考察する。</p>	
<p><到達目標> 旧約聖書とは何かという根本問題に歴史的文献学的見地から取り組み、旧約聖書の全体像をつかむ。旧約聖書を学問的に考察することに慣れる。</p>	
<p><授業の概要> 正典としての旧約聖書の成立過程と歴史的背景、さらに本文伝承の歴史を概観する。そのあと、五書批判の諸問題について考察する。(申命記はⅡで扱う)</p>	
<p><履修条件> 旧約聖書神学ⅡおよびⅢより先に受講することが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 旧約聖書入門 3. 近代の旧約聖書学研究史 (ヴェルハウゼンまで) 4. 近代の旧約聖書学研究史 (ヴェルハウゼン以降) 5. 正典とは何か 6. 旧約正典形成史 7. 正典と本文 8. 本文伝承の歴史 9. 古代語訳概観 10. モーセ五書批判 (総論) 11. モーセ五書批判 (研究史の諸問題) 12. ヤーウィスト 13. エローヒスト 14. 祭司文書 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 旧約聖書を通読していることを前提としている。教科書をよく読むこと。聖書学の学術的な議論に戸惑う人がいるかも知れないが、旧約聖書を理解したいという意欲を持って授業を聴き、わからないことは質問すること。</p>	
<p><テキスト> 左近淑 (大住編) 『旧約聖書緒論講義』 教文館 (2004年増補版) を各自購入すること。</p>	
<p><参考書> レジュメと文献表を授業中に配布する。</p>	
<p><学生に対する評価 (方法・基準) > 学期末に筆記試験をして評価する。出席重視。また、共通評価指標 (1) の①～③を重視する。</p>	

専門教育科目必修・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ⅱ	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 旧約聖書の申命記および申命記的歴史、歴代誌的歴史、また知恵文学と詩文学を旧約学的に考察する。</p>	
<p><到達目標> 五書と申命記的歴史の繋がり、また申命記的歴史と歴代誌的歴史の緊張関係を理解し、さらに知恵文学と詩文学の全体像を把握する。</p>	
<p><授業の概要> 申命記および申命記的歴史、歴代誌的歴史、知恵文学、詩文学について、テキストに従って概観する。</p>	
<p><履修条件> 旧約聖書神学Ⅰを履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 申命記的歴史（総論およびM.ノート以前の研究史） 3. 申命記的歴史（M.ノート以降の研究史） 4. 申命記的歴史（各論） 5. 申命記（総論） 6. 申命記（各論） 7. 歴代誌的歴史（総論） 8. 歴代誌的歴史（各論） 9. 知恵文学（総論） 10. 知恵文学（ヨブ記） 11. 知恵文学（箴言、コヘレトの言葉） 12. 詩編（総論） 13. 詩編（各論） 14. その他の詩文学 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 教科書をよく読むこと。旧約聖書をよく理解したいという意欲をもって講義に臨むこと。</p>	
<p><テキスト> 左近淑（大住編）『旧約聖書緒論講義』教文館（2004年増補版）を各自用意すること。 なお、上記テキストで扱われていない授業項目は、W.H.シュミット（木幡訳）『旧約聖書入門上・下』教文館が役に立つ。</p>	
<p><参考書> レジュメと文献表を授業中に配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末に筆記試験をし、評価する。出席重視。また共通評価指標（1）の①～③を重視する。</p>	

専門教育科目必修・聖書神学関係	
旧約聖書神学Ⅲ	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<授業のテーマ> 預言者概論および「預言書」各書の緒論的解説を行う。	
<到達目標> 預言者とは何かというキリスト者の本源的関心に答えられるようになる。	
<授業の概要> 「預言者」とは何か、預言「書」とは何か、預言者はどのようにして他に比べるものない神の言葉の伝承を生み出したのか、「預言」とは何か、これらの諸問題を明らかにする。また、近年盛んに議論されている預言書の形成の問題を考察する。	
<履修条件>旧約聖書神学Ⅰ履修済みまたは並行して履修中であること	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「預言者」という書物群（正典第二部）と預言書： 課題の設定とレジュメの配付 2. 預言者とは何か： G・フォン・ラートおよび彼以降の預言者論を概観する。 3. 預言者と伝承史：フォン・ラートらの預言者論を可能にした伝承史的テキスト理解を説明する 4. イザヤ書と8世紀の預言者イザヤ：イザヤ書が描き出す8世紀の預言者イザヤの預言の特質を論じる。しかし、イザヤ書から預言者イザヤの姿は、どの程度読み取れるのであろうか。 5. 「第二イザヤ」とイザヤ書成立史：「第二イザヤ」とは何者か。なぜイザヤ書の中にあるのか 6. 預言と黙示：イザヤ書の編集の枠組みとなっている黙示文学的テキストを概観する。 7. 十二小預言書：十二人の預言者の預言と物語を概観する。 8. アモスとホセア：十二預言者のうち8世紀北王国の二人の預言者の預言の特質を考察する。 9. エレミヤ書の構造：エレミヤ書の文学的構造を理解する。原マソラ本文のエレミヤ書と七十人訳エレミヤ書の構造の違いを考察する。 10. 預言と預言者物語：預言書に含まれる預言者物語の意味を論じる。また、「前の預言者」（歴史書）と「後の預言者」（いわゆる預言書）の関係を考察する。なぜそこにヨナ書があるのか 11. 申命記史家の預言書編集：エレミヤ書は申命記史家の編集になると言われる。学説を吟味する 12. エゼキエルの幻：エゼキエル書の構造と、その背後にある歴史を理解する。 13. 審判預言と救済預言：エルサレムの破壊と預言者の使信の転回をあとづける。 14. ダニエル書：黙示文学の特徴を解説する。 15. まとめおよび知識の再確認 	
<準備学習等の指示>聖書の預言書および歴史書（とくにその）預言者物語を熟読すること。	
<テキスト>左近淑『旧約聖書緒論講義』（2004年増補版）教文館。各自で準備すること。	
<参考書>授業中にレジュメを配付し、その中で参考文献を指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）>授業への参加と期末の小レポートによって成績をつける。理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。レポートの課題は、夏休み前に提示する。	

専門教育科目必修・聖書神学関係	
旧約聖書釈義 a	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<授業のテーマ> 旧約聖書に基づく説教を目指して釈義の課題を考え、また、その思想と手法を学ぶ。	
<到達目標> 釈義の手法の概略を知る	
<授業の概要> 言語学的、文献学的、文学的、歴史学的方法と知見を土台とする釈義が、どのようにして神学的営為となりうるか、神学的に考えるとどのようなことであり、釈義においてどのように位置づけられるかを論じる。また神学辞典や注解書など、第二次文献の使い方を解説する。今回は申命記の祝福と呪いに方法をあてはめてみる。	
<履修条件> 旧約聖書神学 I を履修済みであることが望ましい。	
<授業計画> <ol style="list-style-type: none"> 1. 釈義の道具立て 2. 聖書翻訳の問題 3. 注解書ガイド 4. 本文批判 何を知らねばならないか 5. 文献批判 合理的分析 6. 伝承史 もともとどういうテキストであったか 7. 編集史 文献発展の歴史 8. 様式史の思想的基盤と問題点 9. テキストの最終形態 10. 歴史的な文脈と釈義 11. テキストの神学的考察 12. 正典批判と影響史 今日までどう理解されてきたか 13. 釈義の手順 14. 釈義と説教 15. まとめと知識の再確認 	
<準備学習等の指示>	
<テキスト> 普段出席している教会で使っている日本語訳聖書。	
<参考書> 第一回授業の中で釈義方法論の教科書とその入手方法を紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加と期末の小レポートによって成績をつける。理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、小レポートを提出することができない。レポートの課題は、夏休み前に提示する。	

専門教育科目必修・聖書神学関係	
旧約聖書釈義 b	大住 雄一
後期・2単位	<登録条件>
<授業のテーマ>旧約聖書に基づく説教を目指して釈義の課題を考え、また、その思想と手法を学ぶ。bでは特に実際に手続きを自分で用いてみる。	
<到達目標>釈義の手法を身に付ける。	
<授業の概要>旧約聖書釈義 a で学ぶ釈義方法を、具体的な旧約テキストに適用して釈義を試みる。本年度は申命記の祝福と呪いに関するテキストを読む。	
<履修条件>本年度に旧約 聖書釈義 a を履修したことを前提とするが、bのみの履修可。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 申命記において祝福と呪いとは何か 2. 諸翻訳の読み比べ 3. 注解書ガイド 4. 本文 5. テキストの形 6. 伝承史 7. 宗教史 8. 旧約における祝福と呪い 9. ユダヤ教における祝福と呪い 10. 釈義レポートの書き方 11. 祝福の歴史 12. 祝福の神学 13. 正典批判 14. 釈義と説教 15. まとめ 	
<準備学習等の指示>各回の授業に先立って、扱われる方法をテキストに適用してみること。	
<テキスト>普段出席している教会で使っている日本語訳聖書。	
<参考書>	
<学生に対する評価（方法・基準）>授業最終日に人間の創造に関する釈義レポートを提出する。理由なく授業の三分の一以上欠席した者は、レポートを提出することができない。	

専門教育科目必修・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅰ	中野 実
前期・2単位	<登録条件> 新約聖書神学□と通年で履修すること
<授業のテーマ> 新約聖書神学の諸課題について学ぶ。	
<到達目標> 新約聖書がいかなる書物であるかを深く把握し、新約聖書を学問的に読むことの神学的意義を理解できるようにする。	
<授業の概要> 新約聖書神学□では、おもに講義を通して、まず序論として、聖書とは何か？聖書学、聖書神学とは何か？聖書正典とは何か、などについて学ぶ。次に各論に入り、福音書研究の基礎的事柄について学ぶ。	
<履修条件>ギリシャ語Ⅰを並行して履修していること	
<p><授業計画></p> <ul style="list-style-type: none"> ①聖書を学問的に読むとは？ 聖書とは何か？ ②聖書を学問的に読むとは？ 聖書を学問の対象にするとは？ ③聖書を学問的に読むとは？ 聖書学とは？聖書の批判的研究。 ④聖書を学問的に読むとは？ 近代、現代聖書学のルーツとその展開 ⑤新約聖書とは何か？ 新約聖書という名称について ⑥新約聖書とは何か？ 旧約聖書について ⑦新約聖書とは何か？ 新約聖書の文学、初期キリスト教文学としての新約聖書 ⑧新約聖書とは何か？ 正典としての新約聖書⑨正典とは？ ⑩新約聖書とは何か？ 正典としての新約聖書⑩正典化プロセス ⑪新約聖書とは何か？ 新約聖書の写本について ⑫新約聖書とは何か？ 新約聖書の時代史について ⑬福音書とは何か？ 福音と福音書 ⑭福音書文学： 福音書は伝記か？ ⑮共観福音書問題1 共観福音書とは何か？それらをめぐる諸仮説 ⑯共観福音書問題2 マルコ優先説、二資料仮説、Q資料などについて 	
<準備学習等の指示>聖書を日頃からよく読むこと。	
<テキスト>旧・新約聖書。旧約聖書も必ず持ってくる事。	
<参考書>樋口、中野『聖書学用語辞典』日本基督教団出版局、およびタイセン『新約聖書：歴史、文学、宗教』教文館。その他、必要に応じてクラスで指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）>出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。評価は、期末のレポート（および小テスト）に基づいてなされる。レポートにおいては、課題やテキストを正しく理解しつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかの評価の指標となる。	

専門教育科目必修・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅱ	中野 実
後期・2単位	<登録条件> 新約聖書神学□と通年で履修すること
<授業のテーマ> 新約聖書を学問的に読むことの神学的意義を理解しつつ、福音書について学ぶ。	
<到達目標> 新約聖書正典に含まれる四福音書に関する学問的基礎知識を身につけることができる	
<授業の概要> 新約聖書神学□での学びを前提にしつつ、四福音書それぞれが有している歴史的、文学的、神学的特徴について学ぶ。	
<履修条件>ギリシャ語Ⅱを並行して履修していること。	
<授業計画> (1)マルコ福音書：緒論的歴史的諸問題 (2)マルコ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開 (3)マルコ福音書：神学的諸問題 (4)マタイ福音書：緒論的歴史的諸問題 (5)マタイ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開 (6)マタイ福音書：神学的諸問題 (7)ルカ福音書：緒論的歴史的諸問題 (8)ルカ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開 (9)ルカ福音書：神学的諸問題 (10)ヨハネ福音書：歴史的諸問題 (11)ヨハネ福音書：文学的諸問題 構成、物語展開 (12)ヨハネ福音書：神学的諸問題 (13)ルカ文書について (14)ヨハネ文書について (15)まとめ	
<準備学習等の指示>新約聖書神学□の項目を参照	
<テキスト>旧、新約聖書。ギリシャ語新約聖書も持参すること。	
<参考書>必要に応じて、クラスで指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）>出席が三分の二に達しない場合、原則として評価の対象にしない。評価は、期末レポートを中心になされる。レポートにおいては、課題やテキストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であることが求められる。	

専門教育科目必修・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅲ	烧山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 使徒パウロの伝道活動と神学をコリントの信徒への手紙一を通して学ぶ。</p>	
<p><到達目標> コリント一を手がかりにパウロ神学全体を見通せるようになる。</p>	
<p><授業の概要> パウロの活動全般、コリント一が書かれた状況、コリント一の神学について研究する。</p>	
<p><履修条件> ギリシア語履修を終わっていること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パウロの伝道旅行 使徒言行録とパウロ真正書簡の比較による概観 2. コリント一 1章、16章 手紙の始まりと終わり 3. コリント一 2章、十字架の言葉 4. コリント一 3章、霊の人と肉の人 5. コリント一 4章、パウロの使命 6. コリント一 5章、6章、教会内での紛争の処理 7. コリント一 7章、結婚について 8. コリント一 8章、偶像に供えられた肉 9. コリント一 9章、使徒の権利とパウロの権利放棄 10. コリント一 10章、悪霊とは 11. コリント一 11章、礼拝における秩序の問題 12. コリント一 12章、13章、愛 13. コリント一 14章、異言と預言 14. コリント一 15章、キリストの復活 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示> 聖書、テキストを読んで授業に臨むこと。</p>	
<p><テキスト> R.B.ヘイズ『現代聖書注解 コリントの信徒への手紙一』日本基督教団出版局、2001年各自準備のこと。</p>	
<p><参考書> 適宜紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席状況、授業参加、課題、期末試験を総合的に評価する。</p>	

専門教育科目必修・聖書神学関係	
新約聖書釈義 a	中野 実
前期・2単位	<登録条件> 学部4年生を中心としたクラス
<授業のテーマ> 新約聖書に関する学問的な釈義の方法について学ぶクラス	
<到達目標> このクラスを通して、釈義の方法論を身につけ、より主体的に新約聖書の解釈にたずさわることができるようになる。	
<授業の概要> 前期は、概論ののち、フィー『新約聖書の釈義』を主として用いつつ、釈義の方法について学ぶ。	
<履修条件>ギリシア語初級文法をすでに履修済みであること。通年で履修する事。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション：クラスの目標と課題について ②釈義とは何か？ 釈義の具体的課題について ③フィー『新約聖書の釈義』序論および第1章「釈義の全過程についての手引き」 ④ステップ1 歴史的脈略の概観 ⑤ステップ2 章句の区切りの確認 ⑥ステップ3 段落・ペリコーペの熟知：説明 ⑦ステップ3 段落・ペリコーペの熟知：実践：暫定訳の作成、他の翻訳との比較など。 ⑧ステップ4 文の構成と統語的關係の分析：説明 ⑨ステップ4 文の構成と統語的關係の分析：実践、文の流れの図式化 ⑩ステップ5 本文の確定：本文批評の説明 ⑪ステップ5 本文批評の実際 ⑫ステップ6 文法の分析：説明 ⑬ステップ6 文法の分析：実践 ⑭説教のための釈義とは？ ⑮説教の準備について <p>顔ぶれや進み具合などを勘案しながら、スケジュールを変更する場合もある。</p>	
<準備学習等の指示>釈義は、ただ講義を聴いているだけでは身に付かない。実際に自分で試みて見る事が必要。釈義は苦勞して身につけるしか道はない！ギリシア語新約聖書をコツコツ読む努力をすること、また教科書をよく読んで出席すること。	
<テキスト>ゴードン・フィー『新約聖書の釈義』教文館、1998年、および中野ほか『新約聖書解釈の手引き』日本基督教団出版局、2016年をクラスの初回までに各自で購入しておくこと。ギリシア語の新約聖書も毎回持参すること。	
<参考書>必要に応じて、クラスで指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）>出席が三分の二に達していない場合、原則として評価の対象としない。毎回のクラスでの姿勢、期末のレポートなどによって総合的に評価する。レポートにおいては、テキストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかの評価の指標となる。	

専門教育科目必修・聖書神学関係	
新約聖書釈義 b	中野 実
後期・2単位	<登録条件>学部4年生を中心としたクラス
<授業のテーマ>新約聖書の釈義の方法と実践を学ぶ。	
<到達目標>このクラスを通して、基本的な釈義の技術を身につけ、より主体的に新約聖書の解釈にたずさわることができるようになる。	
<授業の概要>後期も引き続き、フィーの教科書を用いるが、『新約聖書解釈の手引き』などを通して、新しい方法論についても学びを進める。	
<履修条件>ギリシア語初級文法をすでに履修済みであること。通年で履修する事。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ①フィーの教科書の続き、ステップ7 語の分析：その説明 ②ステップ7 語の分析：その実践 ③ステップ8 歴史的文化的背景の探求：その説明と文献紹介 ④ステップ8 歴史的文化的背景の探求：具体例 ⑤書簡の釈義、ステップ9 書簡文学の特徴と形式について ⑥書簡の釈義、ステップ9 書簡文学の修辭的分析について ⑦書簡の釈義、ステップ10 小区分、読者、キーワードなどの分析 ⑧書簡の釈義、ステップ11 文学的コンテクストの確定 ⑨福音書の釈義、福音書テキストの性質、福音書をめぐる諸仮説 ⑩福音書の釈義、ステップ9 福音書の文学類型 ⑪福音書の釈義、ステップ9 福音書の文学的様式、伝承 ⑫福音書の釈義、ステップ10 共観表の使い方 ⑬福音書の釈義、ステップ11 史的イエス研究 ⑭歴史批評学的方法論の限界、それを乗り越える方法論。 ⑮まとめ 	
<準備学習等の指示>新約釈義 a の同項目を参照。	
<テキスト>新約釈義 a の同項目を参照。	
<参考書>必要に応じて、クラスで指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）>出席が三分の二に達していない場合、原則として評価の対象としない。毎回のクラスでの姿勢、期末のレポートなどによって総合的に評価する。レポートにおいては、テキストに対する適切な理解に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であるかどうかの評価の指標となる。	

専門教育科目必修・聖書神学関係	
ギリシャ語Ⅰ（1,2）	三永 旨従
前期・4単位	<登録条件>
<授業のテーマ> 聖書のギリシャ語文法の基礎的理解を身につけ、その基本的読解能力を養う。	
<到達目標> ギリシャ語新約聖書を正確に読む力をつける。基本的ギリシャ語文法、およびコンコードダンス・辞書の使い方を修得する。	
<p><授業の概要> 前期は基本的文法を中心とする。</p> <p>新約聖書のギリシャ語理解のために、テキストに則して基本文型を身につけていく。目的はあくまで新約文書群の読解にあるために練習問題は、ギリシャ語の日本語訳に限定する。授業の合間に、少しずつ、ギリシャ語新約聖書に慣れることも同時に行なう。前後期を通じ、特に原典で新約文書群を読むことの具体的な意義、及びそこから生じる違いについても学んでゆく。</p>	
<履修条件> ギリシャ語Ⅱと通年で履修する。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新約聖書を原典で読むことについて 2. 写本について 3. 新約聖書のギリシャ語の特色 4. 文字と発音 5. 単語と音節 6. ギリシャ語のアクセントの特色 7. 句読点 8. ギリシャ語動詞の活用について 9. 動詞活用－現在形 10. ギリシャ語名詞の特色 11. 名詞の変化－男性形 12. 名詞の変化－女性形 13. ギリシャ語前置詞の特色 14. 前置詞の用法 15. 受動形能動態について 16. 中動形動詞のいろいろ 17. 動詞活用－中動形 18. 動詞活用－受動形 19. ギリシャ語人称代名詞の特質 20. 人称代名詞 21. 未完了形動詞の特質 22. 動詞活用－未完了形 23. ギリシャ語の過去時制について 24. アオリスト形動詞の特質 25. 動詞活用－第一アオリスト形 26. 動詞活用－第二アオリスト形 27. ギリシャ語の形容詞の特質 28. ギリシャ語の形容詞の性、数、格 29. 形容詞の変化－男性形 30. 形容詞の変化－女性形 	
<準備学習等の指示> 暗記するべき課題の多い教科である故、予習、復習とは別に各自さらにはグループ学習で反復練習する時間を取ることが望ましい。	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・J. G. メイチェン著 田辺滋訳『新約聖書 ギリシャ語原典入門』新生宣教団（学生各自で用意する。） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。） 	
<参考書> なし	
<学生に対する評価（方法・基準）> 各授業時間に行なわれる練習問題、及び学期末の試験（口頭試問）	

専門教育科目必修・聖書神学関係	
ギリシャ語Ⅱ	三永 旨従
後期・2単位	<登録条件>
<授業のテーマ> 新約聖書原典を辞書その他の手段を用いながらも一人で読解できる能力を養う。	
<到達目標> ギリシャ語文法の理解を深め、読解能力を習得する。	
<p><授業の概要> ギリシャ語Ⅰに続けて基礎文法を終わらせ、具体的な新約文書群の読解に入る。各授業毎にギリシャ語特有の文法体系に由来する特徴を具体的にテキストにあたって学ぶ。基本文法を終わらせると同時に、実際に新約文書群を読む際に、大きな障害となり易い点（分詞構文、不定詞構文等）にも焦点をあてる。上記の留意点を考慮しつつ、より平易な新約文書を実際に読んでいく。</p>	
<履修条件> ギリシャ語Ⅰの履修	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞の変化一分詞 2. 母音融合動詞 3. 流音動詞 4. 動詞の変化－不定法 5. 動詞の変化－希求法 6. 疑問代名詞 7. 関係代名詞 8. 動詞の変化－命合法 9. 特殊形動詞 10. 冠詞とその用法 11. 動詞の変化－接続法 12. 数詞 13. 独立属格の構文 14. 不定詞+名詞の目的格の構文 15. 分詞の述語的用法 	
<準備学習等の指示> 暗記するべき課題の多い教科である故、予習、復習とは別に各自反復練習する時間を取ることが望ましい。	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・J. G. メイチェン著 田辺滋訳『新約聖書 ギリシャ語原典入門』新生宣教団（学生各自で用意する。） ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE または UBS 版 Greek New Testament（学生各自で用意する。） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。） 	
<参考書> なし	
<学生に対する評価（方法・基準）> 各授業時間に行なわれる練習問題、及び学期末の試験（筆記試験）	

専門教育科目必修・組織神学関係	
組織神学 I a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件> 組織神学 I bと通年で履修すること
<授業のテーマ> 組織神学の一分野としての教義学の概説として、教義学とは何かについて、さらには、キリスト教の信仰内容の体系を学ぶ。	
<到達目標> ①教義学という学問の特徴、②教義学上の基本的な用語とその意味、③キリスト教の信仰内容の体系的な姿を理解する。	
<授業の概要> 佐藤敏夫の『キリスト教神学概論』（新教出版社）に準拠しながら、伝統的な順序を踏まえて、教義学の内容を順に講義する。前期は序説から創造論まで。	
<履修条件> 学部2年生以上であること。	
<授業計画> 第一回 I. 序説 1. 神学と教会 第二回 2. 伝統の問題 第三回 3. 教義学的な語り①象徴 第四回 3. 教義学的な語り②神話 第五回 4. 聖書の権威①正典として 第六回 4. 聖書の権威②神の言葉として 第七回 5. 啓示 第八回 6. キリスト教と諸宗教 第九回 II. 神論 7. 三位一体 第十回 8. 神の本質と属性 第十一回 9. 選びの信仰 第十二回 III. 創造論 10. 創造 第十三回 11. 摂理 第十四回 12. 人間 第十五回 前期のまとめ	
<準備学習等の指示> よくノートを取ること。	
<テキスト> 特になし。	
<参考書> H・G・ペールマン、『現代教義学総説』、新版、蓮見和男訳（新教出版社）；A・E・マクグラス、『キリスト教神学入門』、神代真砂実訳（教文館）。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の小課題とレポートの総合による。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。	

専門教育科目必修・組織神学関係	
組織神学 I b	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件> 組織神学 I a と通年で履修すること。
<授業のテーマ> 前期と同じ。	
<到達目標> 前期と同じ。	
<授業の概要> 前期と同じ。後期は創造論の続きに始まり、終末論まで。	
<履修条件> 学部2年生以上であること。	
<p><授業計画></p> <p>第一回 III. 創造論（続き）</p> <p>13. 罪</p> <p>第二回 14. 悪の問題</p> <p>第三回 IV. 和解論</p> <p>15. 受肉①永遠と時間</p> <p>第四回 15. 受肉②両性論</p> <p>第五回 16. 十字架①必然性</p> <p>第六回 16. 十字架②意味</p> <p>第七回 17. 復活</p> <p>第八回 18. 救済論①義認</p> <p>第九回 18. 救済論②聖化</p> <p>第十回 19. キリスト教的な生活</p> <p>第十一回 20. 聖霊</p> <p>第十二回 21. 教会①キリストのからだ</p> <p>第十三回 21. 教会②教会の標識</p> <p>第十四回 V. 終末論</p> <p>22. 終末</p> <p>第十五回 後期のまとめ</p>	
<準備学習等の指示> 前期と同じ。	
<テキスト> 前期と同じ。	
<参考書> 前期と同じ。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期中の小課題とレポートの総合による。評価にあたっては、共通評価指標（1）の①～④の内容を重視する。	

専門教育科目必修・組織神学関係	
組織神学Ⅱ a	須田 拓
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 組織神学の中の倫理学について扱う。</p>	
<p><到達目標> 倫理学の基礎的な知識を身につけ、倫理学の諸課題について、信仰的・神学的に考えることができるようになる。</p>	
<p><授業の概要> 倫理学とは何か、倫理がどのような根拠によって、どのような方向性をもって考えられるべきであるのかを講義し、その上で、人格を形成する倫理学について検討する。</p>	
<p><履修条件> 組織神学Ⅰを履修済みか、並行して履修していること。</p>	
<p><授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 倫理学とは何か 第3回 組織神学における倫理学の位置 第4回 倫理学の基礎づけ(1) 自然法による基礎づけの問題 第5回 倫理学の基礎づけ(2) 啓示への基礎づけとその方法 第6回 人間論と倫理 第7回 終末論と倫理 第8回 中間総括 第9回 倫理学の方向性 主観的倫理と客観的倫理 第10回 人格形成の倫理学(1) 概要 第11回 人格形成の倫理学(2) 徳とその形成 第12回 人格形成の倫理学(3) 習慣(habitus)とその形成の可能性 第13回 人格形成の倫理学(4) 愛と勇気 第14回 人格形成の倫理学(5) 誠実と正義 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 特になし。授業の中で必要に応じて指示する。</p>	
<p><参考書> 授業において、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加状況およびレポートによって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標(1)記載項目中の①, ③, ④を特に重視する。</p>	

専門教育科目必修・組織神学関係	
組織神学Ⅱ b	須田 拓
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 組織神学の中の倫理学について扱う。</p>	
<p><到達目標> 倫理学の諸分野について、基礎的な知識を身につけ、信仰的・神学的に考えることができるようになる。</p>	
<p><授業の概要> 前期の内容を踏まえて、共同体論について、また文化を形成する倫理学について検討する。</p>	
<p><履修条件> 組織神学Ⅰを履修済みか、並行して履修していること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 個人と共同体(1) 共同体の必要性</p> <p>第3回 個人と共同体(2) 共同体の種類と新しい共同体</p> <p>第4回 文化形成の倫理学(1) 概要</p> <p>第5回 文化形成の倫理学(2) 信仰と文化</p> <p>第6回 文化形成の倫理学(3) 近代世界の形成とプロテスタンティズム</p> <p>第7回 文化形成の倫理学(4) 近代的文化価値</p> <p>第8回 中間総括</p> <p>第9回 文化形成の倫理学(5) 「ポストモダン」とその問題</p> <p>第10回 文化形成の倫理学(6) 国家と社会</p> <p>第11回 文化形成の倫理学(7) 家庭</p> <p>第12回 文化形成の倫理学(8) 生命倫理</p> <p>第13回 文化形成の倫理学(9) 平和について</p> <p>第14回 倫理学の現代的課題</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 特になし。授業の中で、必要に応じて指示する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加状況及びレポートによって評価する。 評価にあたっては、共通評価指標(1)記載項目中の①, ③, ④を特に重視する。</p>	

専門教育科目必修・組織神学関係	
組織神学Ⅲ a	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 前期研究学期のため後期 a, b を同時に履修すること。
<授業のテーマ> 弁証学とは、教会の信仰にしっかり立ち、福音の真理性を同時代に向かって明証する学問である。	
<到達目標> 主として無神論、多神論、神義論の三大テーマを中心に、福音伝道に必要な基礎理論と考え方を身につける。	
<授業の概要> 前期では信仰と理性、信仰と科学、無神論、宗教批判、世俗化論のテーマに取り組む。	
<履修条件> 組織神学Ⅰ、Ⅱを履修していること。	
<授業計画> 第1回：弁証学の課題と方法について、序論的な考察を行う。 第2回：福音と文化の関係について考察する。 第3回：信仰と理性の関係について考察する。 第4回：知解を求める信仰について考察する。 第5回：信仰と科学をめぐって、近代以降の見解を整理して考察する。 第6回：信仰と科学をめぐって、自然を読む技法と進化論の問題を取り上げる。 第7回：無神論の立場からなされた宗教批判を考察する。 第8回：神学的な立場からなされた有神論批判を考察する。 第9回：P.ティリッヒと H.R.ニーバーによる宗教批判を考察する。 第10回：カール・バルトの宗教批判を考察する。 第11回：ゴッタルデンとコックスの世俗化論を考察する。 第12回：T.ルックマンの世俗化論を考察する。 第13回：P.バーガーの世俗化論を考察する。 第14回：K.レーヴィット、H.ブルーメンベルク、D.リースマン、N.ボルツの近代化論を考察する。 第15回：これまでの議論を総括する。	
<準備学習等の指示> ノートを取って、よく復習しておくこと。	
<テキスト> 芳賀力『神学の小径Ⅰ』教文館、2008年。『神学の小径Ⅱ』2012年。『神学の小径Ⅲ』2015年。希望者には著者割引で頒布する。	
<参考書> 授業の中で指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を重視する。総括としてレポートをまとめてもらう。	

専門教育科目必修・組織神学関係	
組織神学Ⅲ b	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件>前期研究学期のため後期 a, b を同時に履修すること。
<p><授業のテーマ> 弁証学とは、教会の信仰にしっかり立ち、福音の真理性を同時代に向かって明証する学問である。</p>	
<p><到達目標> 主として無神論、多神論、神義論の三大テーマを中心に、福音伝道に必要な基礎理論と考え方を身につける。</p>	
<p><授業の概要> 後期では宗教的多元主義、多元的社会における共同体論、神義論的諸問題のテーマに取り組む。</p>	
<p><履修条件> 組織神学Ⅰ、Ⅱを履修していること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：J.ヒック、D.ベイリー、G.ランプらの宗教的多元主義を考察する。</p> <p>第2回：宗教的排他主義、包括主義、多元主義を考察する。</p> <p>第3回：宗教の共通主題と多元主義、原理と人格の問題を考察する。</p> <p>第4回：多元主義と A.マッキンタイアーの共同体論を考察する。</p> <p>第5回：多元主義と R.ベラーの共同体論を考察する。</p> <p>第6回：多元主義と M.ウォルツァーの共同体論を考察する。</p> <p>第7回：G.ローフィンクと使徒的共同体論を考察する。</p> <p>第8回：パラクレシスと使徒的共同体論を考察する。</p> <p>第9回：神義論的問いを神学的に取り扱う方法論を考察する。</p> <p>第10回：悪の認識をめぐる問題を考察する。</p> <p>第11回：悪の由来をめぐる問題を考察する。</p> <p>第12回：悪の理由をめぐる問題を考察する。</p> <p>第13回：悪の克服Ⅰをめぐって、義認論と復活論を考察する。</p> <p>第14回：悪の克服Ⅱをめぐって、聖霊論と終末論を考察する。</p> <p>第15回：これまでの議論を総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> ノートを取って、よく復習しておくこと。</p>	
<p><テキスト> 拙著『使徒的共同体』教文館、2004年。『自然、歴史そして神義論』日本基督教団出版局、1991年。</p>	
<p><参考書> 授業の中で指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席を重視する。総括としてレポートをまとめてもらう。</p>	

専門教育科目必修・歴史神学関係	
教会史 I	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 学部3年で履修するのが望ましい。
<授業のテーマ> 「古代地中海世界と古代教会の発展」	
<到達目標> 教会史の出発点にあたる古代教会史は、その後続く教会史のしくみや基礎をすえた時代である。そうした古代教会史の意義と発展の姿を史料や講義を通し学ぶ。	
<授業の概要> 1) 古代ローマ帝政期の地中海世界に誕生した古代教会の形成と発展の過程を、二期に分けて、古代異教社会の「キリスト教化」の運動として考察する。2) 考察の焦点は、文明環境の社会・宗教的变化、国家と教会、教皇制の発展、教理神学、霊的生活の形成と伝道などである。	
<履修条件> 世界史の基礎知識がある程度必要とされるので、下記の副読本で基礎知識を補うこと。	
<p><授業計画></p> <p>第1回 コース紹介、序論の講義：教会史をどう見るのか？古代教会史の学びの意義はなにか？</p> <p>第2回 古代ローマ文明の社会・宗教的变化概観（1）：「キリスト教化」をめぐるマクマーレン理論の紹介</p> <p>第3回 社会・宗教变化概観（2）：P. ブラウンの理論の紹介と議論。議論の総括</p> <p>第4回 国家と教会（1）：初期ローマ帝政期の宗教政策からコンスタンティヌス帝のキリスト教改宗までの政教関係の変化（BC27-AD313）を史料と講義でたどる</p> <p>第5回 国家と教会（2）：コンスタンティヌスの改宗からフランク王国の成立まで（AD313-750）をたどる</p> <p>第6回 中間試験（30分）。古代教会の職制の発展（1）：全般的な発展概観</p> <p>第7回 職制の発展（2）：ローマ教皇制の発展を史料を読みつつ考える</p> <p>第8回 教理と神学（1）：啓示、聖書と伝統をテーマとして、教理神学発展をたどる</p> <p>第9回 教理と神学（2）：三位一体論とキリスト論の教理の発展を描く</p> <p>第10回 教理と神学（3）：救済論と教会論の発展を考察する</p> <p>第11回 教理と神学（4）：東方教父：オリゲネスとアタナシオス神学について論じる</p> <p>第12回 教理と神学（5）：西方教父：テルトリリアヌスとアウグスティヌス神学を論じる</p> <p>第13回 霊的生活：修道院運動の発展とゲルマン伝道について分析する</p> <p>第14回 結論：古代世界の「キリスト教化」運動が現代に意味するもの</p> <p>第15回 まとめの講義</p>	
<準備学習等の指示> 予習よりも、復習に重きをおくこと。	
<テキスト> 1. 棚村重行『現代人のための教理史ガイド』教文館。2. 木下他『詳説世界史研究』山川出版社（但し、最新の増補改訂版）	
<参考書> 1. J. ダニエル『キリスト教史1 初代教会』平凡社ライブラリー。2. H. J. マルー『キリスト教史2 教父時代』平凡社ライブラリー 3. N. ブロックス、関川訳『古代教会史』教文館。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 1. 期末試験、中間試験、授業出席などを総合して評価する。2. 授業を1/3以上無断欠席した者は評価の対象としない。	

専門教育科目必修・歴史神学関係	
教会史Ⅱ	本城 仰太
前期・2単位	<登録条件> 特になし
<授業のテーマ> 中世（アウグスティヌス後から宗教改革前まで）の教会の歴史と諸問題を学ぶ。	
<到達目標> ①中世の教会史の知識を身に着けるだけでなく、歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。	
<授業の概要> 中世の教会史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。	
<履修条件> 特になし。	
<授業計画> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、古代から中世へ 2. 中世初期の教会と伝道 3. 教会と国家①：神聖ローマ帝国の成立 4. 教会と国家②：西方教会と東方教会 5. 教会と国家③：叙任権闘争 6. 修道院運動①：修道院運動の展開 7. 修道院運動②：修道院の刷新運動 8. 十字軍 9. 修道院運動③：托鉢修道会 10. 教会と国家④：教皇権の絶頂 11. スコラ学①：初期（アンセルムスとアベラール） 12. スコラ学②：盛期（トマス・アクィナスとボナヴェントゥーラ） 13. 教会と国家⑤：教皇庁の衰退 14. 中世から宗教改革時代へ 15. 総括 	
<準備学習等の指示> ノートを取り、講義内容を<参考書>などによって補いながら、自分で整理していくこと。	
<テキスト> 特に定めない。毎回プリントを配布する。	
<参考書> 1. 出村彰『中世キリスト教の歴史』（教団出版局） 2. J. ゴンザレス『キリスト教史（上巻）』（新教出版社）	
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②小レポートによって総合的に評価する。	

専門教育科目必修・歴史神学関係	
教会史Ⅲ	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件> 学部三年次での履修が望ましい。
<授業のテーマ> 「宗教改革と対抗宗教改革運動の時代」	
<到達目標> 初期近代世界(AD1500-1650)における宗教改革、対抗宗教改革運動の概観と意義を学ぶ。	
<授業の概要> 西欧初期近代文明世界を北欧・西欧プロテスタント圏、英国圏、カトリック南欧圏に分けて、それら文明の構造の特徴、国家と教会、霊的生活と教理神学のテーマに分けて、宗教改革、対抗宗教改革運動を概観する。	
<履修条件> 世界史の基礎知識を前提とするので、学部3年生以上の履修が望ましい。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コースの紹介と質疑応答。 2. 後期中世西欧文明世界の構造と宗教改革の諸原因について 3. ドイツ・ルター派宗教改革運動(1):その歴史的環境とルター派の特徴 4. 同上(2):ルターとルター派の霊的生活と神学 5. 同上(3):現代世界と日本におけるルター派の伝統 6. スイス改革派宗教改革運動(1):その歴史的環境と改革派の特徴 7. 同上(3):ツヴィングリと初期スイス改革派運動 8. 同上(4):カルヴァンとスイス改革派運動 9. 同上(5):現代世界と日本における改革・長老派の伝統 10. イングランド宗教改革運動(1):その歴史的環境とその特徴 11. 同上(2):英国国教会とピューリタニズムの霊的生活と神学 および世界の聖公会、ピューリタン諸派系の諸教派 12. カトリック対抗宗教改革運動(1):歴史的環境と運動の特徴 13. 同上(2):その霊的生活(イエズス会)トレント公会議の教理神学 および現代のカトリック教会、諸修道会 14. 三十年戦争と盛期近代の開始、FD 15. まとめの講義 	
<準備学習等の指示> 講義を中心とした概論コースなので、指示した諸テキストを予め読んで予習をしておくこと。	
<p><テキスト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 棚村重行『現代人のための教理史ガイド』教文館。(各自購入) 2. 木下他『詳説世界史研究(増補改訂版)』山川出版社。 3. プリント(配布レジメ、史料集など) 	
<参考書> 授業の中で、指示する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> a. 定期試験と中間試験で評価。b. 1/3以上無断で欠席しないこと。	

専門教育科目必修・歴史神学関係	
教会史Ⅳ	本城 仰太
後期・2単位	<登録条件> 特になし
<授業のテーマ> 近現代（宗教改革後）の教会の歴史と諸問題を学ぶ。	
<到達目標> ①近現代の教会史の知識を身に着けるだけでなく、歴史を整理して概観できる力を養う。 ②歴史史料（一次史料、二次史料）を用いて、諸問題を神学的に論じる力を養う。	
<授業の概要> 近現代の教会史を、毎回、一次史料と二次史料にあたりながら、テーマごとに講義する。	
<履修条件> 特になし。	
<授業計画> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、宗教改革から近現代へ 2. 正統主義①：英国国教会とピューリタン革命 3. 正統主義②：トリエント公会議後のカトリック教会 4. 正統主義③：ルター派教会と敬虔主義 5. 正統主義④：改革派教会とアルミニウス主義 6. 合理主義と啓蒙主義 7. アメリカにおける教会①：植民地時代 8. メソジスト運動 9. アメリカにおける教会②：信仰復興運動 10. アメリカにおける教会③：独立宣言から南北戦争 11. 18～19世紀のヨーロッパの教会 12. プロテスタント神学①：自由主義神学 13. プロテスタント神学②：危機神学 14. 20世紀の教会 15. 総括 	
<準備学習等の指示> ノートを取り、講義内容を<参考書>などによって補いながら、自分で整理していくこと。	
<テキスト> 特に定めない。毎回プリントを配布する。	
<参考書> 1. 栗林他『総説 キリスト教史3 近・現代篇』（日本キリスト教団出版局） 2. J. ゴンザレス『キリスト教史（下巻）』（新教出版社）	
<学生に対する評価（方法・基準）> 講義の出席を前提とし、①期末試験 および ②小レポートによって総合的に評価する。	

専門教育科目必修・歴史神学関係	
教会史Ⅴ	小室 尚子
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 日本におけるキリスト教宣教開始（16世紀）以来の、教会形成の歴史を学ぶ。</p>	
<p><到達目標> 異教社会での多くの試練を越えて、教会がどのように形成、展開されて来たのかを学ぶことによって、現代において宣教に遣わされる者が、歴史的視点に立って、何を受け継ぎ、どのように伝えて行くのかの指針を見出すことを目標とする。</p>	
<p><授業の概要> キリシタンの時代から現代までの教会史／教会と日本の伝統的思想との緊張関係／現代日本において教会が抱える問題と課題（日本基督教団の問題と課題を中心に）と3つのテーマによって講義を進める。</p>	
<p><履修条件> 条件ではないが、宗教史Ⅱを履修済であることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 序論：教会史を学ぶ意義 第2回 キリスト教伝来前史 第3回 キリシタンの歴史（1549～1873） 第4回 キリシタンの教会形成 第5回 プロテスタント・キリスト教の移入と展開 第6回 教会の形成期（1859～1912） 第7回 （1）日本基督公会時代とその後 第8回 （2）福音主義の理解 第9回 （3）教育史における貢献と弾圧 第10回 聖書の翻訳 第11回 教会の発展期（1912～1926） 第12回 教会の試練と解放（1926～現代） 第13回 （1）戦時下、日本基督教団の成立 第14回 （2）戦後から現代へ：日本基督教団が抱えた問題 第15回 （3）日本の教会の課題</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 鵜沼裕子『史料による日本キリスト教史』聖学院大学出版会 『日本キリスト教史年表[改訂版]』日本キリスト教歴史大事典編集委員会編 教文館</p>	
<p><参考書> 初回授業時に文献表とともに紹介する</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> レポート（期末に提出）と、授業への参加意識によって評価する</p>	

専門教育科目必修・歴史神学関係	
宗教史 I	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 宗教史IIと併せて履修するのが望ましい。
<授業のテーマ> 「世界宗教史入門」。歴史神学の一分野である世界宗教史の研究手法・理論を学び、世界の諸宗教と文明生活の基礎知識を習得する。	
<到達目標> 学生は、①世界宗教史研究の基礎理論を学ぶ。②世界諸宗教の霊的生活を、各文明史の背景を踏まえ相関的に理解する思考を養う。③日本と世界伝道のために、宗教史の知識をどう活用したらよいかを考える。	
<授業の概要> 学生は配布されたレジメと資料のコピーをもとに講義を聴く。並行して指定されたテキストを読み、講義の内容理解を深める。	
<履修条件> なるべく宗教史IIを併せて履修し、日本と世界宗教の双方の知識を深めること。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 (1) 宗教史を学ぶ意義について 2. 同上 (2) 諸宗教の研究の歴史と研究の方法論の形成。本講義で採用するワック/エリアード複合理論について 3. 同上 (3) 文明史的考察を踏まえた世界諸宗教理解の意義 4. 同上 (4) 国家と宗教との関係に関する諸理論の紹介と意義 5. 世界の唯一神教 (1) ユダヤ教の霊的生活と文明のなかの歴史 6. 同上 (2) キリスト教 (a) 正教会とローマ・カトリック教会の霊的生活と文明のなかの歴史 7. 同上 (3) キリスト教 (b) プロテスタント諸教会の霊的生活と文明のなかの歴史 (ルター派教会；改革派教会；聖公会とメソジスト教会) 8. 同上 (4) イスラム教 イスラム教の諸派の霊的生活と文明のなかの歴史 9. 世界の多神教 (1) ヒンドゥー教の霊的生活と文明のなかの歴史 10. 同上 (2) 南アジア、東アジアの仏教の霊的生活と文明のなかの歴史 11. 同上 (3) 中国の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史 12. 同上 (4) 朝鮮・韓国の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史 13. 同上 (5) 日本の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史 (a)：神道と仏教、儒教 14. 同上 (6) 日本の諸宗教の霊的生活と文明のなかの歴史 (b)：キリスト教と諸宗教との関係 15. まとめの講義 	
<準備学習等の指示> 学生は、授業をよく聴き、質問をすること。	
<テキスト> 岸本英夫 『世界の宗教』(原書房、2008)	
<参考書> J. ヴァッハ、渡辺訳 『宗教の比較研究』(京都：法蔵館、1999)	
<学生に対する評価(方法・基準)> ①宗教史用語についての小テストを受ける。②期末筆記試験を受ける。③到達目標事項の達成度を重視する。	

専門教育科目必修・実践神学関係	
実践神学概論 a	小泉 健
前期・2単位	<登録条件> 通年で登録すること
<p><授業のテーマ> 実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。</p>	
<p><到達目標> 神学の全体構造の中に実践神学を正しく位置づけられるようになること。実践神学の主要なテーマについて、基本的な考え方を身につけること。</p>	
<p><授業の概要> 前期は実践神学全体を概観した上で、実践神学基礎論としての教会論と説教学を扱う。</p>	
<p><履修条件> 学部最終学年において履修のこと。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 神学とは何かを改めて考え、その中での実践神学の位置づけを学ぶ。 第2回 実践神学とは何か（その1）実践神学の歴史を学ぶ。 第3回 実践神学とは何か（その2）「実践」と「神学」との関係を学ぶ。 第4回 実践神学とは何か（その3）現代のさまざまな実践神学の立場を知る。 第5回 実践神学とは何か（その4）まとめとして、実践神学を伝道論として捉えることを学ぶ。 第6回 教会建設論（その1）信仰と救済にとってなぜ教会が必要かを考える。 第7回 教会建設論（その2）さまざまな教会建設論の考え方を知る。 第8回 教会建設論（その3）実践神学基礎論としての教会論を整理する。 第9回 教会建設論（その4）日本において伝道する教会を建設する際の課題を考える。 第10回 説教学（その1）説教とは何か 説教の神学 第11回 説教学（その2）誰が説教するのか 説教者論 第12回 説教学（その3）誰に説教するのか 聴衆論 第13回 説教学（その4）どこで説教するのか 説教と礼拝 第14回 説教学（その5）何を説教するのか 説教と聖書 第15回 説教学（その6）いかに説教するのか 説教と修辞学</p>	
<p><準備学習等の指示> 教室で配布される資料をていねいに読むこと。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて教室でプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> 加藤常昭『教会とは何か』東神大パンフレット2 山口隆康『アブラハムと実践神学』東神大パンフレット27 R. ボーレン『神が美しくなるために』教文館 R. ボーレン『説教学Ⅰ』『説教学Ⅱ』日本基督教団出版局 その他については授業中に文献表を配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席態度とレポートによって評価する。共通評価指標（1）の②～④を重視する。</p>	

専門教育科目必修・実践神学関係	
実践神学概論 b	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 通年で登録すること
<p><授業のテーマ> 実践神学の四大領域の概略に触れつつ、実践神学的思考について学ぶ。</p>	
<p><到達目標> 教会で実践され、経験的に知っている行為に対して、神学的に把握し反省するための実践神学的な考え方を身につけること。</p>	
<p><授業の概要> 実践神学諸科から、とくに礼拝学と牧会学の基礎を扱う。</p>	
<p><履修条件> 学部最終学年において履修のこと。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 礼拝学（その1）「礼拝」の広がり、と、礼拝を礼拝にするものを考える。</p> <p>第2回 礼拝学（その2）新約聖書における礼拝と1、2世紀の教会の礼拝から学ぶ。</p> <p>第3回 礼拝学（その3）3、4世紀の教会の礼拝についての重要文献を読む。</p> <p>第4回 礼拝学（その4）宗教改革における礼拝改革を学ぶ。</p> <p>第5回 礼拝学（その5）宗教改革以後の教会の礼拝の変遷を学ぶ。</p> <p>第6回 礼拝学（その6）以上の学びを踏まえて、わたしたちの礼拝を再考する。</p> <p>第7回 礼拝学（その7）個別のテーマとして、聖礼典の理解と礼拝堂の問題を取り上げる。</p> <p>第8回 礼拝学（その8）個別のテーマとして、教会暦と主日聖書日課、さらに讃美歌学を取り上げる。</p> <p>第9回 牧会学（その1）「牧会」とは何かを、聖書と教会の歴史から考える。</p> <p>第10回 牧会学（その2）20世紀以降の牧会学におけるさまざまな牧会の理解を学ぶ。</p> <p>第11回 牧会学（その3）牧会の課題について整理する。</p> <p>第12回 牧会学（その4）特別な牧会の場面（結婚、病、死別）について考察する。</p> <p>第13回 牧会学（その5）牧会の方法（祈り、指導、訪問、手紙）を考える。</p> <p>第14回 牧会学（その6）個別のテーマとして、告解と相互牧会を取り上げる。</p> <p>第15回 牧会学（その7）教会法と戒規を牧会の問題として理解する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 教室で配布される資料をていねいに読むこと。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じて教室でプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> レイモンド・アバ『礼拝 その本質と実際』教団出版局 E. トゥルナイゼン『牧会学 I』教団出版局 その他については授業中に文献表を配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席態度とレポートによって評価する。共通評価指標（1）の②～④を重視する。</p>	

専門教育科目必修・実践神学関係	
キリスト教教育概論 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件> できるだけ通年で履修すること
<p><授業のテーマ> 世界キリスト教の教育史と教育思想</p>	
<p><到達目標> キリスト教教育の歴史、特色、理論を学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> 二千年のキリスト教史における種々の教育形態の機能と意義を考察しながら、キリスト教教育の本質と特色と目的を明らかにし、それを今日の教育的業に資するものとしたい。</p>	
<p><履修条件> 特にない</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キリスト教教育とは何か？ 一般教育との関連と相違 2. キリスト教教育と神学 3. 聖書における「教育」の理解 -- パウロ神学の場合 神学的人間理解に基づくキリスト教教育 4. 原始キリスト教時代-1.使徒時代 5. 原始キリスト教時代-2.使徒後時代 6. 古キリスト教会時代 7. 中世の学校：修道院（または僧院）学校（monastic school）、他 8. 中世の教育の特徴としての象徴主義—その意義と問題 9. 近世社会の諸特徴 2)教育史上の特徴：ルネサンスと宗教改革 10. ルターとカルヴァンの教育思想と実践 4)キリスト教会の教育改革 11. プロテスタンティズムの教育運動 6)近世後期ヨーロッパのキリスト教 12. 東北アジアのキリスト教教育 13. 現代 14. 現代的人間の特性とキリスト教教育 15. 伝道とキリスト教教育 	
<p><準備学習等の指示> 随時、必要に応じて課題を課す。授業時に紹介した参考書を随時手にして自習することも大切である。</p>	
<p><テキスト> 特に指定はせず、その都度プリント配布する。</p>	
<p><参考書> John L. Elis, A History of Christian Education, Florida, 2002 その他、随時、紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 定期試験の結果で評価する。 出席を2／3以上満たした者を評価の対象とする。</p>	

専門教育科目必修・実践神学関係	
キリスト教教育概論 b	朴 憲郁
後期・2単位	<登録条件> できるだけ通年で履修すること
<授業のテーマ> 日本キリスト教教育史	
<到達目標> 日本におけるプロテスタント・キリスト教の教会、家庭、学校の歴史的経緯と実態を把握する。	
<授業の概要> 日本におけるプロテスタント・キリスト教教育史を概観しつつ、教会、学校、家庭におけるキリスト教教育の意義と課題を明らかにする。	
<履修条件> 特にない	
<授業計画> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教会学校史(序、第一期～第五期) 2. 教会学校の意義と使命 3. 教会論的基礎づけ 4. キリスト教幼児教育について 5. その歴史的経緯 6. 幼稚園のキリスト教教育 7. 初等・中等教育—公教育の一環としてのキリスト教教育 8. 欧米におけるキリスト教学校の展開、他 9. 大学教育：1) キリスト教大学のヴィジョン 10. 日本の大学の意義と課題 11. 聖書の家庭教育 12. 教会史上の家庭教育 13. 家庭の教育的役割、 14. 家庭のキリスト教教育確立のために 15. キリスト教家庭教育の方策 	
<準備学習等の指示> 随時、必要に応じて課題を課す。	
<テキスト> 『日本における教会教育の歩み』(1858～2006)、NCC 教育部歴史編纂委員会編、教文館、2007年、(5月発行) 各自注文して用意すること。	
<参考書> 随時、授業の中で諸資料を紹介していく。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 定期試験の結果で評価する。 出席を2/3以上満たした者を評価の対象とする。	

専門教育科目選択必修・学部演習	
旧約聖書学部演習 a	田中 光
前期・2単位	<登録条件> a, b 両方とも登録すること
<p><授業のテーマ> 詩編解釈の歴史</p>	
<p><到達目標> 詩編解釈の歴史を学ぶことで、詩編が持つ福音の深みを把握する。また、学びを後期の論文作成に生かす。</p>	
<p><授業の概要> 前半は詩編の解釈史を通史的に学び、後半は個々の詩編の解釈史と解釈的問題を探究する。</p>	
<p><履修条件> 旧約詩編を共に学ぼうという志をお持ちの方をどなたでも歓迎します(但し、ヒブル語を履修していると[あるいは履修中でも]、授業の理解がより深まります)。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション&イントロダクション 2. 詩編解釈の歴史①: 詩編の形成～新約聖書 3. 詩編解釈の歴史②: 古代教父 4. 詩編解釈の歴史③: 中世～宗教改革 5. 詩編解釈の歴史④: 17世紀～20世紀 6. 詩編解釈の歴史⑤: 現代における詩編解釈の諸相(方法論、死海写本、聖書翻訳他) 7. 詩編解釈の歴史⑥: 教会的实践における詩編(典礼、修道院他) 8. 詩編 22 編の解釈①: 本文の翻訳と本文批評的問題 9. 詩編 22 編の解釈②: 解釈の歴史 10. 詩編 42 編の解釈①: 本文の翻訳と本文批評的問題 11. 詩編 42 編の解釈②: 解釈の歴史 12. 詩編 68 編の解釈①: 本文の翻訳と本文批評的問題 13. 詩編 68 編の解釈②: 解釈の歴史 14. 詩編 102 編の解釈①: 本文の翻訳と本文批評的問題 15. 詩編 102 編の解釈②: 解釈の歴史 	
<p><準備学習等の指示> 初回授業にて指示する。</p>	
<p><テキスト> 特に定めない。授業ごとに配布するレジユメを中心にする。</p>	
<p><参考書> William L. Holladay, <i>The Psalms Through Three Thousand Years</i> (1996); Susan Gillingham, <i>Psalms Through the Centuries</i>, vol.1 (2008); Nancey deClaisse-Walford et al., <i>The Book of Psalms</i> (2014).</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業への参加度と発表、そして期末のレポートによって評価する。欠席が3分の1を超えた者はレポートを提出できない。</p>	

専門教育科目選択必修・学部演習	
旧約聖書学部演習 b	田中 光
後期・2単位	<登録条件>a, b 両方とも登録すること
<p><授業のテーマ> 聖書学の論文の執筆</p>	
<p><到達目標> 前期の学びから得たインサイトを用いて、自ら見出した課題と取り組み、聖書学の方法論を用いて論文を作成する。</p>	
<p><授業の概要> 最初の三分の一では、論文執筆の方法等についてレクチャーする。残りの三分の二で、学生による論文発表を行い、担当教員が適宜アドバイスをする。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語を履修していること。履修中でも可。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション&イントロダクション 2. 聖書学の論文の書き方① 論文を書く際の心得 3. 聖書学の論文の書き方② 文献の収集と文献の読み方について (図書館ツアー) 4. 論文執筆実習① 論文執筆の実際: 詩 8 編を例に 5. 論文執筆実習② 本文批評、BHS の読み方、聖書の古代語訳について 6. 学生による発表① 論文の方向性 第一グループ 7. 学生による発表② 論文の方向性 第二グループ 8. 学生による発表③ 論文の方向性 第三グループ 9. 学生による発表④: 論文の中間報告① 第一グループ 10. 学生による発表⑤: 論文の中間報告① 第二グループ 11. 学生による発表⑥: 論文の中間報告① 第三グループ 12. 学生による発表⑦: 論文の中間報告② 第一グループ 13. 学生による発表⑧: 論文の中間報告② 第二グループ 14. 学生による発表⑨: 論文の中間報告② 第二グループ 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示> 自分の論文のテーマを常に探究し、発表の準備を事前に行うこと。</p>	
<p><テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia, ヘブライ語辞書。</p>	
<p><参考書> 授業の中で適宜指示する。</p>	
<p><学生に対する評価 (方法・基準) > 授業への参加度と発表、そして期末のレポートによって評価する。欠席が 3 分の 1 を超えた者はレポートを提出できない。</p>	

専門教育科目選択必修・学部演習	
新約聖書学部演習 a	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 学部論文を書くことを念頭に、新約聖書学の研究書を読む。各テキストの内容と共に新約聖書学の議論の仕方を学び、史的イエス研究、共観福音書、特にマルコ福音書の理解を深める。</p>	
<p><到達目標> 新約聖書学の研究方法と具体例に親しむ。</p>	
<p><授業の概要>テキストを分担して読む。担当を決め、発表と議論によって理解を深める。</p>	
<p><履修条件>学部4年の新約専攻および他専攻の希望する学生。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 『歴史の中のイエス像』 松永希久夫、日本放送出版協会、1989年 3. 『史的イエスと「ナザレのイエス」』 上智大学キリスト教文化研究所編、リトン、2010年、1-47頁。 4. 『イエス・キリスト下』 荒井献、講談社学術文庫、2001年、3-101頁。 5. 同上、102-210頁。 6. 同上、211-333頁。 7. 同上、334-473頁。 8. 『受難物語の起源』 E・トロクメ、加藤隆訳、教文館、1998年、3-90頁。 9. 『原始キリスト教の一断面』（新装版）田川建三、勁草書房、2006年、1-115頁。 10. 同上、116-199 11. 同上、200-318頁。 12. 同上、319-354頁。 13. 『新約学と文学批評』 ノーマン・ピーターセン、宇都宮秀和訳、教文館、1986年、3-71頁。 14. 同上、72-132頁。 15. まとめ <p>ただし、受講者の関心によって適宜調整する。</p>	
<p><準備学習等の指示>担当箇所を予め指定するので内容を紹介し、意見を述べる。また担当しない時は他の学生の発表を聞いて議論に参加する。</p>	
<p><テキスト> 上記。各自準備すること。</p>	
<p><参考書>適宜紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>出席状況、授業参加、期末の課題によって総合的に評価する。</p>	

専門教育科目選択必修・学部演習	
新約聖書学部演習 b	中野 実
後期・2単位	<登録条件> 学部4年生
<授業のテーマ> 学部論文として釈義レポートを準備するためのクラス	
<到達目標> このクラスを通して、論文の書き方や釈義の方法、手続きを身につけることができる。	
<授業の概要> 論文の書き方を学びつつ、釈義を進めていく。一つの聖書テキストを共同で釈義し、それぞれが論文にまとめていく。	
<履修条件> 新約専攻者のみならず、ほかの学部4年生にも開かれている。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーション (2) 一般的論文、レポートの書き方 (3) 釈義レポートの書き方 (4) 問題発見、問題設定 (5) 自らの問題意識を学問的に表現してみる (6) 先行研究の発見 (7) 先行研究から学ぶ (8) 釈義の手続き (9) 注解書を読む (10) 研究書を読む (11) テキストの選定 (12) テキストの釈義 (13) 自らのテーゼを発見 (14) 見直し (15) まとめ 	
<準備学習等の指示> とにかくコツコツ聖書テキストや研究書と取り組ながら、自分自身の議論を組み立てることに努める。	
<テキスト> 中野ほか『新約聖書解釈の手引き』（日本基督教団出版局、2016年）。	
<参考書> 適宜紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度、努力、その実りとしての釈義レポートを通して総合的に評価する。出席が三分の二に達しない場合は、評価の対象としない。レポートにおいては、適切な方法論に基づきつつ、主体的な思考がなされ、全体として論理的であることが求められる。	

専門教育科目選択必修・学部演習	
組織神学学部演習 a	須田 拓
前期・2単位	<登録条件> 組織神学学部演習 b と通年で履修・登録することを原則とする
<p><授業のテーマ> 卒業論文の作成に向けて、組織神学的に考え叙述する技法を学ぶ。</p>	
<p><到達目標> 組織神学的に考えることができるようになる。</p>	
<p><授業の概要> 後期における卒業論文作成の準備</p>	
<p><履修条件> 学部4年生で卒業を予定している者</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 卒業論文の主題について 第3回 論文の書き方(1) 論文とは何か 第4回 論文の書き方(2) 論文の構成と書き方 第5回 組織神学の考え方(1) 文章の読解 第6回 組織神学の考え方(2) 内容の検討 第7回 組織神学の考え方(3) 批評とその書き方 第8回 中間総括 第9回 卒業論文の主題と文献について 第10回 組織神学の論じ方(1) 神学的文章の読解 第11回 組織神学の論じ方(2) 神学的文章の検討 第12回 組織神学の論じ方(3) 神学的文章の批評 第13回 卒業論文主題の検討 第14回 卒業論文主題の最終決定 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 特になし</p>	
<p><参考書> 授業の中で、必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加状況と学期中の課題によって評価する。</p>	

専門教育科目選択必修・学部演習	
組織神学学部演習 b	須田 拓
後期・2単位	<登録条件>組織神学学部演習 a と通年で履修・登録することを原則とする
<p><授業のテーマ> 学部卒業論文を作成する。</p>	
<p><到達目標> 学部卒業論文を作成する。</p>	
<p><授業の概要> 受講者を3つのグループに分け、順に中間発表を重ねながら、卒業論文を作成する。</p>	
<p><履修条件> 前期と同じ。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 文献表・主要文献の内容概観の発表（第1グループ・第2グループ前半） 第3回 文献表・主要文献の内容概観の発表（第2グループ後半・第3グループ）</p> <p><第1サイクル>（1,000字程度を執筆してくる） 第4回 第1グループのメンバー各自の発表 第5回 第2グループのメンバー各自の発表 第6回 第3グループのメンバー各自の発表</p> <p><第2サイクル>（2,000字程度を執筆してくる） 第7回 第1グループのメンバー各自の発表 第8回 第2グループのメンバー各自の発表 第9回 第3グループのメンバー各自の発表</p> <p><第3サイクル>（3,000字程度を執筆してくる） 第10回 第1グループのメンバー各自の発表 第11回 第2グループのメンバー各自の発表 第12回 第3グループのメンバー各自の発表</p> <p><第4サイクル>（4,000字程度を執筆してくる） 第13回 第1グループのメンバー各自の発表 第14回 第2グループのメンバー各自の発表 第15回 第3グループのメンバー各自の発表</p>	
<p><準備学習等の指示> 論文作成に積極的に取り組むこと</p>	
<p><テキスト> なし</p>	
<p><参考書> なし</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 最終的に提出された卒業論文によって評価する。評価にあたっては、共通評価指標（2）に基づいて評価する。</p>	

専門教育科目選択必修・学部演習	
歴史神学学部演習 a	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 歴史神学学習の方法論の習得と学部論文作成の手順を学ぶ。</p>	
<p><到達目標> 一次史料、二次史料の読み方、歴史神学方法論を身に付ける。</p>	
<p><授業の概要> 歴史神学の学問研究のために必要な基礎概念、史料の扱い方、論文作成の方法等を学ぶ。テキストを割り当てて発表して内容をつかむ。各自の発表やクラスでの貢献を重視する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <p>I 歴史神学の論文を書くための基礎知識</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史神学とは 2 一次史料と二次史料 テキスト発表①1章(22頁以下) 3 一次史料を読む テキスト発表②2章(33頁以下) 4 一次史料を読む テキスト発表③3章(50頁以下) 5 二次史料を読む テキスト発表④4章(65頁以下) 6 二次史料を読む テキスト発表⑤5章(83頁以下) 7 歴史神学論文を読む テキスト発表⑥6章(103頁以下) 8 歴史神学論文を読む テキスト発表⑦7章(123頁以下) <p>II 学部論文作成</p> <ol style="list-style-type: none"> 9 作成の注意と準備 テキスト発表⑧8章(143頁以下) 10 論文の計画と執筆、注のつけ方⑨9章(158頁以下) 11 論文計画発表①論文のテーゼ、目次、一次史料 12 論文計画発表②参考文献表、二次史料 13 論文計画発表③アウトライン 14 ディカッション 15 まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 特になし</p>	
<p><テキスト> 澤田昭夫『論文の書き方』(講談社学術文庫153)。このテキストは、各自購入しておくこと。加えてN.Cantor, How to Study History を部分的に読む。こちらは、該当箇所を関川が配布する。</p>	
<p><参考書> その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 分担発表とクラスでの討議の貢献度、レポート、出席状況によって総合的に評価する。</p>	

専門教育科目選択必修・学部演習	
歴史神学学部演習 b	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 歴史神学論文を書くための基礎作業、ならびに各個教会史を批判的に読み解く訓練をする。</p>	
<p><到達目標> 一次史料、二次史料の読み方、歴史神学方法論を修得するとともに、日本の教会史を讀み的確に評価できるようになる。</p>	
<p><授業の概要> 歴史神学の学問研究のための実践的な研究を行う。また将来牧師として関わるであろう教会史を執筆することを想定して、各個教会史を讀み、論評するという実践的準備も兼ねる。最後に学部論文作成を行う。各自の発表やクラスでの貢献を重視する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <p>I 歴史神学の論文を書くための実践的研究</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 歴史神学と歴史学の流れ講義 2 論文作成の用いる一次史料と二次史料の内容紹介と分析 3 一次史料を讀む 内容紹介と評価 4 二次史料を讀む 内容紹介と評価 5 歴史神学論文を書く I 論文の構想と参考文献 6 歴史神学論文を書く II 目次と主題 <p>II 教会史を書くための実践的研究</p> <ol style="list-style-type: none"> 7 各個教会史を讀む 発表 i 教会史の論評の方法 8 各個教会史を讀む 発表 ii 一次史料と二次史料 9 各個教会史を讀む 発表 iii 教会史を書くという視点から 10 その批判的検討 11 教会史と日本の教会の諸問題・教会の制度と神学 12 教会史を書く 13 論文中間発表 i 論文のテーゼの深化 14 論文中間発表 ii 序と論文概要 15 まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 特になし</p>	
<p><テキスト> 引き続き澤田昭夫『論文の書き方』（講談社学術文庫153）を用いる。</p>	
<p><参考書> その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 分担発表とクラスでの討議の貢献度、レポート、出席状況によって総合的に評価する。</p>	

専門教育科目選択必修・神学書講読																																																													
英語神学書講読・聖書 I	焼山 満里子																																																												
前期・2単位	<登録条件>																																																												
<p><授業のテーマ> 新約聖書学の研究書を読み新約聖書研究に必要な英語読解力を養う。</p>																																																													
<p><到達目標> 新約聖書学の研究書を読めるようになる。</p>																																																													
<p><授業の概要> 授業では各自あらかじめ準備した日本語訳を検討する。</p>																																																													
<p><履修条件> 英語Ⅱ履修済みか同程度の英語読解力のレベルの学生が履修するのが望ましい。</p>																																																													
<p><授業計画></p> <table border="0"> <tr><td>1.</td><td>オリエンテーション</td><td>(英和辞書持参のこと)</td><td></td></tr> <tr><td>2.</td><td>テキスト</td><td>第一章 Paul and the Corinthians</td><td>p. 1</td></tr> <tr><td>3.</td><td>テキスト</td><td>第一章 Paul and the Corinthians</td><td>p. 2</td></tr> <tr><td>4.</td><td>テキスト</td><td>第一章 Paul and the Corinthians</td><td>p. 3</td></tr> <tr><td>5.</td><td>テキスト</td><td>第一章 Paul and the Corinthians</td><td>p. 4</td></tr> <tr><td>6.</td><td>テキスト</td><td>第一章 Paul and the Corinthians</td><td>p. 5</td></tr> <tr><td>7.</td><td>テキスト</td><td>第一章 Paul and the Corinthians</td><td>p. 6</td></tr> <tr><td>8.</td><td colspan="3">1-7回までのまとめ</td></tr> <tr><td>9.</td><td>テキスト</td><td>第一章 Paul and the Corinthians</td><td>p. 7</td></tr> <tr><td>10.</td><td>テキスト</td><td>第一章 Paul and the Corinthians</td><td>p. 8</td></tr> <tr><td>11.</td><td>テキスト</td><td>第一章 Paul and the Corinthians</td><td>p. 9</td></tr> <tr><td>12.</td><td>テキスト</td><td>第一章 Paul and the Corinthians</td><td>p. 10</td></tr> <tr><td>13.</td><td>テキスト</td><td>第一章 Paul and the Corinthians</td><td>p. 11</td></tr> <tr><td>14.</td><td>テキスト</td><td>第一章 Paul and the Corinthians</td><td>p. 12</td></tr> <tr><td>15.</td><td>テキスト</td><td>第一章 Paul and the Corinthians</td><td>まとめ</td></tr> </table> <p>進度は受講者の関心によって適宜調整する。</p>		1.	オリエンテーション	(英和辞書持参のこと)		2.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 1	3.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 2	4.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 3	5.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 4	6.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 5	7.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 6	8.	1-7回までのまとめ			9.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 7	10.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 8	11.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 9	12.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 10	13.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 11	14.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 12	15.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	まとめ
1.	オリエンテーション	(英和辞書持参のこと)																																																											
2.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 1																																																										
3.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 2																																																										
4.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 3																																																										
5.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 4																																																										
6.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 5																																																										
7.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 6																																																										
8.	1-7回までのまとめ																																																												
9.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 7																																																										
10.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 8																																																										
11.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 9																																																										
12.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 10																																																										
13.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 11																																																										
14.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	p. 12																																																										
15.	テキスト	第一章 Paul and the Corinthians	まとめ																																																										
<p><準備学習等の指示> 毎授業講読担当箇所を指定するので、各自あらかじめ日本語訳を準備の上で出席のこと。</p>																																																													
<p><テキスト> Victor Furnish, The Theology of the First Letter to the Corinthians, Cambridge: Cambridge University Press, 1999. 初回の授業時に配布する。</p>																																																													
<p><参考書> 英和辞書、英文法書は各自使いやすいものを選び準備する。</p>																																																													
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 出席状況、授業参加、中間、期末の課題を総合的に評価する。</p>																																																													

専門教育科目選択必修・神学書講読	
英語神学書講読・聖書Ⅱ	焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 新約聖書学の研究書を読み新約聖書の理解を深める。</p>	
<p><到達目標> 新約聖書学の研究書を読む力を養う。</p>	
<p><授業の概要> 授業では各自あらかじめ準備した日本語訳を検討する。</p>	
<p><履修条件> 英語Ⅱ履修済みか同程度の英語読解力のレベルの学生が履修するのが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (英和辞書持参のこと) 2. テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 28 3. テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 29 4. テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 30 5. テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 31 6. テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 32 7. テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 33 8. 1-7回のまとめ 9. テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 34 10. テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 35 11. テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 36 12. テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 37 13. テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 38 14. テキスト 第2章 Knowing God, belonging to Christ p. 39 15. 9-14回のまとめ <p>進度は受講者の関心によって適宜調整する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 担当箇所を和訳してくること。</p>	
<p><テキスト> Victor Furnish, The Theology of the First Letter to the Corinthians, Cambridge: Cambridge University Press, 1999. 初回の授業時に配布する。</p>	
<p><参考書> 英和辞書、英文法書は各自使いやすいものを選び準備する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 出席状況、授業参加、中間、期末の課題を総合的に評価する。</p>	

専門教育科目選択必修・神学書講読	
独語神学書講読・聖書 I	大住 雄一
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 聖書学論文においても、ドイツ語だからできる議論があり、また、もちろん議論がドイツ語の制約を受ける場合がある。ドイツ語で書かれた聖書学論文を読むという体験を共有したい。</p>	
<p><到達目標> 旧新約聖書学研究に必須のドイツ語文献の考え方の背景を知る。</p>	
<p><授業の概要> Günter Stemberger, Zum Verständnis der Tora im rabbinischen Judentum: Erich Zenger (Hg), Die Tora als Kanon für Juden und Christen, Basel u. a. 1996, S. 329-343. を読む。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 文法書、辞書について 2. 序 3. 1. 1～1. 2 4. 1. 3 5. 1. 4 6. 2. 1～2. 2 7. 3. 1～3. 2 8. 3. 2～3. 3 9. 4. 1 10. 4. 2 11. 5. 1 12. 5. 2 13. 5. 3 14. 5. 4 15. まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 取り扱う箇所を出来る限り正確に和訳して授業に臨むこと</p>	
<p><テキスト> 授業に関係する箇所のコピーを第一回授業時に配付する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 各授業での翻訳と文法的説明の発表を評価する。</p>	

専門教育科目選択必修・神学書講読	
英語神学書講読・組織 I	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件> 特になし(学期毎で履修可)。
<授業のテーマ> 英語による組織神学関係の文書を講読することを通して、英語の専門書をひもといていくための能力を高める。併せて当該文書が扱う主題についての理解を深める。Iでは、比較的平易なものを読む。	
<到達目標> ①一般的な英語力の向上、②組織神学にかかわる英語の語彙の習得、③テキストの内容について自分の言葉で説明出来るようになること。	
<授業の概要> S・グレンツの組織神学である <i>Theology for the Community of God</i> から、神論部分を読む。1センテンスずつ訳して貰いながら、適宜、解説を加える。	
<履修条件> 英語IIを履修済みか、それと同等以上の学力を有していること。	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 テキスト (Stanley J. Grenz, <i>Theology for the Community of God</i>)、pp. 29-30。</p> <p>第3回 同、pp. 30-32。</p> <p>第4回 同、pp. 32-35。</p> <p>第5回 同、pp. 35-37。</p> <p>第6回 同、pp. 37-39。</p> <p>第7回 同、pp. 39-41。</p> <p>第8回 同、pp. 41-43。</p> <p>第9回 同、pp. 43-45。</p> <p>第10回 同、pp. 45-46。</p> <p>第11回 同、pp. 47-49。</p> <p>第12回 同、pp. 49-51。</p> <p>第13回 同、pp. 51-52。</p> <p>第14回 まとめ①——文法および語彙について。</p> <p>第15回 まとめ②——思想的・神学的内容について。</p>	
<準備学習等の指示> 予習してくること。(英和辞典は紙ベースの中辞典を使うことを強く勧める。)	
<テキスト> 担当者が用意するプリント。	
<参考書> 特になし。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業中の和訳の出来と小テストによる。	

専門教育科目選択必修・神学書講読	
英語神学書講読・組織Ⅱ	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件> 特になし(学期毎で履修可)。
<授業のテーマ> 英語による組織神学関係の文書を講読することを通して、英語の専門書をひもといていくための能力を高める。併せて当該文書が扱う主題についての理解を深める。Ⅱでは、Ⅰよりも高度なものを読む。	
<到達目標> ①一般的な英語力の向上、②組織神学にかかわる英語の語彙の習得、③(より高度な)テキストの内容について自分の言葉で説明出来るようになること。	
<授業の概要> R・ジェンソンの晩年の講演に基づく組織神学概説を読む。一人ずつあてて、訳してもらう。	
<履修条件> 英語Ⅱを履修済みか、それと同等以上の学力を有していること。	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 テキスト (Robert W. Jenson, <i>A Theology in Outline</i>)、pp. 6-9 (序説①)。</p> <p>第3回 同、pp. 9-12 (同②)。</p> <p>第4回 同、pp. 13-16 (イスラエル①)。</p> <p>第5回 同、pp. 16-20 (同②)。</p> <p>第6回 同、pp. 20-25 (同③)。</p> <p>第7回 同、pp. 26-30 (イエスと復活①)</p> <p>第8回 同、pp. 30-34 (同②)。</p> <p>第9回 同、pp. 34-39 (同③)。</p> <p>第10回 同、pp. 40-43 (三位一体の神①)。</p> <p>第11回 同、pp. 43-47 (同②)。</p> <p>第12回 同、pp. 47-51 (同③)。</p> <p>第13回 同、pp. 52-54 (創造①)。</p> <p>第14回 同、pp. 54-58 (同②)。</p> <p>第15回 同、pp. 58-62 (同③)。</p>	
<準備学習等の指示> 予習してくること。(英和辞典は紙ベースの中辞典を使うことを強く勧める。)	
<テキスト> 担当者が用意するプリント。	
<参考書> 特になし。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業中の和訳の出来と小テストによる。	

専門教育科目選択必修・神学書講読	
独語神学書講読・組織 I	長山 道
前期・2単位	<登録条件> 特になし。学期ごとに登録可。
<授業のテーマ> ドイツ語による組織神学のテキストを読み、読解力を高める。テキストが扱う主題についての理解を深める。	
<到達目標> ドイツ語の読解力を身につける。組織神学用語を習得する。	
<授業の概要> 教会論についての文章を読んで和訳する。	
<履修条件> 基本的な文法を習得していること。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 <i>Einleitung in die Systematische Theologie</i>, S. 248-249 3 S. 250 4 S. 251 5 S. 252 6 S. 253 7 S. 254 8 S. 255 9 S. 256 10 <i>Die Theorie der christlichen Gewißheit</i>, S. 119 11 S. 120 12 S. 121 13 S. 122 14 S. 123 15 S. 124-125 	
<準備学習等の指示> 予習すること。	
<テキスト> Konrad Stock, <i>Einleitung in die Systematische Theologie</i> , Berlin/New York, 2011. Ders., <i>Die Theorie der christlichen Gewißheit. Eine enzyklopädische Orientierung</i> , Tübingen, 2005. 担当者が用意する。	
<参考書> 必要に応じて指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業中の発表により評価する。	

専門教育科目選択必修・神学書講読	
独語神学書講読・組織Ⅱ	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 学期ごとの登録可
<p><授業のテーマ> 洗礼についてドイツ語で神学書を読む。</p>	
<p><到達目標> ドイツ語の表現に慣れ親しみ、内容を正確に理解する訓練を行う。</p>	
<p><授業の概要> ドイツ福音主義教会の『洗礼 ― その理解と実践のための指針』を読み、訳してゆく。</p>	
<p><履修条件> ドイツ語の基本文法を一応終えていること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：テキストのまえがきを読み、解説する。</p> <p>第2回：テキストの11-14頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第3回：テキストの15-18頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第4回：テキストの19-22頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第5回：テキストの23-26頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第6回：テキストの27-30頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第7回：テキストの31-34頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第8回：テキストの35-38頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第9回：テキストの39-42頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第10回：テキストの43-46頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第11回：テキストの47-50頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第12回：テキストの51-54頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第13回：テキストの55-58頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第14回：テキストの59-61頁を順番に訳しながら、内容を検討する。</p> <p>第15回：テキストの内容全体を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 辞書をよく引いて、不明な単語がないようにしておくこと。</p>	
<p><テキスト> Rat der EKD, Die Taufe. Eine Orientierungshilfe zu Verständnis und Praxis der Taufe in der evangelischen Kirche, Gütersloher Verlagshaus, 2008. 各自注文して取り寄せてもよいが、コピーを渡すことも可能。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席と授業での読解作業を評価する。</p>	

専門教育科目選択・聖書神学関係					
旧約聖書神学Ⅳ	左近 豊				
後期・2単位	<登録条件>				
<p><授業のテーマ> 旧約聖書に見出される神学思想の現代的意義について考察する。</p>					
<p><到達目標> 特に旧約聖書の「嘆き」に注目し、教会の礼拝、牧会、祈り、霊的生活において旧約聖書神学的視座に立って思索できるようになること目的とする。</p>					
<p><授業の概要> 危機の時代に発せられた言葉として旧約詩編、エレミヤ書、哀歌等を取り上げ、参照すべき文献を精読し、また聖書テキストを文芸学的手法を用いて分析し、その様式や語り口の特徴を理解し、現代の危機に向けて教会が語るべき言葉を探求する。</p>					
<p><履修条件></p>					
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、 序 課題の設定：現代の教会に仕える私たちが、旧約聖書に問い、また逆に問われている問題、特に「嘆き」に注目し、授業全体の課題を設定する。 2、 旧約聖書と現代（1）：現代を旧約聖書神学的視点から考察する。 3、 旧約聖書と現代（2）：現代日本を旧約聖書神学的視点から考察する。 4、 証言としての旧約聖書：旧約聖書の証言性に注目し、「嘆き」を通して証しされる神、信仰共同体、歴史について考察する。 5、 聖書における嘆きの神学的考察の可能性を探る 6、 聖書における崩壊期の思想について 7、 日本の霊的生活における悪の思想について 8、 旧約聖書 嘆きの詩編（1）：その様式と内容について考察する。 9、 旧約聖書 嘆きの詩編（2）：「嘆きの詩編」の神学的主題について考察する。 10、 旧約聖書 エレミヤ書：「エレミヤ書」の嘆きの様式と内容について考察する。 11、 旧約聖書 哀歌（1）：「哀歌」の様式と内容について考察する。 12、 旧約聖書 哀歌（2）：「哀歌」の神学的主題について考察する。 13、 信仰共同体の歴史における嘆き：影響史的視点から哀歌解釈について考察する。 14、 キリストの受難における嘆き：嘆きの礼拝学的意味を考察する。 15、 現代の嘆きの詩：現代における旧約詩編の展開例として数名の信仰詩人の詩を取り上げて考察する。 					
<p><準備学習等の指示> 各授業で挙げられる参考文献に事前に目を通しておくこと。</p>					
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖書 ・『3・11以降の世界と聖書』（日本基督教団出版局、2016年） ・『現代聖書注解 哀歌』（日本基督教団出版局、2013年） <p>その他授業の中で指示する。</p>					
<p><参考書> 各回レジュメに参考文献を挙げる。</p>					
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="border: none;">授業参加（発題・コメントシート）</td> <td style="border: none; text-align: right;">60%</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">期末レポート</td> <td style="border: none; text-align: right;">40%</td> </tr> </table>		授業参加（発題・コメントシート）	60%	期末レポート	40%
授業参加（発題・コメントシート）	60%				
期末レポート	40%				

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係	
ヒブル語 I (1,2)	本間 敏雄
前期・4単位	<登録条件> 通年の登録が望ましい。後期登録は前期単位取得者。
<授業のテーマ> 聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。	
<到達目標> 平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。	
<授業の概要> 基礎文法の説明、練習問題、小テスト、マソラ本文の入門的事柄。	
<履修条件> 単位取得者は継続して後期（Ⅱ）も履修すること。原則として学部4年生。旧約専攻者は必修。	
<授業計画> <ul style="list-style-type: none"> 1) 1課 ヒブル語とは、文字 (Alphabet)、書き方 2) 1課 写字練習、写本文字(Codex Leningradensis) 3) 2課 母音記号 (Vowel-signs) 4) 3, 4課 音節、Shewa、母音文字、Mappiq 5) 5, 6課 Dagesh、Rafe、母音の分類と変化 6) 7, 8課 喉音、アクセント等諸記号、Ketib・Qere 7) 9課 定冠詞、形容詞 (1)、接続詞 (Conjunction) 8) 9課 (2) 9) 10課 人称・指示代名詞 (Pronoun)、関係代名詞 (1)、疑問詞 10) 11課 前置詞 (Preposition)、目的辞 (nota accusativi) 11) 11課 (2) 人称代名詞語尾 (Suffix) (1) : 前置詞、目的辞付加形 12) 12課 動詞 : 完了態 (Perfect) 13) 13課 未完了態 (Imperfect) 14) 14課 願望形 (Jussive、Cohortative) 継続ウァウ (Waw Consecutive)、従属ウァウ 15) 14課 (2) 16) 15課 命令形 (Imperative)、不定詞 (Infinitive) 17) 15課 (2) 分詞 (Participle) 18) 16課 状態動詞 19) 17課 名詞 : 語形変化、分類、独立形、合成形 (Construct state) 20) 17課 (2) 合成形、形容詞 (2) 21) 18課 名詞の変化 (第一類)、不規則変化名詞 22) 18課 (2) 23) 19課 名詞の変化 (第二類)、副詞と形成接辞、所有 24) 20課 名詞の変化 (第三、第四、第五類)、名詞形成と接辞 25) 21課 人称代名詞語尾 (2) -I : 名詞の～ 26) 21課 I (2) 27) 21課 人称代名詞語尾 (2) -II : 動詞の～ 28) 21課 II (2) 29) 全体復習 30) 総まとめ 	
<準備学習等の指示> 予習大切。	
<テキスト> 「ヒブル語入門」(改訂増補版 左近/本間)	
<参考書> J.Weingreen, A Practical Grammar for Classical Hebrew (Clarendon Press, Oxford)	
<学生に対する評価 (方法・基準) > 小テスト、筆記試験で評価する。	

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係	
ヒブル語Ⅱ	本間 敏雄
後期・2単位	<登録条件>前期単位取得者
<p><授業のテーマ> 聖書ヒブル語の基礎文法を学ぶ。</p>	
<p><到達目標> 平易な聖書ヒブル語本文を読み、理解することができる。</p>	
<p><授業の概要> 基礎文法の説明、練習問題、小テスト、マソラ本文の入門的事柄</p>	
<p><履修条件> ヒブル語Ⅰ単位取得者。原則として学部4年生。旧約専攻者は必修。</p>	
<p><授業計画> 前期より継続</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 2 2 課 動詞の語幹、基本語幹：Qal、Nifal 2) 2 3 課 強意語幹：Piel、Pual、Hithpael 3) 2 3 課 (2) 4) 2 4 課 使役語幹：Hifil、Hofal 5) 2 4 課 (2) 6) 2 5 課 不規則動詞：Pe 喉音動詞 7) 2 6 課 Ayin 喉音、Pe 喉音動詞、関係代名詞 (2) 8) 2 7 課 二重 Ayin 動詞、二根字動詞 9) 2 8 課 数詞、年齢表記 1 0) 2 9 課 弱 Pe 動詞 (1)：Pe Alef、Pe Nun 動詞 1 1) 2 9 課 (2) 1 2) 3 0 課 弱 Pe 動詞：Pe Waw、Pe Yod 動詞 3 0 課 1 3) 3 1 課 弱 Lamed 動詞：Lamed Alef、Lamed He 動詞 1 4) 3 2 課 二重弱動詞 1 5) 総まとめ 	
<p><準備学習等の指示> 予習大切。</p>	
<p><テキスト> 「ヒブル語入門」(改訂増補版 左近/本間)</p>	
<p><参考書> J.Weingreen, A Practical Grammar for Classical Hebrew (Clarendon Press, Oxford)</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 小テスト、筆記試験で評価する。</p>	

専門教育科目選択・聖書神学関係	
シリア語 a	佐藤 泉
前期・2単位	<登録条件> 通年で履修するのが望ましい。
<授業のテーマ> 聖書の古代訳の一つにペシッタ（シリア語訳）がある。ペシッタを読むためのシリア語文法の基礎を学ぶ。	
<到達目標> ①シリア語文法の基礎を身につける。②身につけたシリア語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、ペシッタを読むことができるようになる。	
<授業の概要> 練習問題に取り組むながら、ペシッタを読むために必要なシリア語文法を学ぶ。	
<履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。	
<p><授業計画></p> <p>第1回：序 シリア語を学ぶ意義等話し、子音について （1）ヤコブ派の書体を学ぶ。</p> <p>第2回：子音について（2） ネストリウス派とエストラングラの書体を学ぶ。</p> <p>第3回：母音について ヤコブ派とネストリウス派の母音記号を学ぶ。</p> <p>第4回：代名詞について 人称・指示・疑問・関係代名詞を学ぶ。</p> <p>第5回：前置詞について 基本的なものをいくつか学ぶ。</p> <p>第6回：名詞について（1） 基本的な名詞について、ヘブライ語との比較をしつつ、その特徴を学ぶ。</p> <p>第7回：代名詞語尾について ヘブライ語と同様にシリア語も名詞等に代名詞語尾がつくことを学ぶ。</p> <p>第8回：名詞について（2） 母音の移動を伴うものを学ぶ。</p> <p>第9回：名詞について（3） 不規則変化するものを学ぶ。</p> <p>第10回：規則動詞について（1） Peal 形の変化、特に完了を学ぶ。</p> <p>第11回：規則動詞について（2） Peal 形の変化、特に未完了・命令・分詞・不定詞を学ぶ。</p> <p>第12回：規則動詞について（3） Ethpeel 形の変化を学ぶ。</p> <p>第13回：規則動詞について（4） Pael 形と Ethpael 形の変化を学ぶ。</p> <p>第14回：規則動詞について（5） Aphel 形と Ettaphal 形の変化を学ぶ。</p> <p>第15回：規則動詞について（6） 代名詞語尾のついた形の変化を学ぶ。</p>	
<準備学習等の指示> 授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。	
<p><テキスト></p> <p>Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar, 3rd.ed., Oxford University Press, London, 1949.</p>	
<p><参考書></p> <p>William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926.</p> <p>Takamitsu Muraoka, Classical Syriac for Hebraists, Wiesbaden : O. Harrassowitz, 1987</p>	
<学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。	

専門教育科目選択・聖書神学関係	
シリア語 b	佐藤 泉
後期・2単位	<登録条件> 通年で履修するのが望ましい。
<授業のテーマ> 聖書の古代訳の一つにペシッタ（シリア語訳）がある。ペシッタを読むためのシリア語文法の基礎を学ぶ。	
<到達目標> ①シリア語文法の基礎を身につける。②身につけたシリア語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、ペシッタを読むことができるようになる。	
<授業の概要> シリア語文法の学びを継続する。その後に講読に入るが、まず新約からマタイによる福音書の「山上の説教」、さらに旧約からエレミヤ書等をペシッタで読む。（箇所は未定。授業中に指示する。）	
<履修条件> ヒブル語履修済みであること並びにシリア語 a 履修済みであることが望ましい。	
<p><授業計画></p> <p>第1回：不規則動詞について（1） Pê Nûn 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第2回：不規則動詞について（2） Lamed 喉音動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第3回：不規則動詞について（3） Pê 'alep 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第4回：不規則動詞について（4） Pê Yöd 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第5回：不規則動詞について（5） 二根字動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第6回：不規則動詞について（6） 二重`ayin 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第7回：不規則動詞について（7） Lamed Hê・Lamed Yöd 動詞の変化を学ぶ。</p> <p>第8回：「山上の説教」の講読（1） Jennings の辞書を引きながら、ペシッタを読むことに慣れる。</p> <p>第9回：「山上の説教」の講読（2） 原典との比較をしつつ読むことを味わう。</p> <p>第10回：「山上の説教」の講読（3） シリア語文法、特に不規則変化する名詞を確認しつつ読む。</p> <p>第11回：「山上の説教」の講読（4） シリア語文法、特に動詞の変化を確認しつつ読む。</p> <p>第12回：「山上の説教」の講読（5） シリア語が解釈に影響を与えている一例について話す。</p> <p>第13回：エレミヤ書等の講読（1） ネストリウス派の書体・母音記号で読むことに慣れる。</p> <p>第14回：エレミヤ書等の講読（2） シリア語文法を全体的に思い出しつつ読む。</p> <p>第15回：エレミヤ書等の講読（3） 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。</p>	
<準備学習等の指示> 授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。	
<テキスト> Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar, 3 rd .ed., Oxford University Press, London, 1949.	
<p><参考書></p> <p>William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926.</p> <p>Takamitsu Muraoka, Classical Syriac for Hebraists, Wiesbaden : O. Harrassowitz, 1987.</p> <p>J. Payne Smith, A compendious Syriac dictionary : founded upon the Thesaurus Syriacus of R. Payne Smith, Winona Lake, Ind. : Eisenbrauns, 1998.</p>	
<学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況によって成績をつける。	

専門教育科目選択・聖書神学関係	
イスラエル古代史	大住 雄一
後期・2単位	<登録条件>
<授業のテーマ> 伝道者に要求される基礎的な知識であるイスラエル古代史への入門である。	
<到達目標> 一般史の中のイスラエル古代史の知識を得る。	
<授業の概要> 聖書の記述に沿いながら、それが実際の「史実」ではどういう事態であったのかを究明する。	
<履修条件> 日本基督教団の補教師試験を受験しようとする者で、聖書通論2旧約時代史を履修していない者は履修すること。	
<授業計画> <ol style="list-style-type: none"> 1. イスラエル古代史とは何か 2. 考古学の成果と歴史 3. イスラエルとは何であったか エジプトの記録から 4. ハビルとイスラエル 5. シナイとは何か 6. 征服か農民革命か、あるいは経済変動か 7. イスラエルの宗教 8. イスラエルの歴史記述 9. 二つの王国 10. 王国の文化 11. 宗教と政治 12. アッシリアとバビロン 13. バビロン捕囚 14. ペルシアとの妥協とユダヤ国家建設 15. 知識の確認 	
<準備学習等の指示>	
<テキスト>	
<参考書> 諸種の歴史資料を提供する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 小レポートを提出していただく。レポートの主題は、冬休み前に提示する。	

専門教育科目選択・聖書神学関係	
新約聖書神学Ⅳ	焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 新約聖書の書簡および黙示録を学ぶ。</p>	
<p><到達目標> 新約聖書の書簡および黙示録の内容と新約聖書における位置づけを理解する。</p>	
<p><授業の概要> 各文書の緒論、神学的課題を講義形式で学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 新約聖書神学Ⅲ、ギリシア語履修が望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パウロ真正書簡概観 2. コリントの信徒への手紙二 3. ローマの信徒への手紙 総論 4. ローマの信徒への手紙 詳論一律法について 5. ガラテヤの信徒への手紙 6. テサロニケの信徒への手紙一（一との関連で二） 7. フィリピの信徒への手紙、フィレモンへの手紙 8. 真正書簡総括 9. コロサイ、エフェソの信徒への手紙 10. テモテへの手紙一、二、テトスへの手紙 11. ヘブライ人への手紙 12. ヤコブの手紙、ペトロの手紙一、二、三 13. ヨハネの手紙一、二、三、ユダの手紙 14. ヨハネの黙示録 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示> 当日の聖書箇所を読み、自分なりの理解をもって授業に参加すること。</p>	
<p><テキスト> 聖書。</p>	
<p><参考書> 適宜紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席状況、授業参加、中間、期末試験。</p>	

専門教育科目選択（専攻必修）・聖書神学関係	
新約原典講読 I	三永 旨従
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 編集史批判の立場から共観福音書の各文書の特徴を扱う。</p>	
<p><到達目標> 編集史を確立したといわれる小論文を読み、学問的傾向を理解する。</p>	
<p><授業の概要> 新約聖書における編集史批判の重要性を示した文献を読んだ後、各文書の文体的特徴及び文法を重視しつつ、講読の基礎を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ギリシャ語1、2を修得済みの者</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 辞書、コンコーダンスの用法について 2. "The Stilling of The Storm in Matthew" 講読 P.52-54 3. "The Stilling of The Storm in Matthew" 講読 P.54-57 4. 「嵐を鎮める」読解（マルコ） 5. 「嵐を鎮める」読解（マタイ） 6. 「嵐を鎮める」読解（ルカ） 7. 「ゲッセマネの祈り」読解（マルコ） 8. 「ゲッセマネの祈り」読解（マタイ） 9. 「ゲッセマネの祈り」読解（ルカ） 10. 「十字架」読解（マルコ） 11. 「十字架」読解（マタイ） 12. 「十字架」読解（ルカ） 13. 「ガリラヤ宣教」読解（マルコ） 14. 「ガリラヤ宣教」読解（マタイ） 15. 「ガリラヤ宣教」読解（ルカ） 	
<p><準備学習等の指示> 該当箇所に関して必ず辞書、コンコーダンス等で予習してクラスに出席。</p>	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・"The Stilling of The Storm in Matthew" G. Bornkamm in <u>Tradition & Interpretation in Matthew</u>, G. Bornkamm, G. Barth, H.J. Held (1960) ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE (27版) に基づいた対観福音書（授業にて紹介） ・"A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers" W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd. (各自で購入することを強く勧める。) 	
<p><参考書> ギリシャ語ベースで執筆された各福音書の注解書</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスへの参加あるいは試験による評価</p>	

専門教育科目選択・聖書神学関係	
新約原典講読Ⅱ	三永 旨従
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 前期に学んだ共観福音書の各文書の文体的特徴をふまえた上で、さらに各文書をギリシャ語で読むことの意味を問う。</p>	
<p><到達目標> 具体的なテキストにあたり、原典の読解力をつける。</p>	
<p><授業の概要> 前期とは別の聖書箇所における各文書の文体的特徴及び、文法を重視しながら理解を深める。</p>	
<p><履修条件> ギリシャ語1、2を修得済みの者</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「盲人の癒し」読解（マルコ） 2. 「盲人の癒し」読解（マタイ） 3. 「盲人の癒し」読解（ルカ） 4. 「悪霊追放」読解（マルコ） 5. 「悪霊追放」読解（マタイ） 6. 「悪霊追放」読解（ルカ） 7. 「山上の変貌」読解（マルコ） 8. 「山上の変貌」読解（マタイ） 9. 「山上の変貌」読解（ルカ） 10. 「エルサレム入城」読解（マルコ） 11. 「エルサレム入城」読解（マタイ） 12. 「エルサレム入城」読解（ルカ） 13. 「復活の言及箇所」読解（マルコ） 14. 「復活顕現」読解（マタイ） 15. 「復活顕現」読解（ルカ） 	
<p><準備学習等の指示> 該当箇所に関して必ず辞書、コンコーダンス等で予習してクラスに出席。</p>	
<p><テキスト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE (27版) に基づいた対観福音書 ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd. (各自で購入することを強く勧める。) 	
<p><参考書> ギリシャ語ベースで執筆された各福音書の注解書</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> クラスへの参加あるいは試験による評価</p>	

専門教育科目選択・歴史神学関係	
宗教史Ⅱ	小室 尚子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 日本人の世界観を形成する諸宗教について学ぶことにより、日本における福音宣教の課題を探る。</p>	
<p><到達目標> ①日本における諸宗教の歴史、内容、日本的展開について知る。②日本という異教社会の中で福音を伝える方法を考える。</p>	
<p><授業の概要> 日本における諸宗教の歴史的・日本的展開、およびその内容・形態の概説と、キリスト教伝来後の、キリスト教とそれらの宗教との関係を学ぶ。また歴史的に培われた日本人の伝統的思想に基づいた現代日本人の宗教観を分析・考察し、福音宣教における諸問題の克服への緒を探る。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論：キリスト教受容における（日本人の）問題点 2. 宗教と世界観の関係／キリスト教の世界観 3. 日本人の世界観 4. 日本宗教史概観 5. 日本人のカミ観念の形成 6. 仏教伝来と「神道」 7. 「習合」という形態 8. 日本仏教とその特質 9. 中国の宗教の日本的展開 10. 民衆の宗教と「日本宗教」 11. 日本キリスト教史概説 12. 日本とキリスト教：日本人の精神的伝統とキリスト教 13. 日本におけるキリスト教の土着化の問題：宣教における諸問題（1）丸山正男、武田清子の分析から 14. 日本におけるキリスト教の土着化の問題：宣教における諸問題（2）三つの問題点：「神」理解、 「贖罪」理解、「教会」理解 15. まとめ：日本の教会の課題と使命 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 担当者がプリント教材・資料を用意する</p>	
<p><参考書> 初回授業において参考文献表を配布する</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> レポート（期末に提出）による評価 授業への参加意識</p>	

専門教育科目選択・歴史神学関係	
教理史 I	関川 泰寛
前期・2単位	<登録条件>
<授業のテーマ> 古代教理史の概論	
<到達目標> 古代教理史に関わる項目、概念、人名、著作などを正確に理解し、主要な主題について概説的な理解を得る。	
<授業の概要> 古代の教理史を概説するが、その際一次資料をできる限り読みながら、教理の歴史をたどる。	
<履修条件> 特になし	
<授業計画>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 教理とは何か。ギリシア語圏とラテン語圏での展開 2 教理史の課題 3 教理史から見た使徒教父文書 4 弁証家とロゴス・キリスト論 5 ユスティノスの神学 6 グノーシス主義の教理的な特色とキリスト教の論駁 7 モンタノス主義とマルキオン主義 8 正典と職制理解とキリスト教 9 アレキサンドリア学派—クレメンスとオリゲネス神学の特色 10 アレイオス論争 11 アタナシオス神学の特色 12 ニカイア論争史と信条の成立 13 カパドキア教父の神学 14 カルケドンへの道 15 総括 	
<準備学習等の指示> 教会史 I をよく復習しておくこと。ウォーカー『キリスト教史・古代教会』（ヨルダン社）、ブロックス『古代教会史』（教文館）などを通読しておくこと。	
<テキスト> 特に使用しない。ただし、その都度、レジメを配布する。	
<参考書> マクグラス『キリスト教思想史入門—歴史神学概説』（キリスト新聞社）	
<学生に対する評価（方法・基準）> 出席を大前提として、小論文によって評価する。	

専門教育科目選択・歴史神学関係	
教理史Ⅱ	関川 泰寛
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 古代末期、中世、宗教改革時代の教理史の概説。</p>	
<p><到達目標> 古代末期～宗教改革時代の教理史に関わる事項、人名、著書などを正確に理解し、その時代の教理史の主要問題を概説的に整理できるようにする。</p>	
<p><授業の概要> 中世と宗教改革時代の教理史を概説する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アウグスティヌスの生涯と著作、ドナティスト論争とペラギウス論争 2 アウグスティヌスの神学Ⅰ サクラメント論、恩恵論 3 アウグスティヌスの神学Ⅱ 歴史の神学 4 中世の聖餐論争 5 アンセルムスの神学 6 トマス・アキナスとボナヴェントゥーラ 7 宗教改革の教理の形成、聖書と伝統の問題 8 ルターの神学 9 カルヴァンの神学Ⅰ「生涯と神学」 10 カルヴァンの神学Ⅱ「神論、キリスト論、聖霊論」 11 宗教改革者の恩恵論 12 宗教改革者のサクラメント論 13 宗教改革者の教会論 14 ディスカッション 15 総括 	
<p><準備学習等の指示> 教会史ⅡとⅢをよく復習しておくこと。</p>	
<p><テキスト> 特に使用しない。ただし、その都度、レジメを配布する。</p>	
<p><参考書> マクグラス『キリスト教思想史入門—歴史神学概説』第二～三章（キリスト新聞社）</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席を大前提として、小論文によって評価する。</p>	

専門教育科目選択・実践神学関係	
教会実習 I	ウェイン・ジャンセン
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> セミオティクスとパストラル・ケア</p>	
<p><到達目標> 象徴学；記号論を通して、学生は自らのアイデンティティをより理解し、又、シンボルを理解することによって、キリスト者を牧会的に助けることができるように成長する。</p>	
<p><授業の概要> 宗教改革以前、キリスト者は宗教的シンボルを理解し、そのシンボルを通して神との関係や、教会との関係を知ろうとした。しかし、500年前から、プロテスタントの信者は偶像礼拝を避けるため、シンボルから離れてきた。対照的に、正教会とカトリック教会はシンボルを持っているために、自らの信仰との関係がより理解されている側面がある。牧会的な立場から考えると、プロテスタントの信者は神を、愛して下さる親として理解することが難しく、又、イエスを友として理解することも難しくなっていると言える。愛に基づく神や教会との関係は学問的、神学的説明に捉えられる傾向がある。シンボルの健全な理解により、神を父として、又、教会を母として理解することが可能になり、又、堅固な神学的土台の上に、セミオティクス（象徴学；記号論）を通して自らの信仰を理解しようとするキリスト者に魂の牧会ケアを与えることを学びとする。</p>	
<p><履修条件> 履修登録者が4人に満たない場合は、閉校となる可能性があります。</p>	
<p><授業計画></p> <ul style="list-style-type: none"> 1回目 オリエンテーション 2回目 現代的シンボル 3回目 世俗的シンボル 4回目 プロテスタントのシンボル 5回目 ユダヤ教のシンボル 6回目 正教会のイコン 7回目 カトリックのシンボル 8回目 動物のシンボリック役割 9回目 キリスト者のファッション 10回目 キリスト者の生活 11回目 学生プレゼンテーション 12回目 学生プレゼンテーション 13回目 学生プレゼンテーション 14回目 学生プレゼンテーション 15回目 最終評価 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 講義をしながら、様々な参考書やインターネットからの参考資料を紹介する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席、ディスカッションの参加、プレゼンテーション、最終評価 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目選択・実践神学関係	
教会実習Ⅱ	ウェイン・ジャンセン
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> セミオティクスとパストラル・ケア</p>	
<p><到達目標> 象徴学；記号論を通して、学生は自らのアイデンティティをより理解し、又、シンボルを理解することによって、キリスト者を牧会的に助けることができるように成長する。</p>	
<p><授業の概要> 宗教改革以前、キリスト者は宗教的シンボルを理解し、そのシンボルを通して神との関係や、教会との関係を知ろうとした。しかし、500年前から、プロテスタントの信者は偶像礼拝を避けるため、シンボルから離れてきた。対照的に、正教会とカトリック教会はシンボルを持っているために、自らの信仰との関係がより理解されている側面がある。牧会的な立場から考えると、プロテスタントの信者は神を、愛して下さる親として理解することが難しく、又、イエスを友として理解することも難しくなっていると言える。愛に基づく神や教会との関係は学問的、神学的説明に捉えられる傾向がある。シンボルの健全な理解により、神を父として、又、教会を母として理解することが可能になり、又、堅固な神学的土台の上に、セミオティクス（象徴学；記号論）を通して自らの信仰を理解しようとするキリスト者に魂の牧会ケアを与えることを学びとする。</p>	
<p><履修条件> 履修登録者が4人に満たない場合は、閉校となる可能性があります。</p>	
<p><授業計画></p> <ul style="list-style-type: none"> 1回目 オリエンテーション 2回目 キリスト教建築 3回目 教会の調度品 4回目 聖職者の礼服、法衣、祭服 5回目 聖書翻訳 6回目 教会音楽と讃美歌 7回目 バプテスマの儀式 8回目 ユーカリストの儀式 9回目 教派 10回目 諸宗教のシンボルの比較 11回目 学生プレゼンテーション 12回目 学生プレゼンテーション 13回目 学生プレゼンテーション 14回目 学生プレゼンテーション 15回目 最終評価 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 講義をしながら、様々な参考書やインターネットからの参考資料を紹介する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席、ディスカッションの参加、プレゼンテーション、最終評価 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目選択・実践神学関係	
教会教育入門 a	長山 道
前期・2単位	<登録条件> 特になし（学期ごとに登録可）
<授業のテーマ> 教会教育の理論、歴史、諸問題について学ぶ。	
<到達目標> 教会教育の基本的な知識や考え方を身につける。	
<授業の概要> 教会教育に関する基礎的な理論および歴史を概観する。	
<履修条件>	
<授業計画> <ol style="list-style-type: none"> 1 教会教育とは何か 2 信仰を教えることは可能か 3 教師としてのイエス（1）マルコによる福音書 4 教師としてのイエス（2）マタイによる福音書 5 教師としてのイエス（3）ルカによる福音書 6 教師としてのイエス（4）ヨハネによる福音書 7 福音伝道と教会教育 8 道德教育と教会教育 9 原始キリスト教における教会教育（1）パラドシス 10 原始キリスト教における教会教育（2）パレネーシス 11 ケリュグマとディダケー 12 古代における教会教育 13 中世における教会教育 14 宗教改革期における教会教育（1）ルター 15 宗教改革期における教会教育（2）カルヴァン 	
<準備学習等の指示>	
<テキスト> レジュメを配布する。	
<参考書> 講義中に適宜指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを課す。	

専門教育科目選択・実践神学関係	
教会教育入門 b	長山 道
後期・2単位	<登録条件> 特になし(学期ごとに登録可)
<授業のテーマ> 教会教育の理論、諸形態、諸問題について学ぶ。	
<到達目標> 教会教育に関する基本的な理論を身につける。	
<授業の概要> 教会教育に関する基礎的な理論および諸形態を概観する。	
<履修条件>	
<授業計画> <ol style="list-style-type: none"> 1 『ハイデルベルク信仰問答』 2 『ウエストミンスター大教理問答』『ウエストミンスター小教理問答』 3 創造と聖化 4 教理、敬虔、理性 5 幼児洗礼 6 教会の中の子ども 7 幼少期の教会教育 8 青少年期の教会教育 9 成人期の教会教育 10 高齢期の教会教育 11 カテケシスから洗礼、信仰告白へ 12 受洗後教育 13 礼拝と教会教育 14 伝道と教育 15 人間形成と教会教育 	
<準備学習等の指示>	
<テキスト> レジュメを配布する。	
<参考書> 講義中に適宜指示する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 学期末にレポートを課す。	

専門教育科目選択・実践神学関係	
牧会心理学 a	ウェイン・ジャンセン
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 牧会における心理学的課題を学ぶこと。牧会者としてのアイデンティティを養成すること。</p>	
<p><到達目標> 牧会で直面する様々なケースに正しく対応できるようになる。</p>	
<p><授業の概要> 牧会的／心理学的課題について講義をし、逐語記録やケース・スタディーで実践的に学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性があります。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 牧会カウンセリングの歴史と定義 第2回 宗教と魂 第3回 人格関係の重要性 第4回 傾聴について 第5回 癒し 第6回 認識と洞察 第7回 受容 第8回 結婚と家庭におけるカウンセリング 第9回 ケース・スタディー 第10回 ケース・スタディー 第11回 ケース・スタディー 第12回 ケース・スタディー 第13回 ケース・スタディー 第14回 ケース・スタディー 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> ハワード・ストーム『臨死—そして与えられた二度目の人生』 リーハイバレー・ジャパニーズ・ミニストリーズ (2015)</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 出席、書評、ディスカッションの参加 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。</p>	

専門教育科目選択・実践神学関係																																																	
牧会心理学 b	ウェイン・ジャンセン																																																
後期・2単位	<登録条件>																																																
<授業のテーマ> 牧会における心理学的課題を学ぶこと。牧会者としてのアイデンティティを養成すること。																																																	
<到達目標> ロールプレイを通して、クライアントや牧師の様々な立場から考えることができるようになる。																																																	
<授業の概要> 牧会的／心理学的課題について講義をし、ロールプレイで実践的に学ぶ。																																																	
<履修条件> 履修登録者が4人に満たない場合は、閉講となる可能性があります。																																																	
<授業計画> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 40%;"></th> <th style="width: 50%; text-align: center;"><u>学習テーマ</u></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>オリエンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>ロールプレイ (一人対一人)</td> <td>恋愛</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>ロールプレイ (一人対一人)</td> <td>DV</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>ロールプレイ (一人対一人)</td> <td>ひきこもり問題</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>ロールプレイ (一人対一人)</td> <td>自らを赦す事</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>ロールプレイ (一人対一人)</td> <td>相手を赦す事</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>ロールプレイ (一人対一人)</td> <td>職場でのトラブル</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>ロールプレイ (一人対一人)</td> <td>病名告知</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>ロールプレイ (一人対一人)</td> <td>経済的悩み</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>ロールプレイ (一人対一人)</td> <td>自殺</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>ロールプレイ (一人対一人)</td> <td>霊的に乾いている</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>ロールプレイ (一人対二人)</td> <td>結婚相談</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>ロールプレイ (一人対二人)</td> <td>非行少年[少女]問題</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>ロールプレイ (一人対二人)</td> <td>共に暮らしている親との人間関係</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				<u>学習テーマ</u>	第1回	オリエンテーション		第2回	ロールプレイ (一人対一人)	恋愛	第3回	ロールプレイ (一人対一人)	DV	第4回	ロールプレイ (一人対一人)	ひきこもり問題	第5回	ロールプレイ (一人対一人)	自らを赦す事	第6回	ロールプレイ (一人対一人)	相手を赦す事	第7回	ロールプレイ (一人対一人)	職場でのトラブル	第8回	ロールプレイ (一人対一人)	病名告知	第9回	ロールプレイ (一人対一人)	経済的悩み	第10回	ロールプレイ (一人対一人)	自殺	第11回	ロールプレイ (一人対一人)	霊的に乾いている	第12回	ロールプレイ (一人対二人)	結婚相談	第13回	ロールプレイ (一人対二人)	非行少年[少女]問題	第14回	ロールプレイ (一人対二人)	共に暮らしている親との人間関係	第15回	まとめ	
		<u>学習テーマ</u>																																															
第1回	オリエンテーション																																																
第2回	ロールプレイ (一人対一人)	恋愛																																															
第3回	ロールプレイ (一人対一人)	DV																																															
第4回	ロールプレイ (一人対一人)	ひきこもり問題																																															
第5回	ロールプレイ (一人対一人)	自らを赦す事																																															
第6回	ロールプレイ (一人対一人)	相手を赦す事																																															
第7回	ロールプレイ (一人対一人)	職場でのトラブル																																															
第8回	ロールプレイ (一人対一人)	病名告知																																															
第9回	ロールプレイ (一人対一人)	経済的悩み																																															
第10回	ロールプレイ (一人対一人)	自殺																																															
第11回	ロールプレイ (一人対一人)	霊的に乾いている																																															
第12回	ロールプレイ (一人対二人)	結婚相談																																															
第13回	ロールプレイ (一人対二人)	非行少年[少女]問題																																															
第14回	ロールプレイ (一人対二人)	共に暮らしている親との人間関係																																															
第15回	まとめ																																																
<準備学習等の指示>																																																	
<テキスト>																																																	
<参考書>																																																	
<学生に対する評価(方法・基準)> 出席、ロールプレイの参加。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。																																																	

専門教育科目選択・実践神学関係	
臨床牧会教育 a	ウェイン・ジャンセン
前期・2単位	<登録条件>
<授業のテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。	
<到達目標> 自分の牧会者像を明確にする。	
<授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。	
<履修条件> 講義は登録者2人以上から6人未満で成立する。	
<授業計画> *オリエンテーション *院長による精神病理の講義。病院見学。 *病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。 *面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 *各学生によるケース提出とディスカッションを行う。 第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。	
<準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。	
<テキスト>	
<参考書>	
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末面談によって評価する。	

専門教育科目選択・実践神学関係	
臨床牧会教育 b	ウェイン・ジャンセン
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。</p>	
<p><到達目標> 自分の牧会者像を明確にする。</p>	
<p><授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、実際的にカウンセリングを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 臨床牧会教育 a を終えていること。</p>	
<p><授業計画></p> <ul style="list-style-type: none"> * 各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。 * 面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。 * 各自のケース・レポートをし、ケース・スタディをする。 <p>第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。</p>	
<p><準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。</p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末面談によって評価する。</p>	

専門教育科目選択・実践神学関係	
説教学入門 a	小泉 健
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 聖書から聞くこと、聞いたことを語ることを、体験的に学ぶ。</p>	
<p><到達目標> 自分で説教を準備するための土台を身につけること。</p>	
<p><授業の概要> 説教準備の各段階を意識しつつ、学生各自が発表・実演を行い、それを素材として討論を重ねながら学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ギリシア語初級履修済み、もしくは履修中であること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 「説教とは何か」を考え始める 第2回 「わたし」について語る 第3回 「わたし」と「聖書」と「福音」 第4回 「わたし」と「あなた」と「主イエス」 第5回 聖書を読む、朗読する 第6回 聖書朗読と説教 第7回 聖書に聞く、黙想する 第8回 聖書を読む、釈義する 第9回 聖書を語り直す（その1）対話中心の物語として 第10回 聖書を語り直す（その2）一人称で 第11回 さらに黙想する（その1）説教と教義学 第12回 さらに黙想する（その2）説教と牧会 第13回 説教は何をしているか 第14回 説教を読む 第15回 言葉が語る、言語以外のものが語る</p>	
<p><準備学習等の指示> 説教を学ぶ者として、また将来の説教者としての「日々聖書を読む生活」</p>	
<p><テキスト> 聖書を持参すること。その他は、必要に応じて教室でプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> K. バルト、E. トゥルナイゼン『神の言葉の神学の説教学』日本基督教団出版局、1988年（オンデマンド） R. ボーレン『説教学Ⅰ』『説教学Ⅱ』日本基督教団出版局（Ⅱはオンデマンド） その他については授業中に文献表を配布する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業での発表とレポート（説教）によって評価する。共通評価指標（1）の②、③、⑤を重視する。</p>	

専門教育科目選択・専攻間共同	
アジア伝道論演習 a	朴 憲郁
前期・2単位	<登録条件> 通年履修が望ましいが、半学期の履修もできる。
<授業のテーマ> 東北・東南アジア・キリスト教伝道の歴史と現実	
<到達目標> 東北・東南アジア諸国におけるキリスト教の意義と役割を基本的に理解することを目指す。	
<授業の概要> 伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、一国に絞らず、むしろテキストに沿って、東北および東南のアジア諸国におけるキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に、前・後期に亘って概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方を自覚・反省する素材となることを願う。	
<履修条件> 特になし	
<授業計画> 1. 伝道論(宣教学)とは何か(講義) 2. 伝道論の歴史的経緯、ニュービギンの宣教学(講義) (以下、3から14まで発表と討議、コメント) 3. 景教の東方伝道、韓国のキリスト教(初期カトリック史) 4. 韓国のキリスト教(プロテスタント史) 5. 中国のキリスト教(初期カトリック史) 6. 中国のキリスト教(プロテスタント史) 7. 台湾のキリスト教(16世紀~18世紀) 8. 台湾のキリスト教(19世紀~現代) 9. 香港のキリスト教 10. フィリピンのキリスト教 11. タイのキリスト教 12. マレーシアのキリスト教 13. ミャンマー、カンボジアのキリスト教 14. ベトナム、ラオスのキリスト教 15. 総括	
<準備学習等の指示> 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。	
<テキスト> 『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991年。	
<参考書> 1. 『アジア・キリスト教史[1]』、1989三版、2. 『アジア・キリスト教史[2]』、1985年初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業時の発表、参加度、学期末レポート(4000字以上)などによって評価する。 出席が2/3に満たない者は評価の対象としない。	

専門教育科目選択・専攻間共同	
アジア伝道論演習 b	朴 憲郁
後期・2単位	<登録条件> 通年履修が望ましいが、半学期の履修もできる。
<p><授業のテーマ> 南方アジア・キリスト教伝道の歴史と現実</p>	
<p><到達目標> 南方アジア諸国におけるキリスト教の意義と役割を基本的に理解することを目指す。</p>	
<p><授業の概要> アジアのキリスト教について解説し、その特質を把握した後、前期に続いて南方広域アジア諸国のキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方をも自覚的に反省する素材となることを願う。</p>	
<p><履修条件> 特にない</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アジアのキリスト教の特色と課題 2. アジアのキリスト教における伝道論 <p>(以下、3～14まで発表と討議、コメント)</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. シンガポールのキリスト教 4. インドネシアのキリスト教 (歴史と文化、カトリック宣教) 5. インドネシアのキリスト教 (プロテスタント宣教) 6. インドのキリスト教 (歴史と文化、カトリック宣教) 7. インドのキリスト教 (プロテスタント宣教) 8. スリンランカのキリスト教 9. バングラディシュのキリスト教 10. パキスタン・アフガニスタンのキリスト教 11. ブータン・ネパールのキリスト教 12. チベット・シッキムのキリスト教 13. オーストラリアのキリスト教 14. ニューージーランドのキリスト教 15. 東南アジアのキリスト教を回顧して (講義) 	
<p><準備学習等の指示> 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。</p>	
<p><テキスト> 『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991年。</p>	
<p><参考書></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 『アジア・キリスト教史[1]』、1989 三版、2. 『アジア・キリスト教史[2]』、1985年 初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。 	
<p><学生に対する評価 (方法・基準) > 授業時の発表、参加度、学期末レポート (4000 字以上) などによって評価する。 出席が 2 / 3 に満たない者は評価の対象としない。</p>	

教職課程科目・教職に関する科目	
教職概論	朴 憲郁
後期・2単位	<登録条件> 特にない
<p><授業のテーマ> 教師とは何か</p>	
<p><到達目標> 専門職としての学校教師となるための実践的見識の修得方法、および制度論的課題を正しく把握することを目指す。</p>	
<p><授業の概要> 今日の学校教育の課題の一つは、教師の資質と像をめぐる問題であろう。どういう教育理念と教師像を目指すべきかという基本的な主題を、教師に関する理解の歴史的変遷、組織、見識、教育課題などに分類して考察していく。</p>	
<p><履修条件> 特にない</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教師への関心 2. 教職の専門性をめぐって 3. 教師文化の規範 4. 専門家の文化形成 5. 教師の実践的見識 6. 教師の知識と教育学的推論 7. 事例研究と語りの様式 8. 教師教育の課題 9. 生涯学習 10. 専門職化 11. 教員免許更新の教師養成について 12. キリスト教学校での教師像 13. キリスト教学校での教師の使命と役割 14. 神学大学における教師養成理念 15. 今後の課題 	
<p><準備学習等の指示> 毎回の授業において、前半は担当講師の講義をし、後半は指定テキストの分担箇所での学生発表と意見交換がなされる。次週に扱うテキスト箇所を各自あらかじめ読んで理解しておき、意見を交し合う。</p>	
<p><テキスト> 南本長徳編著、『新しい教職概論』、ミネルヴァ書房、2016年</p>	
<p><参考書></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 佐藤学、『教師というアポリア=反省的实践』、世織書房、1996年 2. 近藤邦夫、『教師と子どもの関係づくり』、東京大学出版会、1995年 	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、期末レポートなどによって評価する。 出席を2/3以上満たした者を評価の対象とする。</p>	

教職課程科目・教職に関する科目	
心理発達と教育	森 真弓
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 人生をライフステージごとに見つめ、教育者として把握しておきたい発達課題について学ぶ。教育者になるための心理的レジネスや自己対応スキルにつながることをも目的としている。</p>	
<p><到達目標> 学生は、人の発達段階における課題を整理し、教育現場における不適応・問題行動の背景にある心理を発達心理学・臨床心理学の視点から理解する力を身につける。思春期（青年期前期）の理解に「乳幼児期の発達の視点」がいかに重要な学び、生徒理解さらには人間理解・自分理解を深める。また近年学校現場で多く見られる「発達障害」についても基本的知識を獲得する。</p>	
<p><授業の概要> 各ステージの課題を学ぶと共に、乳児期では精神病理に、幼児期では土居健郎の甘え理論にもふれる。青年期の‘理想主義’や‘禁欲主義’の心理から発展させ、「キリスト者の心理特性」についても考察する。成人期・中年期では、生徒の保護者理解をそのライフステージの視点から深めるとともに、この時期の教育者の側の課題を整理しておく。うつ病と自殺についても学ぶ。老年期では認知症にも触れ、高齢者がよりよく生きるための支援についても共に考える。成人期以降については職場の上司理解、同僚理解にもつながるような内容にした。学生からの質問を含む「レスポンスペーパー」や随時設定する「ディスカッション」等を通じて学習を進めていく。また、教育者自身の自己理解を深めるため、査定・ワークを3回に分けて実施する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 心とは————心を学ぶことの意義 2 心理発達基礎理論(1)————エリクソン 他 3 心理発達基礎理論(2)————フロイト、ピアジェ 他 4 自分自身を知るⅠ————————エゴグラム他（心理テスト演習） 5 乳児期————クライン、精神病理・パーソナリティ障害 等 6 幼児期————マラー、甘え理論 等 7 児童期————児童期課題、発達障害 8 思春期————乳幼児期との比較をとおして生徒を理解する 9 青年期(1)————青年期のライフイベント、現代の青年 10 青年期(2)————キリスト者の心理特性、青年ルター 11 自分自身を知るⅡ————————信仰と心理 12 成人期————成人期の区分と課題、男性性と女性性（母性と父性） 13 中年期————うつと自殺、教師のうつ病 等 14 老年期————「統合 対 絶望」、認知症 他 15 自分自身を知るⅢ————————まとめ（ディスカッション） 	
<p><準備学習等の指示> なし</p>	
<p><テキスト> 授業中に資料を配布する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 出席を前提とし、授業への参加状況（レスポンスペーパーやディスカッション）による評価、および期末レポート（1回）により評価する。</p>	

教職課程科目・教職に関する科目	
教育基礎論 I	長山 道
前期・2単位	<登録条件> 特になし。
<授業のテーマ> 教育の理念、教育に関する歴史、思想について学ぶ。	
<到達目標> 教育学の基本的概念を身につける。教育に関する歴史、思想を理解する。	
<授業の概要> 教育本質論を扱った後、その源流となる西洋教育思想史をたどり、さらに日本における西洋教育思想の受容とその後の教育史を概観する。	
<履修条件> 特になし。	
<授業計画> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育の本質と目的 2 教育を成り立たせる要素 3 古代ギリシアの教育観と学校教育 4 中世からルネサンス、宗教改革にかけての教育観の変遷 5 ルターの教育論と公教育 6 近代教育制度の成立 ―コメニウスの教育論 7 ロックの教育論と家庭教育 8 ルソーの教育論と家庭教育 9 カントの教育論 10 教育と社会 ―ペスタロッチの教育論 11 シュライアマハーの教育論 12 幼稚園の成立 ―フレーベルの教育論 13 ヘルバルトの教育論 14 デューイの教育論と新教育運動 15 現代社会における教育課題 	
<準備学習等の指示>	
<テキスト> レジュメを配布する。	
<参考書> 生徒指導提要。他は講義中に紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末にレポートを課す。	

教職課程科目・教職に関する科目	
教育基礎論Ⅱ	長山 道
後期・2単位	<登録条件> 特になし。
<授業のテーマ> 教育に関する社会的、制度的、経営的事項について学ぶ。	
<到達目標> 教育社会学、教育制度、教育に関する経営的事項についての基本的な知識を身につける。	
<授業の概要> 学校社会学に見た教育、社会における教育、教育制度の原理と基盤、および学校経営をめぐる基本問題について解説する。	
<履修条件> 特になし。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校と社会 2 子どもの生活と指導上の課題 3 教育政策 4 諸外国の教育事情1 ヨーロッパ、アメリカ 5 諸外国の教育事情2 アジア 6 公教育 7 教育法 8 教育行政 9 教育制度をめぐる課題 10 学校経営とは 11 学校における教育活動 12 学級経営 13 組織としての学校 14 学校と地域社会 15 学校の安全 	
<準備学習等の指示>	
<テキスト> レジュメを配布する。	
<参考書> 学習指導要領、生徒指導提要。他は講義中に紹介する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と学期末のレポートにより評価する。	

教職課程科目・教職に関する科目	
宗教科教授法 A a	高橋 貞二郎
前期・2単位	<登録条件> 通年で登録すること
<p><授業のテーマ> 日本のキリスト教学校の歴史と現状を学び、宗教科（聖書科）の役割を知る。</p>	
<p><到達目標> 日本のキリスト教学校の歴史と現状の全体像を把握できるようになること。それによって宗教科の役割と意義を明確にすること。</p>	
<p><授業の概要> 宗教科（聖書科）教師となるための準備及び宗教科免許取得のためにこの授業が設けられている。そこで日本におけるキリスト教学校の歴史と現状を学ぶと共に、学校の教育理念の責任ある担い手として、指導的役割を果たす宗教科教師の役割と意義とを学ぶ。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. プロテスタントの海外伝道 3. 幕末における学校教育事情 4. 宣教師来日とキリスト教学校の誕生 5. キリスト教学校教育の基礎理念 6. キリスト教学校教育理念の実践 7. 近代化に対するキリスト教の貢献 8. 明治以降の政府の宗教政策とキリスト教 9. キリスト教学校教育の意義 10. キリスト教学校教育の現実 11. 聖書科の授業が目指すもの 12. 聖書科のカリキュラム 13. 聖書科指導案の作成と授業の展開 14. 聖書科授業の総合的反省 15. 聖書科授業の展望。評価 	
<p><準備学習等の指示> 授業の中で随時指示する。</p>	
<p><テキスト> 特に指定はしない。</p>	
<p><参考書> 『キリスト教学校の教育 中・高教師のために』、キリスト教学校教育同盟、1991年。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 期末の定期試験またはレポート、授業時の発表の結果などで評価する。出席2／3を満たすこと。</p>	

教職課程科目・教職に関する科目	
宗教科教授法 A b	高橋 貞二郎
後期・2単位	<登録条件> 通年で登録すること
<p><授業のテーマ> 宗教科（聖書科）カリキュラムや指導案の作成方法を学び、授業を展開する力を養うことを目指す。</p>	
<p><到達目標> 宗教科（聖書科）の指導案を作成し、実際に授業を展開することができるようになる。</p>	
<p><授業の概要> 教案の作り方や聖書の用い方について講義をした後、指定テキストと聖書に基づいて学生自らが模擬授業をする。その後、共同討論をしつつ、その模擬授業を評価する。</p>	
<p><履修条件> 特になし</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 聖書科授業の課題 2. 聖書科授業の教材研究 3. 学生による模擬授業とその共同反省(1) 礼拝とは 4. 学生による模擬授業とその共同反省(2) 祈りとは 5. 学生による模擬授業とその共同反省(3) 「主の祈り」と呼びかけについて 6. 学生による模擬授業とその共同反省(4) 「主の祈り」の第一、第二、第三の祈り 7. 学生による模擬授業とその共同反省(5) 「主の祈り」の第四、第五、第六、賛美の祈り 8. 学生による模擬授業とその共同反省(6) 賛美歌とは 9. 学生による模擬授業とその共同反省(7) 聖書とは 10. 学生による模擬授業とその共同反省(8) 旧約聖書について 11. 学生による模擬授業とその共同反省(9) 新約聖書について 12. 学生による模擬授業とその共同反省(10) 教会とは 13. 学生による模擬授業とその共同反省(11) 教会の三大祝日（クリスマス、イースター） 14. 学生による模擬授業とその共同反省(12) 教会の三大祝日（ペンテコステ）と教会の行事 15. 聖書科授業の総合的考察。評価 <p>模擬授業においては、毎回一名の学生が 50 分の授業を行う。 その後、行われた授業を素材として、全体で意見を交換し反省を行う。</p>	
<p><準備学習等の指示> 他の参考書も取り入れつつ、各自担当箇所の指導教案を作成し、授業展開の準備を前もってする。</p>	
<p><テキスト> 模擬授業に使用する教材を予め紹介する。</p>	
<p><参考書> 『キリスト教入門 キリストへの招き』、キリスト教学校教育同盟編、1993 年</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業中の模擬授業発表および授業への参加で評価する。（受講者が多くて発表できない場合は、授業の展開例のレポートで評価する。）出席が 2 / 3 以上であること。</p>	

教職課程科目・教職に関する科目	
道徳指導法	菱刈 晃夫
後期・2単位	<登録条件>
<授業のテーマ> 道徳教育の理論を押えたうえで、道徳の指導法や道徳教育と関わる諸問題について学ぶ。	
<到達目標> ①道徳教育の理論について理解し、説明・記述できる。②道徳の理論に基づいて道徳の授業を立案して授業案を作成し、模擬授業ができる。③道徳教育と関わる諸問題について、説明・記述できる。	
<授業の概要> 現代日本社会における道徳および人間のあり方を捉えた上で、学校教育における「道徳の時間」(道徳科)にできること、できないことを見極め、その具体的指導法について学ぶ。	
<履修条件>	
<授業計画> 第1回 道徳への問い(わたしたちにとっての道徳) 現代社会における道徳のあり方について、その状況を直視する。 第2回 道徳と人間 道徳と人間存在との関係について、古今東西の歴史を振り返る。 第3回 道徳の語義 道徳という言葉のもつ意味について、深く探る。 第4回 道徳性の育み 道徳はモラルティとして教えられるものではなく、育むものであることを理解する。 第5回 学校教育のなかの道徳の時間(1) 学校教育における「道徳の時間」の位置づけを、歴史を振り返りつつ確認する。 第6回 学校教育のなかの道徳の時間(2) 学習指導要領道徳編について、概略を把握し指導案の基本形を学ぶ。 第7回 学校教育のなかの道徳の時間(3) 学習指導要領と指導案に基づいた道徳教育の実践例を検討する。 第8回 学校教育のなかの道徳の時間(4) 学習指導要領に基づいた道徳授業の模擬授業体験をする。 第9回 学校教育のなかの道徳の時間(5) 道徳教育の模擬授業実践をさらに展開する。 第10回 心の教育 心の教育について、理解を深める。 第11回 現代の道徳教育(1) 現代日本および外国における道徳教育のさまざまな実践例を見る。 第12回 現代の道徳教育(2) 情報モラルと現代的な課題に関する道徳的指導について探る。 第13回 宗教教育と道徳教育 宗教教育、とくにキリスト教教育と道徳教育との関係について、理解を深める。 第14回 霊性の涵養をめぐる スピリチュアリティの涵養について、とくに学習指導要領4の視点とのかかわりを考える。 第15回 まとめ これまでの授業を振り返る。	
<準備学習等の指示> 下記テキスト、とくに『講義 教育原論』を受講前に全員必ず購入して学習に備えること。	
<テキスト> 宮野安治・山崎洋子・菱刈晃夫『講義 教育原論』(成文堂、2011年)。文科省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』。各自で購入すること。	
<参考書> 菱刈晃夫『習慣の教育学——思想・歴史・実践——』(知泉書館、2013年)	
<学生に対する評価(方法・基準)> 学期中の小課題と期末のレポートによる。 評価にあたっては、「共通評価指標(1)」記載項目中の①④⑤を特に重視する。	

教職課程科目・教職に関する科目	
特別活動指導法	山口 博
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）における特別活動の位置を学ぶ。</p>	
<p><到達目標> 受講生が教育課程（カリキュラム）における特別活動の意義を踏まえ、赴任校において学校礼拝等の実際に当たれることを到達目標とする。</p>	
<p><授業の概要> 学習指導要領の主旨に沿った中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）の意義と編成を、現状を踏まえつつ全体的に把握したい。その上で特別活動のあり方を諸局面に即して検討し、それらの集団活動を通して、生徒の個性と人間性を育成する道筋を明らかにしていく。授業後半に学校礼拝奨励のプレゼンを課題とする。</p>	
<p><履修条件> 教職免許状取得希望者</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 キリスト教を標榜する中学校・高等学校の教育課程（カリキュラム）における特別活動の位置 2. 教育課程（カリキュラム）の意義 3. 教育課程（カリキュラム）の編成と現状 4. 特別活動の目標 5. ホーム・ルーム活動の意義と特質 6. 学校行事の意義と特質 7. 学校行事の現状分析 8. 学校礼拝の意義と特質（これ以降の授業後半において学校礼拝奨励のプレゼンを全員に課す） 9. 式典について 10. 生徒会活動について 11. クラブ活動について 12. ボランティア活動について 13. 国際交流について 14. 総合的な学習について 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』文部科学省</p>	
<p><参考書> 『キリスト教学校に勤めるということ』—現場の声— キリスト教学校教育同盟 監修</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> レポート及び試験と授業への参加姿勢によって評価</p>	

教職課程科目・教職に関する科目	
教育の方法と情報技術 I	竹井 潔
前期・2単位	<登録条件> 通年でⅠ、Ⅱの履修が望ましい。
<授業のテーマ> 学生が授業を設計し、その中で情報機器を活用した効果的な授業展開が行えるような能力を身に着ける。	
<到達目標> 学生が中学、高等学校の授業において情報機器や教材を適切に活用し、多角的な授業展開が行えるようにする。	
<授業の概要> 学生が授業の設計を行い、パソコンでプレゼンテーションソフト等により授業の教材を作成し、実際に模擬授業を行う。学生同士の相互評価を行うことにより模擬授業の振り返りを行い、お互いに教育方法の向上を目指す。将来教員になった場合、情報技術を適切に活用することにより、受講者の立場に立ったわかりやすい授業展開ができるような能力を実践的に身に着ける。	
<履修条件> パソコンを使うため、パソコンの基本操作や Microsoft Office ソフトの基本的な操作ができること。または情報基礎を履修していること。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領と情報機器の活用 2. 授業における ICT の活用 3. パソコンと情報機器 4. プレゼンテーションソフトの概要 5. 学校教育における年間の授業計画 6. 授業設計と授業展開 7. パソコンを利用した教材作成 模擬授業のテーマ選定 8. パソコンを利用した教材作成 授業内容の検討 9. パソコンを利用した教材作成 レッスンプランの作成 10. パソコンを利用した教材作成 授業における使用する情報機器等の検討 11. パソコンを利用した教材作成 授業における教材作成検討 12. パソコンを利用した教材作成 プレゼンテーションソフトによる教材作成 13. パソコンを利用した教材作成 プレゼンテーションの実施方法 14. パソコンを利用した教材作成 模擬授業の実施 15. まとめ 	
<準備学習等の指示> パソコンの操作に慣れておくこと。ある程度パソコンの基本操作や Microsoft Office ソフトの基本的な操作ができるようにしておくこと。	
<テキスト> 特になし。必要に応じてプリント等配布。	
<参考書> 授業中に必要に応じて指示する。	
<学生に対する評価（方法・基準）> 平常点（50%）・提出物（50%）	

教職課程科目・教職に関する科目	
教育の方法と情報技術Ⅱ	竹井 潔
後期・2単位	<登録条件> 通年でⅠ、Ⅱの履修が望ましい。
<授業のテーマ> 学生が授業を設計し、その中で情報機器を活用した効果的な授業展開が行えるような能力を身に着ける。	
<到達目標> 学生が中学、高等学校の授業において情報機器や教材を適切に活用し、多角的な授業展開が行えるようにする。	
<授業の概要> 授業の設計を行い、パソコンでプレゼンテーションソフト等により授業の教材を作成し、実際に模擬授業を行う。学生同士の相互評価を行うことにより模擬授業の振り返りを行い、お互いに教育方法の向上を目指す。将来教員になった場合、情報技術を適切に活用することにより、受講者の立場に立ったわかりやすい授業展開ができるような能力を実践的に身に着ける。	
<履修条件> パソコンを使うため、パソコンの基本操作や Microsoft Office ソフトの基本的な操作ができること。または情報基礎を履修していること。原則として「教育の方法と情報技術Ⅰ」を履修していること。	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領と教育方法 2. 情報モラル：情報の取り扱い 3. 情報モラル：著作権、個人情報 4. アクティブラーニングと情報機材の活用 5. ブレインストーミングと KJ 法 6. 授業設計と授業展開 7. パソコンを利用した教材作成 模擬授業のテーマ、内容の検討 8. パソコンを利用した教材作成 レッスンプランの作成 9. パソコンを利用した教材作成 授業における教材作成検討 10. パソコンを利用した教材作成 プレゼンテーションソフトにおけるビジュアル表現 11. パソコンを利用した教材作成 図表、画像等 12. パソコンを利用した教材作成 アニメーション効果 13. パソコンを利用した教材作成 模擬授業実施及び相互評価 14. パソコンを利用した教材作成 模擬授業の振り返り 15. まとめ 	
<準備学習等の指示> パソコンの操作に慣れておくこと。ある程度パソコンの基本操作や Microsoft Office ソフトの基本的な操作ができるようにしておくこと。	
<p><テキスト></p> <p>特になし。必要に応じてプリント等配布。</p>	
<p><参考書></p> <p>授業中に必要に応じて指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>平常点（50%）・提出物（50%）</p>	

教職課程科目・教職に関する科目	
教育的指導と相談の研究 I	水口 洋
前期・2単位	<登録条件> 教職課程履修者
<p><授業のテーマ> 生活指導・進路指導の学校教育における目的・内容・方法について理解を深め、より良い指導法と生徒との関わり方を探求する。</p>	
<p><到達目標> ①生徒指導の目的・内容・方法を具体的に知る。 ②現在の学校教育の中での生徒指導の問題点を理解する。 ③聖書科教員としての生徒との関わり方を考察し、将来の実践に役立てる。</p>	
<p><授業の概要> 生徒指導の目的・内容・方法を知り、具体的な事柄や現場の出来事を通して、実際にキリスト教学校の教員となった時に、その教育を担う者として心すべき生徒指導・進路指導・生徒理解のあり方を考察する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 授業内容ガイダンス～生徒指導を可能にするもの 第2回 生徒指導の方法～日本近代教育史の中の二つの潮流 第3回 生徒指導と教育課程①～授業を整える 第4回 生徒指導と教育課程②～特別活動を通して 第5回 生徒指導と教育課程③～総合的学習を創造する 第6回 生徒指導と教育課程④～道德教育との関連 第7回 生徒指導と進路指導 第8回 生徒指導とホームルーム担任 第9回 魂に触れる生徒指導(キリスト教学校の独自性) 第10回 問題行動の理解と指導①～同質性が生む問題 第11回 問題行動の理解と指導②～SNSの浸透と人間関係の変化 第12回 問題行動の理解と指導③～発達障がいをもたらすもの 第13回 問題行動の理解と指導④～家庭の問題 第14回 問題行動の理解と指導⑤～生徒指導とチーム力 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> その都度、次週の準備を指示する。</p>	
<p><テキスト> 文部科学省「生徒指導提要」 (教育図書 415円)</p>	
<p><参考書> 水口 洋 「教育を考えるあなたに」 (いのちのことば社) 他</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 授業後の小レポート 30% 授業内発表 30% 討議への参加度 10% 最終レポート 30%を合計して評価する。</p>	

教職課程科目・教職に関する科目	
教育的指導と相談の研究Ⅱ	水口 洋
後期・2単位	<登録条件> 教育的指導と相談の研究Ⅰ履修者
<p><授業のテーマ> 思春期の発達とその課題を知り、教師としての対応やカウンセリングマインドを持って接する際の問題点を知り、具体的な対応力を身につけていく。</p>	
<p><到達目標> ①思春期・青年期の発達の課題を理解する。 ②生徒をわかろうとする心（カウンセリングマインド）を働かす現場の必要を理解する。 ③聖書科教員としての関わり方を考察し、教育相談、カウンセリングの資質を高める。</p>	
<p><授業の概要> 教育相談が成立するためには、教師と生徒の関係性が構築されていなければならない。そのためには教師が自分の準拠枠を外して生徒の心に寄り添うために、カウンセリングマインドを持って接することが大事とされる。生活指導とカウンセリングが車の両輪として、教師の人格の中に、学校という組織の中に矛盾なく存在するために、磨くべき知識と行動を学び、事例を中心に実際の対応力を身につけていく。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 授業内容ガイダンス～生徒を理解するとは 第2回 学校教育における教育相談の立ち位置～日本近代教育史の流れの中で 第3回 キリスト教学校における教育相談の独自性 第4回 生徒観の共有～キリスト教教育の中核と聖書科教員の役割 第5回 教師によるカウンセリングの基本①～相手を知る（演習） 第6回 教師によるカウンセリングの基本②～自分を知る（演習） 第7回 発達障害を理解する①～生徒の特性 第8回 発達障害を理解する②～支援の方法 第9回 事例を通して考える①～不登校 第10回 事例を通して考える②～自傷、依存、摂食障害 第11回 事例を通して考える③～いじめ 第12回 事例を通して考える④～暴力行為、非行 第13回 事例を通して考える⑤～保護者対応 第14回 キリスト教学校の相談活動の可能性 第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 授業ごとに次週の授業の指示を行う</p>	
<p><テキスト> 授業中の資料配付</p>	
<p><参考書> 授業中に紹介する</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 授業後の小レポート 30% 授業内発表 30% 討議への参加度 10% 最終レポート 30% を合計して評価する。</p>	

教職課程科目・教職に関する科目	
教職実践演習（中・高）	小泉 健
後期・2単位	<登録条件> 教職課程の最終段階で履修する
<p><授業のテーマ> 教職課程全体を振り返り、不足している知識、技能を補い、教員として必要な資質能力を養う。</p>	
<p><到達目標> 教職に関する科目と教科に関する科目とが統合され、学校教員として必要な資質能力として結実すること。</p>	
<p><授業の概要> 各自が自分で補うべきテーマを設定し、役割演技、事例研究、模擬授業などを行いながら、教員としての資質能力を実践的に確認する。</p>	
<p><履修条件> 第1回の授業に、記入済みの「履修カルテ」を持参すること。 教育実習を終えているか、もしくは本年度に教育実習を行う者であること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 教職課程の振り返りと課題の発見 第2回 キリスト教学校の使命と宗教主任の役割 第3回 カリキュラムの構想 第4回 授業をする力 第5回 教師としての話し方・聞き方 第6回 聖書教育、道徳教育、こころの教育 第7回 教会との協力 第8回 生徒理解 第9回 個々の子どもの特性や状況への対応 第10回 いじめや不登校への対応 第11回 学級経営 第12回 他の教職員との協力 第13回 保護者会、保護者への伝道 第14回 学校礼拝の形成 第15回 学校行事での役割</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> 必要に応じて、授業時にプリントを配布する。</p>	
<p><参考書></p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 演習における発表と参加によって評価する。共通評価指標（1）の④と⑤を重視する。</p>	

教職課程科目・教職に関する科目	
教育実習Ⅰ	小泉 健 長山 道
通年・5単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 教育実習校での実習を中心として、学校教員の働きを実地に学ぶ。</p>	
<p><到達目標> 聖書科授業を行うための実践的教授力、指導力を身に着ける。その他の学校教員の職務について理解する。</p>	
<p><授業の概要> キリスト教学校で教育実習が行われる。学内では事前、事後の指導を行う。</p>	
<p><履修条件> 前年度に教育実習予備登録を済ませ、実習校から受け入れ通知を得ていること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習事前指導 4月9日(月)9時～16時 教育実習の意義と心得、内容、生徒理解等について講義を行う。 2. 実習校での教育実習 3. 教育実習事後指導 11月26日(月)9時～16時 全員が教育実習の振り返りの報告をし、それに基づいて討論する。 報告すべき内容については、あらかじめ通知する。 <p>事前指導と事後指導を含む全体で本学の授業としての「教育実習」が構成されている。事前指導、事後指導を欠席すると、教育実習の単位そのものを取得できない。必ず出席すること。</p>	
<p><準備学習等の指示> 実習校での実習にあたっては、事前指導に基づいて適切に準備すること。 事後指導では報告の発表を求めるので、準備した上で授業に臨むこと。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じてプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> 特になし</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 実習校からは「成績報告書」が送られてくる。そこでの評価を参考にしつつ、さらに事後指導での発表、討論を踏まえて総合的に評価する。</p>	

教職課程科目・教職に関する科目	
教育実習Ⅱ	小泉 健 長山 道
通年・3単位	<登録条件>
<p><授業のテーマ> 教育実習校での実習を中心として、学校教員の働きを実地に学ぶ。</p>	
<p><到達目標> 聖書科授業を行うための実践的教授力、指導力を身に着ける。その他の学校教員の職務について理解する。</p>	
<p><授業の概要> キリスト教学校で教育実習が行われる。学内では事前、事後の指導を行う。</p>	
<p><履修条件> 前年度に教育実習予備登録を済ませ、実習校から受け入れ通知を得ていること。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習事前指導 4月9日(月)9時～16時 教育実習の意義と心得、内容、生徒理解等について講義を行う。 2. 実習校での教育実習 3. 教育実習事後指導 11月26日(月)9時～16時 全員が教育実習の振り返りの報告をし、それに基づいて討論する。 報告すべき内容については、あらかじめ通知する。 <p>事前指導と事後指導を含む全体で本学の授業としての「教育実習」が構成されている。事前指導、事後指導を欠席すると、教育実習の単位そのものを取得できない。必ず出席すること。</p>	
<p><準備学習等の指示> 実習校での実習にあたっては、事前指導に基づいて適切に準備すること。 事後指導では報告の発表を求めるので、準備した上で授業に臨むこと。</p>	
<p><テキスト> 必要に応じてプリントを配布する。</p>	
<p><参考書> 特になし</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> 実習校からは「成績報告書」が送られてくる。そこでの評価を参考にしつつ、さらに事後指導での発表、討論を踏まえて総合的に評価する。</p>	